

平成 27 年度 病 院 年 報



三浦市立病院

三 浦 市 立 病 院 憲 章

基 本 理 念

三浦市立病院とその職員は、健康啓発、疾病の予防と治療、そして社会復帰に至るまでの医療全般にわたり、当院の持ち得る資源を最大限に活用して市民皆様に貢献します。

基 本 方 針

1 患者様中心の医療の実践

患者様の声を尊重し、相互の信頼関係に基づいた医療サービスを提供するとともに、患者様の医療に関する権利を確保します。

2 救急医療への対応

地域中核病院として本市救急医療体制の中心的役割を担います。

3 安全で安心な医療の推進

安全かつ安心して医療を受けられる環境を整備します。

4 医療技術の向上

常に適切な医療技術を提供します。

5 人材の育成・確保

病院職員としての倫理を遵守し、患者様の生命を尊重した安全で安心の医療を提供できる職員づくりに取り組みます。

6 地域連携の強化

地域医療機関と連携し、地域医療体制を強化します。

7 療養環境の向上

快適な入院生活が送れるよう、医療行為はもちろんその他の部分も含めてきめ細やかな対応を図ります。

8 経営改善と安定経営

公共性を確保するとともに、合理的かつ効率的な病院経営に努め、健全で自立した経営基盤を確保します。



はじめに

三浦市立病院総病院長 小澤幸弘

今年もまた1年を振り返り年報を発行する運びとなりました。

「三浦ならではの」地域医療の確立を理念に掲げ、自己完結型医療から地域完結型医療への転換をはかってまいりました。その診療体制を確立し、安定して継続させるために必要なものは人財であり、地域との連携です。

まずは、看護部長に嘉山静子を据え、看護部の体制を一新するところからはじめました。あらたに採用する看護師も10名にのぼり、うれしいことに今後の産休・育休が危惧される状況になってきました。残念ながら医師において増員はなく、医師確保の責務はまだまだ果たせていません。ひとつの光明は奈良県西和医療センターからの地域医療研修の医師の受入れが始まったことでしょう。年度末には奈良県西和医療センターとの病院相互連携に関する包括協定を締結し、幅広い人事交流を約束しました。

また、地域との連携に関しては、三浦市市制施行60周年事業として市民健康大学を開校したり、三浦市民健康大学オープンキャンパスを実施し予防医療の分野にも深く関与していきました。神奈川県立保健福祉大学の主導のもとシルバー産業の研究開発拠点整備事業である「三浦を元気にするリビングラボラトリー」にも参画しました。

そして、介護との連携を強化するためにも、全自病協および国診協が定める地域包括医療・ケア認定制度の認定施設、認定医7名、認定専門職7名の認定を受けることができました。今後の人材確保、多職種連携にも大きく寄与してくれるものと思っています。

くわえて、年度末に入ってきた朗報ですが、総務省が刊行した「公立病院経営改革事例集」に健全経営と良質な医療の確保の両立に成果を挙げている事例として20病院のひとつに三浦市立病院が取り上げられました。これは人数の足りない中、職員全員が努力し協力して経常損益を5年連続黒字化してきたご褒美であると思います。

心より職員一同に感謝するとともに今後の継続に対する重責を強く感じています。

今年もまた、「三浦ならではの」地域医療の確立に向けての三浦市立病院の軌跡として一読いただければ幸いです。

三浦市立病院年報（平成 27 年度） 目次

三浦市立病院憲章

はじめに

I 病院の概況	- 1 -
1 位置	- 1 -
2 沿革	- 3 -
3 施設の概要	- 8 -
(1) 土地・建物	- 8 -
(2) 設備	- 8 -
4 配置図	- 9 -
5 現況	- 12 -
6 施設基準	- 13 -
(1) 基本診療料	- 13 -
(2) 特掲診療料	- 13 -
7 組織及び職員配置状況	- 15 -
(1) 組織図	- 15 -
(2) 職員の状況	- 16 -
II 各科の活動状況	- 17 -
1 診療部	- 17 -
(1) 医局	- 17 -
(2) 内科	- 18 -
(3) 神経内科	- 20 -
(4) 外科	- 21 -
(5) 整形外科	- 24 -
(6) 産婦人科	- 27 -
(7) 眼科	- 29 -
(8) 小児科	- 31 -
(9) 耳鼻いんこう科	- 33 -
(10) 麻酔科	- 34 -
(11) 脳神経外科	- 35 -
(12) 泌尿器科	- 36 -
(13) 皮膚科	- 37 -
(14) 研修医	- 38 -
2 診療支援部	- 39 -

(1) 薬剤科.....	- 39 -
(2) リハビリテーション科	- 41 -
(3) 放射線科	- 48 -
(4) 臨床検査科.....	- 51 -
(5) 地域医療科.....	- 53 -
(6) 医療安全管理室	- 59 -
3 看護部	- 70 -
(1) 看護部.....	- 70 -
(2) 2階病棟	- 73 -
(3) 3階病棟	- 76 -
(4) 4階病棟	- 79 -
(5) 手術室.....	- 81 -
(6) 外来	- 84 -
(7) 看護教育室.....	- 87 -
4 事務局	- 96 -
(1) 総務課.....	- 96 -
(2) 医事課.....	- 98 -
(3) 栄養課.....	- 100 -
III 委員会の状況	- 102 -
1 三浦市立病院リスクマネジメント委員会	- 102 -
2 三浦市立病院感染対策委員会（I C C）	- 107 -
3 三浦市立病院褥瘡対策委員会.....	- 117 -
4 三浦市立病院接遇向上委員会.....	- 122 -
5 三浦市立病院N S T委員会	- 126 -
6 三浦市立病院C S向上委員会.....	- 130 -
7 三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会.....	- 136 -
8 三浦市立病院薬事委員会	- 140 -
9 三浦市立病院情報処理委員会.....	- 142 -
IV 経営状況	- 146 -
1 決算概要	- 146 -
(1) 経常収益比較.....	- 146 -
(2) 損益計算書.....	- 147 -
(3) 貸借対照表.....	- 148 -
2 三浦市立病院改革プラン及び実施状況	- 150 -
3 財務分析	- 155 -
V 各種統計資料	- 156 -

1	入院患者数実績	- 156 -
2	外来患者数実績	- 157 -
3	救急患者数実績	- 158 -
VI	スタッフ一覧.....	- 160 -
VII	編集後記.....	- 163 -

I 病院の概況

1 位置



※神奈川県ホームページ及びわが街がイトより画像転載

本市は、首都 60km 圏内にあたる三浦半島の最南端に位置し、三方を海に囲まれて気候温暖、農耕に適している。海岸線は 42.9km に及び、漁業のみならず、海洋レクリエーションなども盛んである。城ヶ島を天然護岸とし、昔から遠洋、近海及び沿岸漁業の基地として発展した全国的に有名な三崎漁港を有している。

市域面積	東西	南北	東経	北緯
32.16 k m ²	6.8 k m	9.4 k m	139° 37' 24"	35° 08' 27"

2 沿革

昭和26年	三崎町町議会にて、三崎町立国民健康保険病院の開設を議決する
昭和26年12月	初代院長 継 茂 就任
昭和27年 1 月	旧三崎町立伝染病院「南岬院」の建物を診療管理棟に増改築 病棟（30 床）新築工事着工
昭和27年 6 月	『三崎町国民健康保険直営病院』開設 内科・外科・産婦人科・眼科 4 科
昭和28年 2 月	第 2 病棟（28 床）看護婦宿舎（15 人）医師住宅（5 戸）新築工事着 工
昭和30年 1 月	『三浦市国民健康保険直営病院』と改称
昭和32年 2 月	第 3 病棟（35 床）伝染病棟（27 床）医師住宅（3 戸）新築第 1・第 2 病棟、看護婦宿舎増改築工事着工
昭和32年10月	小児科新設 5 科
昭和38年 5 月	基準寝具制度の実施
昭和38年 9 月	整形外科新設 6 科
昭和39年 4 月	『国民健康保険三浦市立病院』と改称
昭和39年10月	診療管理棟（鉄筋コンクリート地下 1 階、地上 3 階）新築工事着工
昭和40年 8 月	診療管理棟完成（完成後の病床数 一般 65 床、結核 18 床、伝染病 27 床、計 110 床）
昭和41年 6 月	国民健康保険三浦市立病院運営委員会設置
昭和42年 4 月	『三浦市立病院』と改称 地方公営企業法の財務規程を適用
昭和42年 9 月 1 日	未熟児指定養育医療機関となる
昭和43年10月	第 2 次整備事業として、病棟（地下 1 階、地上 3 階 150 床）伝染病 隔離病舎（27 床）看護婦宿舎（32 人）医師住宅 3 棟（10 戸）新築 工事着工
昭和44年10月	病棟・伝染病隔離病舎完成（完成後の病床数 一般 136 床、結核 14 床、伝染病 27 床、計 177 床）
昭和45年 3 月	看護婦宿舎、医師住宅完成
昭和47年 3 月	初代院長 継 茂 退職
昭和47年 4 月	初代院長 継 茂 名誉院長に就任 2 代院長 丸山 理一 就任
昭和47年 6 月	病院開設 20 周年記念行事実施
昭和49年	石油ショックによる人件費・材料費高騰、医療費改定の幅が小さく、 赤字増大する

昭和50年6月20日	三浦市救急医療体制「三浦方式」が発足し、当番制実施
昭和54年	病院事業経営健全化開始（5か年継続事業） 不良債務3億7,150万円の解消をはかる
昭和55年7月29日	救急指定病院 認可される
昭和55年12月1日	基準看護特2類 承認される（保険第3062号）
昭和56年4月1日	耳鼻いんこう科新設 7科
昭和56年5月1日	総合病院の認可（神奈川県指令医整第70号）
昭和57年4月1日	三浦半島広域病院群輪番制開始
昭和57年6月	開設30周年となる
昭和59年3月	病院事業経営健全化終了（5か年継続事業）
昭和59年9月3日	病院売店オープン
昭和60年9月	全身用C.T.設置される
昭和62年3月31日	名誉院長 継 茂 退任
昭和62年7月1日	三浦市立病院運営審議会設置
昭和62年10月19日	三浦市立病院運営審議会へ諮問「三浦市立病院の将来のあり方について」
昭和63年3月31日	2代院長 丸山 理一 退任
昭和63年4月1日	3代院長 五十嵐 捷介 就任
昭和63年7月	病棟に冷暖房機器整備される。
平成元年3月29日	三浦市立病院運営審議会より「三浦市立病院の将来のあり方について」 中間のまとめが報告される
平成元年4月1日	坂本理事就任
平成元年11月17日	病院の経営診断を実施し、経営診断等結果報告書及び経営改善事業計画策定に関する報告書が完了
平成2年1月8日	院内に病院改善推進委員会を設置
平成2年2月23日	三浦市立病院運営審議会より「三浦市立病院の将来のあり方について」答申される
平成2年4月1日	二次診療までを主体に救急24時間365日応需体制を開始する
平成2年5月25日	三浦市立病院運営審議会へ再諮問 「三浦市立病院の経営改善の進行について意見を伺う」
平成3年8月19日	三浦市立病院運営審議会より、「三浦市立病院の経営改善の進行について意見を伺う」中間のまとめが報告される
平成4年2月29日	病院の再整備計画を実施し、三浦市立病院再整備計画策定業務に関する報告書が完了
平成4年3月31日	看護婦宿舎1棟（6戸）完成
平成5年3月31日	三浦市立病院運営審議会より、「三浦市立病院の経営改善の進行に

	ついて意見を伺う」答申される
平成 5 年 12 月 2 日	三浦市立病院運営審議会へ諮問
	1 新病院建設までの間における、当面の現施設のリニューアル及び効率的な病院運営について意見を伺う
	2 新病院建設に向けてのプロセスについて意見を伺う（保健・福祉との連携、新病院建設場所の選定も含む）
	3 日常の病院経営・病院運営について審議会より常時建議して頂く
平成 7 年 3 月 10 日	付属棟完成
平成 7 年 3 月 23 日	坂本理事退職
平成 7 年 7 月 21 日	小児科外来を診療管理棟 3 階旧会議室に移転
平成 7 年 8 月 25 日	診療管理棟 2 階旧小児科に内科救急診療室及び内視鏡室新設
平成 7 年 11 月 29 日	三浦市立病院運営審議会より、平成 5 年 12 月 2 日付諮問に対する中間のまとめが報告される
平成 8 年 3 月 6 日	病院敷地内に三浦藤沢信用金庫現金自動設備及び附帯施設の整備
平成 8 年 4 月 1 日	神経内科新設 8 科
平成 8 年 12 月 2 日	病院へ京浜急行バスの運行
平成 9 年 12 月 5 日	C T 更新
平成 9 年 3 月 31 日	3 代院長 五十嵐 捷介 退任
平成 9 年 4 月 1 日	4 代院長 佐藤 實 就任
平成 9 年 4 月	整形外科・午後予約診療開始
平成 9 年 6 月	内科外来・膠原病の午後外来開始
平成 9 年 7 月	救急 24 時間 365 日応需体制の一部委託化（預り金制度廃止）
平成 9 年 9 月	薬局薬袋氏名のラベル化導入
平成 9 年 12 月	会計処理のシステム化（ポスシステム導入）
平成 10 年 2 月 10 日	三浦市立病院運営審議会より、「新病院建設に向けてのプロセスについて意見を伺う」答申される
平成 10 年 3 月	適時適温給食の開始
平成 10 年 3 月 31 日	4 代院長 佐藤 實 退任
平成 10 年 4 月 1 日	5 代院長 大塚 尚之 就任
平成 10 年 6 月 1 日	新看護 2.5 : 1（A）看補 6 : 1 採用
平成 10 年 8 月 14 日	耐震診断調査委託実施
平成 10 年 10 月 23 日	病院建替えに係る基本調査委託実施
平成 11 年 2 月 1 日	新看護 2 : 1（A）採用
平成 11 年 6 月	消化器、肝臓病の午後外来診療開始
平成 11 年 8 月	ペースメーカー移植術
平成 11 年 12 月	内科外来予約診療開始

平成12年 3 月	三浦市立病院基本計画策定
平成12年 4 月	医療相談室設置
平成12年 5 月	検体・検査管理加算（1）認可（検1）第86号
平成12年 7 月	S P D（診療材料）システム導入
平成12年11月	インフルエンザ予防接種出張接種（施設）
平成13年 3 月	院外処方箋発行へ移行（全科）
平成13年 5 月	内科に第5診療室を設置
平成14年 3 月	第1病棟休止
平成14年 5 月	ウィン号マイクロ無料送迎バスの運行開始
平成14年 7 月	人間ドック無料送迎サービスの運行開始
平成14年 9 月	新病院（地下1階、地上4階）新築工事着工
平成15年 3 月31日	5代院長 大塚 尚之 退任
平成15年 4 月 1 日	6代院長 五十嵐 俊久 就任
平成15年 5 月	小児救急試行開始
平成16年 3 月17日	新病院開院（免震構造、病床数136床） オーダーリング・システム導入
平成16年 4 月 1 日	リハビリテーション科新設 9科
平成16年 8 月16日	運営懇話会 発足
平成16年 9 月30日	新病院完成（地上4階地下1階、免震構造、病床数136床、駐車場 約170台分）
平成17年 2 月22日	ドクターヘリ・シミュレーション実施
平成17年 4 月 1 日	麻酔科新設 10科
平成17年 8 月25日	経営懇話会 発足
平成19年 3 月31日	6代院長 五十嵐 俊久 退任
平成19年 4 月 1 日	7代院長 小澤 幸弘 就任
平成20年 4 月 1 日	病院給食業務の民間委託開始
平成20年10月 1 日	脳神経外科新設 11科
平成21年 3 月	三浦市立病院改革プラン策定
平成21年 3 月 1 日	SPD システム業務委託開始
平成22年 4 月 1 日	地方公営企業法全部適用 総病院長（病院事業管理者） 小澤 幸弘 就任
平成22年 4 月	地域医療科設置
平成22年 5 月	訪問診療開始
平成23年 7 月	皮膚科新設 12科
平成23年 7 月	泌尿器科新設 13科
平成24年 1 月	来院者駐車場用地の貸付開始

平成25年 9 月	介護保険指定居宅サービス事業者及び指定介護予防サービス事業者の指定 訪問リハビリテーション開始
平成25年10月	入院患者対象土曜リハビリテーション開始
平成25年10月 1 日	16 列型マルチスライスCTへ更新
平成26年 1 月13日	電子カルテシステム導入
平成26年 3 月15日	「在宅看取りを考える」シンポジウム開催
平成26年 4 月 1 日	医療安全管理室設置
平成26年 6 月22日	レスパイト健診開始
平成26年 9 月 1 日	地域包括ケア病棟 24 床開始
平成27年 1 月 1 日	横須賀共済病院、衣笠病院、聖ヨゼフ及び三浦市立病院による四病院連携会議発足
平成27年 3 月 7 日	「在宅療養を考える集い」シンポジウム開催
平成27年 3 月27日	タブレット端末により、院外にあって電子カルテシステムにアクセスする訪問診療等電子カルテ参照・記入システム導入
平成27年10月 4 日	三浦市民健康大学を 12 月まで開催
平成28年 3 月 5 日	「在宅療養を考えるつどい～地域で支える在宅療養を考える～」シンポジウム開催
平成28年 3 月10日	地域包括医療・ケア認定施設の認定
平成28年 3 月20日	三浦市民健康大学オープンキャンパス開催
平成28年 3 月27日	奈良県西和医療センターとの病院相互連携に関する包括協定締結
平成28年 3 月31日	デジタルラジオグラフィーへ更新
平成28年 3 月31日	総務省が作成する「公立病院経営改革事例集」に当院の事例が掲載

3 施設の概要

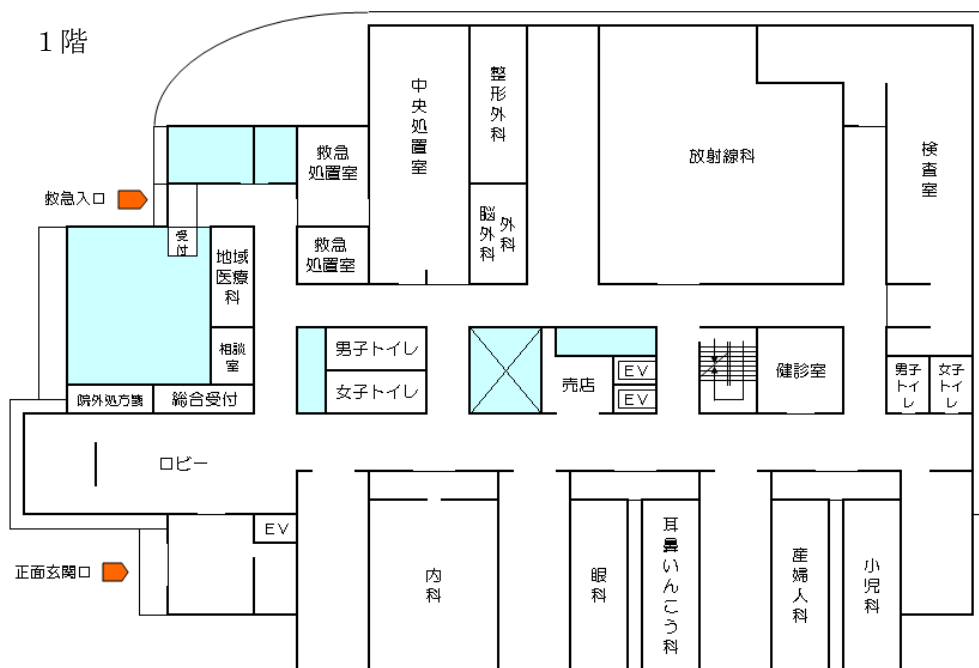
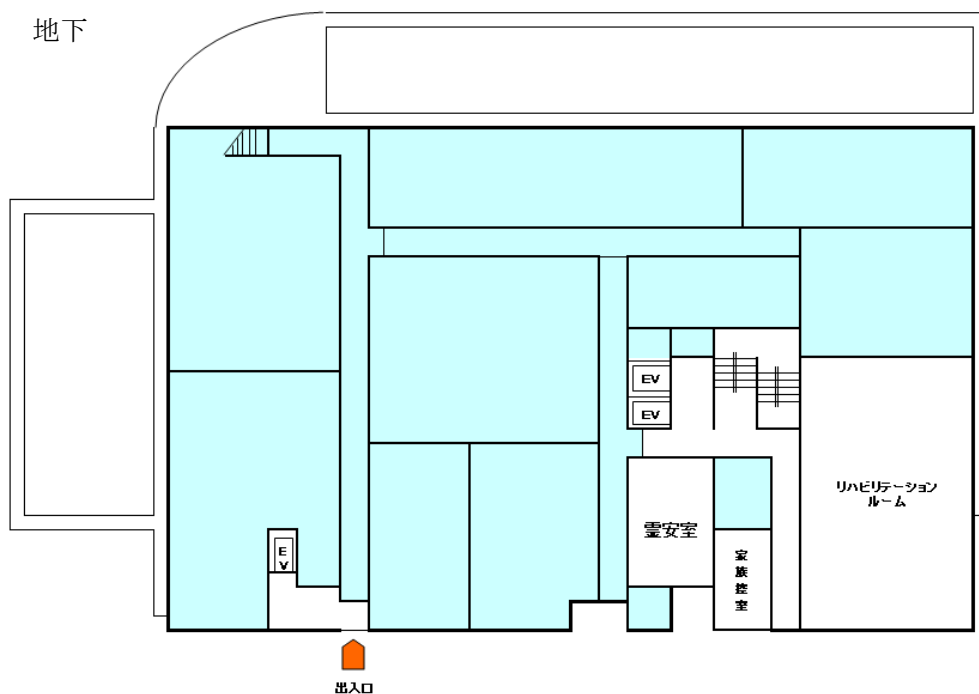
(1) 土地・建物

＜土地＞	13,756.53 m ²
＜建物＞	3,080.96 m ²
病院（地下1階、地上4階、免震構造）	2,870.32 m ²
キャノピー（1）	92.89 m ²
キャノピー（2）	12.98 m ²
ブロー室（地上1階）	15.91 m ²
マニホールド室（地上1階、空気機械室）	18.80 m ²
付属棟（地上2階、作業室、図書室）	70.06 m ²

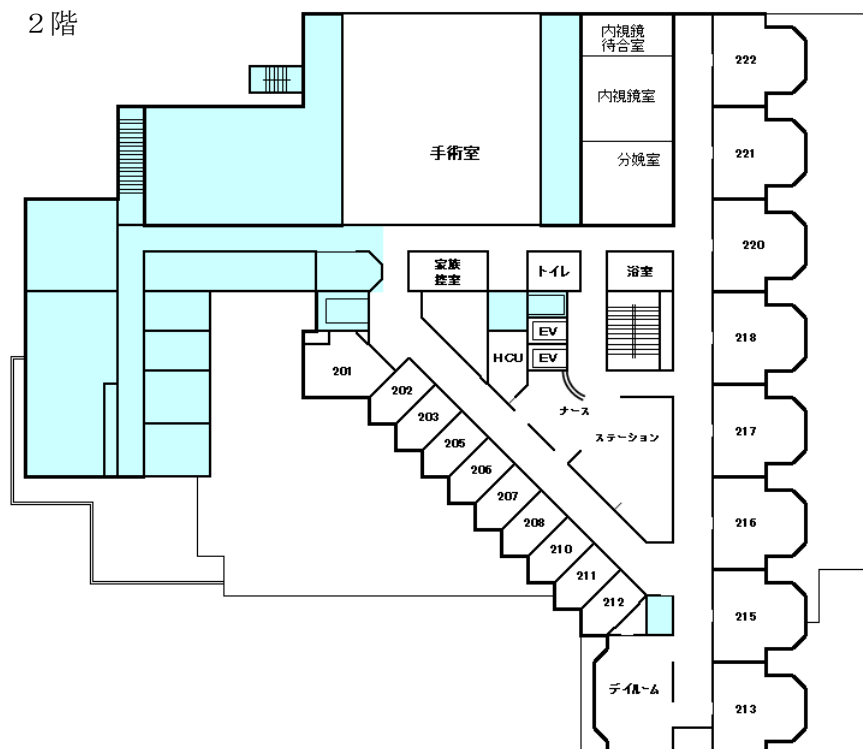
(2) 設備

＜電気設備＞	845KW 受電、負荷容量 2,000KVA
＜蓄電池設備＞	10 分間蓄電池
＜無停電設備＞	瞬断バックアップ方式（手術室、HCU、乳児室）
＜弱電設備＞	インターホン、ナースコール、ITV 設備、TV 共聴設備電気時計設備、院内 LAN
＜電話設備＞	蓄積プログラム方式、一般内線 162 台、院内 PHS72 台、ナースコール対応 PHS12 台
＜自家用発電機＞	自動始動発電機、開放保護形自己通風三相交流発電機 500 KVA カスタムエンジン発動機、単純開放サイクル軸式、自己空冷式、灯油、燃料、燃料オイルタンク 30,000ℓ
＜消火設備＞	消火器設備 10 型 40 箇所、20 型 6 箇所、スプリンクラー設備、特殊消火設備電気室、発電機室、ボイラー室
＜医療ガス設備＞	酸素、笑気、窒素、圧縮空気、吸引、余剰ガス排出
＜昇降機設備＞	5 基（寝台用 3 基、乗用 1 基、配膳・荷物用 1 基）
＜給水設備＞	上水入水槽 55 m ³ 、雑用水入水槽 144 m ³ 、緊急用浄水ろ過装置
＜自動火災報知設備＞	自動火災報知設備、防火扉閉鎖設備、ガス漏れ警報設備
＜空調設備＞	冷暖房、水熱源ヒートポンプシステム（補助熱源貫流ボイラー） ファンコイルユニット 188 基、パッケージ方式 55 基
＜消毒設備＞	オートクレーブ 2 基、簡易滅菌装置 3 基
＜給排水衛生設備＞	給水設備、給湯設備、浄化槽設備
＜免震設備＞	南関東地震対応、国土交通大臣認定 鋼材型ダンパー 3 基・鉛ダンパー 6 基・オイルダンパー 12 基

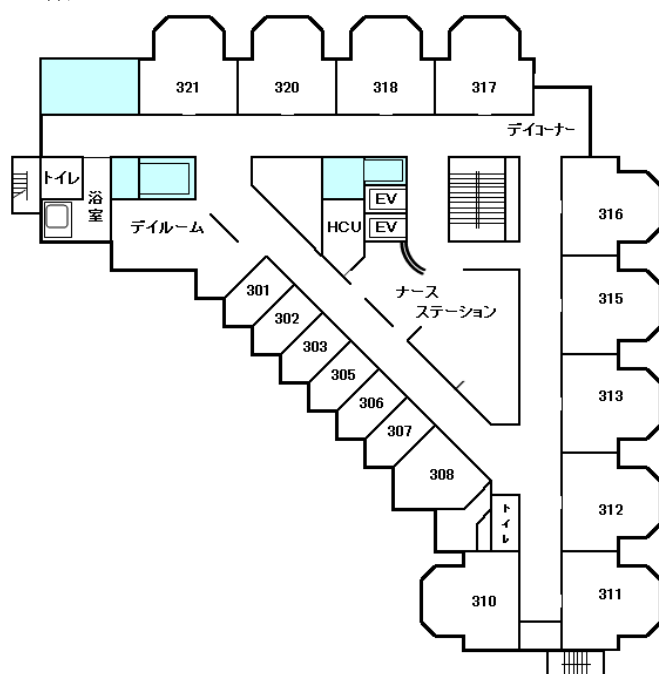
4 配置図

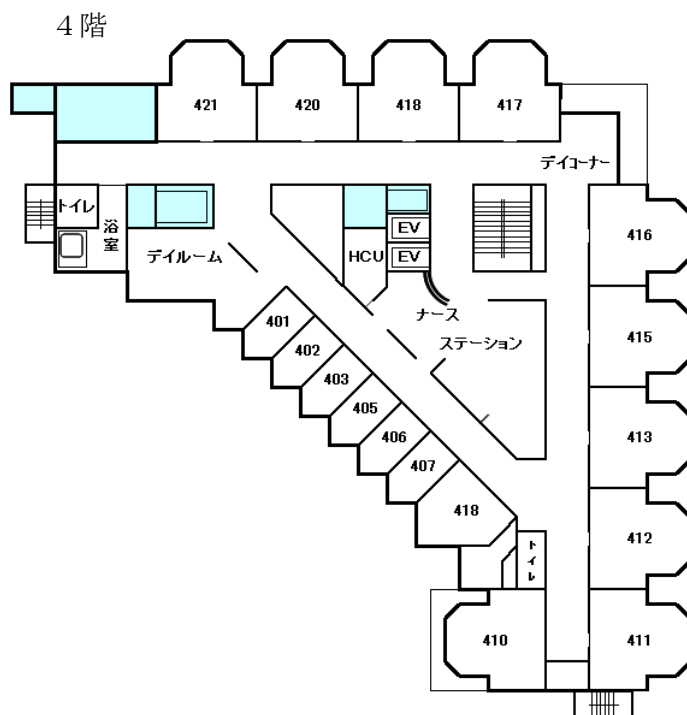


2階



3階





5 現況

施設名	三浦市立病院
開設者	三浦市長 吉田 英男
管理者	総病院長 小澤 幸弘
所在地	神奈川県三浦市岬陽町4番33号
開設年月日	昭和27年6月4日
診療科目	13科（内科、神経内科、外科、整形外科、産婦人科、眼科、小児科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、麻酔科、脳神経外科、泌尿器科、皮膚科）
病床数	一般病床 136 床
地方公営企業法全部適用	平成 22 年 4 月 1 日
敷地面積	13,756.53 m ²
建物面積	建築面積 3,080.96 m ² 延べ床面積 9,349.56 m ² （付属棟 136.08 m ² 含む）
指定等	保険医療機関、生活保護法指定医療機関、結核予防法指定、労災指定、船員保険法指定、救急告示病院、身体障害者福祉法指定医、母体保護法指定医等

6 施設基準

平成 28 年 3 月 31 日現在

(1) 基本診療料

一般病棟入院基本料 (10 対 1)
急性期看護補助体制加算 (50 対 1)
一般病棟看護必要度評価加算 2
救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
診療録管理体制加算 2
医師事務作業補助体制加算 2 (50 対 1)
療養環境加算
退院調整加算
地域包括ケア病棟入院医療管理料 I
看護補助者配置加算 (25 対 1)
データ提出加算 1
感染防止対策加算 (1)
感染防止対策地域連携加算
救急搬送患者地域連携受入加算
患者サポート体制充実加算
医療安全対策加算 1
地域加算 6 級地
病棟薬剤業務実施加算

(2) 特掲診療料

がん性疼痛緩和指導管理料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
H P V 核酸検出及び H P V 核酸検出 (簡易ジェノアタイプ判定)
検体検査管理体制加算 (I)
検体検査管理体制加算 (II)
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料 (II)
運動器リハビリテーション料 (I)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術
輸血管理料及び輸血適正使用加算

在宅療養支援病院（「第 14 の 2」の 1 の（1）に規定する在宅療養支援病院〔機能強化〕）

在宅時医学総合管理料及び特定施設入居時等医学総合管理料

在宅がん医療総合診療料

病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に対する体制

遠隔画像診断による写真診断（送信側）

コンタクトレンズ検査料（Ⅰ）

糖尿病合併症管理料

がん患者カウンセリング料

外来リハビリテーション診療料

夜間休日救急搬送医学管理料

喘息治療管理料

糖尿病透析予防指導管理料

院内トリアージ実施料

C T 撮影及びMR I 撮影

人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算

地域連携診療計画退院時指導料Ⅰ

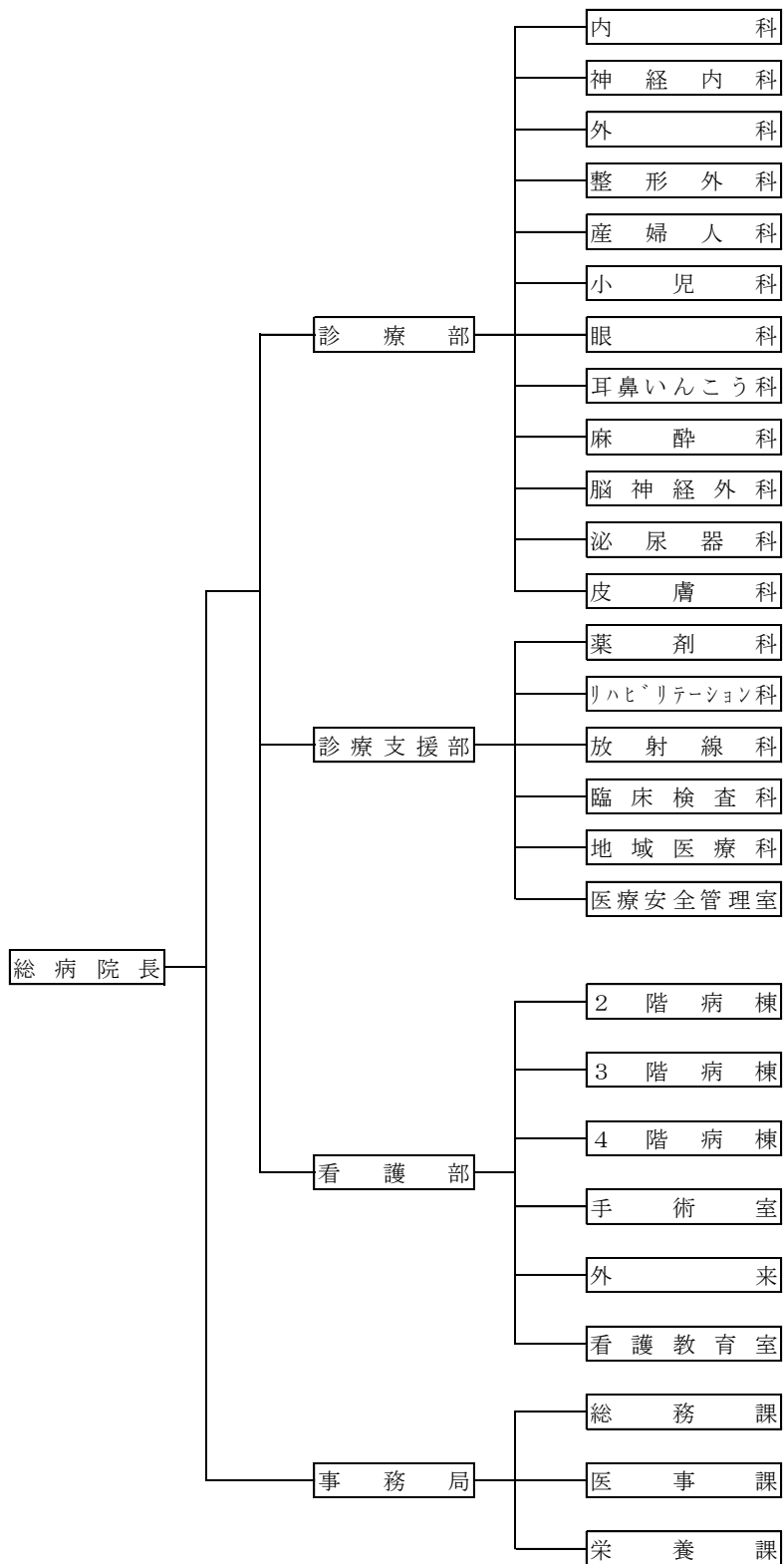
地域連携診療計画退院時指導料Ⅱ

胃瘻造設術

造血管腫瘍遺伝子検査

7 組織及び職員配置状況

(1) 組織図



(2) 職員の状況

(単位：人)

職 名	平成 26 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数	平成 27 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数	平成 28 年 3 月 31 日 現 在 職 員 数
管 理 者	1	1	1
医 師	14	13	13
看 護 師 准 看 護 師	(1) 79	(1) 80	(1) 79
医 療 技 術 員	29	30	29
事 務 員	10	9	9
そ の 他	(1) 0	(0) 0	(0) 0
計	(2) 133	(1) 133	(1) 131

() は、外書きで、再任用短時間勤務職員

Ⅱ 各科の活動状況

1 診療部

(1) 医局



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

医局内の人事は、外科に異動があり佐々木一嘉先生が退職され、川邊泰一先生が赴任された。その他は変更はなかった。

(2) 業務実績

区分	H23	H24	H25	H26	H27
内科	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真	齊藤 真
	来田 亮二	来田 亮二	来田 亮二	来田 亮二※	兒玉 康史
	兒玉 康史	兒玉 康史	兒玉 康史	兒玉 康史	堀内 俊治
	堀内 俊治	堀内 俊治	堀内 俊治	堀内 俊治	森 琢磨
	森 琢磨	森 琢磨	森 琢磨	森 琢磨	
(地域医療科)	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末	兒玉 末
外科	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一	木谷 勇一
	鈴木 誠	和田 博雄	和田 博雄	佐々木一喜	和田 博雄
	和田 博雄	青山 徹	青山 徹	和田 博雄	川邊 泰一
整形外科	内川 健	内川 健	内川 健	内川 健	内川 健
	石田 良太	石田 良太	石田 良太	石田 良太	石田 良太
小児科	欠	五味渕一三	五味渕一三	五味渕一三	五味渕一三
眼科	望月 至	望月 至	望月 至	望月 至	望月 至
産婦人科	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰	大庭 信彰
麻酔科	欠	欠	欠	欠	欠

※H26.11.30 退職

(2) 内科



医長 齊藤 真

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア 外来診療

午前は新患及び予約のない再診外来と予約一般外来を行っている。午後の外来は主に専門医による専門外来を行っている。平成 27 年度は引き続き循環器外来、呼吸器外来、糖尿病外来及び健診結果外来を設け診療にあたった。

イ 入院患者の疾患分類

平成 27 年度の入院患者数は前年度に比べ減少した。当院の特徴として、入院患者の半数以上が高齢者であるため、肺炎の入院頻度が他の地域と比べて極端に多くなっている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

(ア) 業務実績

平成 27 年度は平成 26 年度に比べ外来患者数が減少した。今後も専門外来に力を入れ、様々な疾患に対応していきたい。

(イ) 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 26 年度	平成 27 年度
外来	37,178	33,090

イ 入院患者

(ア) 業務実績

平成 27 年度は平成 26 年度と比べ入院患者数が減少した。肺炎の入院頻度が他の地域と比べて極端に多いので、疾患分類に対応した診療をしていきたい。

(イ) 入院患者

(単位：人)

区分	平成 26 年度	平成 27 年度
入院	22,737	20,853

(3) 神経内科



○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

当院では毎週月曜・火曜・木曜・金曜日の午後に横浜市立大学の応援を得て、パーキンソン病、脳血管疾患及び神経難病の患者の診療にあたっている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 27 年度の外来患者数は 1,986 人、平成 26 年度の外来患者数は 1,950 人、平成 25 年度は 2,007 人であった。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
外来	2,007	1,950	1,986

(4) 外科



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア スタッフ

平成 27 年度は佐々木一嘉先生（平成 4 年卒）が異動され、川邊泰一先生（平成 19 年卒）が神奈川県立がんセンター消化器外科より赴任された。

川邊泰一先生は上部消化器外科を得意とされ、更には画像診断にも精通され、当科の診断治療の向上に貢献して頂いた。また電子カルテ等でパスの作成にも寄与して頂いた。

イ 診療範囲

前年度同様、頸よりつま先までの範囲で（心臓手術を除く。）、年齢・体重に関係なく、術前診断、手術、術後管理、抗癌剤を含めた後療法を適応があれば診療する基本方針は崩していない。当院の特色としては、診断がついた患者を初診とするのではなく、主訴から診断をつけることから始まることが多いことである。

(2) 業務実績

ア 年度別外科手術件数

(単位:件)

区分	術式	平成25年度	平成26年度	平成27年度
甲状腺	甲状腺切除	0	1	1
	甲状腺切除+頸部リンパ節廓清	0	0	0
	頸部リンパ節廓清	0	0	0
乳腺	Bt+Ax	10	5	5
	Bp+Ax	1	1	2
	Bp	2	2	3
	Bt	0	2	0
	乳腺腫瘍生検	6	5	4
肺	開胸肺葉切除	0	0	0
	開胸肺部分切除	0	0	0
	開胸ブラ切除	0	0	0
	胸腔鏡下肺部分切除	0	0	0
	胸腔鏡下ブラ切除	1	0	1
食道	胸部食道切除術	2	0	0
	食道バイパス術	0	0	0
	アカラシア手術	0	0	0

(単位:件)

区分		術式	平成25年度	平成26年度	平成27年度
胸壁		胸壁腫瘍摘出術	0	0	0
胃		幽門側胃切除	6	5	2
		胃全摘術	1	4	4
		単開腹	0	0	0
		残胃全摘	1	0	0
		胃空腸吻合	0	0	0
		局所切除	0	1	0
		腹腔鏡審査	0	0	1
十二指腸潰瘍穿孔		穿孔部閉鎖、大網被覆	0	1	0
		Nissen噴門形成術	0	1	1
肝癌		経皮ラジオ波焼灼術	0	0	0
		開腹ラジオ波焼灼術	0	0	1
		区域切除	0	0	1
		葉切除	0	0	0
		腹腔鏡下肝嚢胞開窓術	0	1	0
胆管		総胆管切除	0	0	0
		肝管空腸吻合術	1	0	0
		腹腔鏡下胆嚢摘出術	5	8	8
		開腹胆嚢摘出術	3	6	3
		総胆管結石採石術	0	7	1
脾		幽門輪温存脾頭十二指腸切除術	0	1	0
		脾体尾部切除	0	2	2
小腸		イレウス解除術	0	5	3
		小腸部分切除	1	2	6
		腸吻合・腸縫合	0	3	1
結腸		結腸切除	10	21	18
		腹腔鏡補助下結腸切除	0	0	0
		人工肛門造設	2	2	2
		人工肛門閉鎖	0	0	2
虫垂		虫垂切除	3	8	1
		腹腔鏡下虫垂切除	0	5	0
直腸		高位前方切除	1	1	1
		低位前方切除	0	2	5
		直腸切断術	5	5	2
		ハルトマン手術	1	2	1
		経肛門的切除	1	2	3
		Gant-三輪法	0	0	0
		痔核根治術	0	0	2
腹腔内腫瘍		腫瘍摘出	0	0	0
後腹膜腫瘍		単開腹	0	0	0
腸間膜腫瘍		腹腔鏡下腫瘍摘出術	0	0	0
ヘルニア	(鼠径)	鼠径ヘルニア根治術	29	32	30
	(大腿)	大腿ヘルニア根治術	1	0	1
	(小児鼠径)	小児鼠径ヘルニア根治術	1	1	2
	(臍)	臍根治術	0	0	0
	(腹壁癒痕)	腹壁癒痕ヘルニア根治術	0	2	1
	(閉鎖孔)	閉鎖孔ヘルニア根治術	1	0	0
体表		植皮	0	2	0
		皮下埋め込み型CVポート設置	11	16	23
		リンパ節生検	1	4	2
		皮下腫瘍	3	3	11
その他		その他	1	3	2

イ 年度別外科インターベンション数

(単位:件)

区分	術式	平成25年度	平成26年度	平成27年度
EMR	食道癌	0	1	0
	胃癌	8	3	2
	胃良性	0	0	0
	大腸癌	11	5	7
ステント	食道ステント	0	4	1
	十二指腸ステント	1	1	2
	胆道ステント	0	2	4
	大腸ステント	0	0	0
	経肛門的イレウス管	0	0	4
経皮経肝ドレナージ	PTCD	4	6	7
	PTGBD	1	1	1
	PTAD	0	0	1
	肝嚢胞ドレナージ	2	2	0
血管造影	腹部血管造影	1	0	0
	TACE	4	2	0
	TAI	3	1	1
食道静脈瘤	食道静脈瘤EVL	1	1	1
	食道静脈瘤硬化療法	0	4	1
内視鏡的ブジー	GF バルーンブジー	4	0	3
	CFバルーンブジー	1	1	1
その他内視鏡的治療	PEG	0	4	7
	GF止血術	4	1	1
	GF APC止血術	0	0	0
	GF エタノール注入	0	0	1
	GF異物除去	1	3	3
	CF異物除去	0	0	0
	S状結腸捻転解除	2	2	1
	ERCP/EST	7	10	19

(5) 整形外科



科部長 内川 健

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

三浦市立病院整形外科は医師 2 名にて外来診療、病棟業務、救急対応及び手術を行っている。ひとつひとつのことを丁寧に確実に誠意をもって診療にあたりたいと考えている。

平成 27 年度も大きな事故なく、無事に仕事をする事ができたのも病院の方々のおかげと感謝している。

(2) 業務実績

ア 手術実績

(単位：件)

区分	計
骨折観血の手術（下腿）	16
骨折観血の手術（大腿）	35
(時)骨折観血の手術（大腿）	2
骨折観血の手術（前腕）	13
骨折観血の手術（上腕）	2
骨折観血の手術（足）	4
骨折非観血の整復術（上腕）	5
(休)骨折非観血の整復術（上腕）	1
骨折非観血の整復術（前腕）	14
(幼)骨折非観血の整復術（前腕）	1
(休)骨折非観血の整復術（前腕）	2
(深)骨折非観血の整復術（前腕）	1
関節脱臼非観血の整復術（肩）	2
(時)関節脱臼非観血の整復術（肩）	1
関節脱臼非観血の整復術（肘）	1
(幼)関節脱臼非観血の整復術（肘）	1

(単位：件)

区分	計
(幼)関節脱臼非観血的整復術（肘）	1
(時)関節脱臼非観血的整復術（股）	1
(幼)関節脱臼非観血的整復術（小児肘内障）	1
(幼)(時)関節脱臼非観血的整復術（小児肘内障）	2
顎関節脱臼非観血的整復術	1
アキレス腱断裂手術	1
鋼線等による直達牽引	3
(深)鋼線等による直達牽引	1
難治性骨折電磁波電気治療法（一連につき）	3
手根管開放手術	1
足底異物摘出術	1
骨内異物（挿入物）除去術（上腕）	2
骨内異物（挿入物）除去術（前腕）	5
骨内異物（挿入物）除去術（下腿）	10
骨内異物（挿入物）除去術（膝蓋骨）	2
骨内異物（挿入物）除去術（足）	1
陥入爪手術（簡単なもの）	1
腱鞘切開術（指）	1
靱帯断裂縫合術（指（手，足））	1
骨折観血的手術（膝蓋骨）	1
骨折経皮的鋼線刺入固定術（前腕）	5
骨折経皮的鋼線刺入固定術（足）	3
骨折非観血的整復術（手）	1
関節内骨折観血的手術（膝）	1
関節内骨折観血的手術（肘）	1
関節内骨折観血的手術（足）	2
観血的関節授動術（肘）	1
人工骨頭挿入術（股）	16
骨折経皮的鋼線刺入固定術（指（手，足））	1
腱縫合術（切創等の創傷により）	6
関節鏡下関節滑膜切除術（膝）	1
観血的整復固定術（インプラント周囲骨折に対するもの）（大腿）	2

(単位：件)

区分	計
超音波骨折治療法（一連につき）	3
骨移植術（軟骨移植術を含む）（同種骨移植）（非生体）	1
骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家骨・非生体同種骨及び人工骨移植の併施）	1

イ 患者数実績

(単位：人)

区分	一日平均患者数	合計
外来患者数	112	27,305
入院患者数	37	13,545

(6) 産婦人科



科部長 大庭 信彰

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア 外来診療

平日午前中は新患・一般外来・ドック検診を行っている。火曜・金曜の午後は市がん検診を、それ以外の午後は予約患者の診療を行っている。週末は毎月第 2 土曜日午前中に子宮がん検診を行っている。

年間 12～14 日間院外で行われる市の集団健診や、市内介護施設入居者の健診、流行シーズン到来前の成人ワクチン接種も当科医師が担当している。常勤医師一人の診療体制なので、その日は午前中の婦人科外来を閉じている。

イ 骨盤臓器脱

骨盤臓器脱は加齢による骨盤底支持組織の支持力低下と、分娩時に負う靱帯などの損傷の蓄積により、多産・高齢者に発症する傾向が高い疾患である。治療は手術と器具による保存療法があり、当科受診者の多くは後者を希望される。保存療法でも器具のサイズを適正に調整するとかなりの割合で支障なく生活できるようになり喜ばれる。しかし農家の作業（大根抜き、スイカ運び）などで腹圧の負荷が強い場合には十分には耐えられないこともある。これは手術治療を行っても基本的には同様で、通常の生活には支障なくても、過大な腹圧には要注意であるのが現在の治療法の限界といえる。

(2) 業務実績

ア 子宮がん検診業務

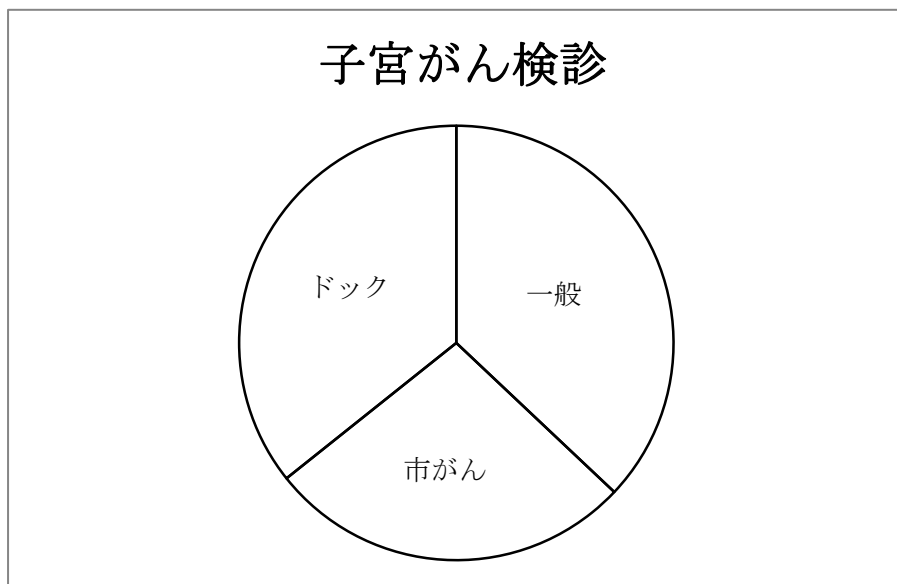
(ア) 業務実績

平成 27 年度の子宮がん検診受診者は 756 人であった。総数では前年度の 714 人より増加している。内訳では、一般健診受診者数は微増、市がん検診は減少したが、ドック受診者数が増加したため総数は増えた。

(イ) 分類

	人数	
一般	280 人	そのうち体がん検査も受けた人=50%

市がん	206 人	そのうち体がん検診も受けた人＝58%
ドック	270 人	そのうち体がん検診も受けた人＝58%



(7) 眼科



医師 望月 至

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア 外来診療

電子カルテ導入 2 年目となり、外来診療における作業効率が向上し、地域との連携を更に深めることが可能となった。

イ 手術

白内障手術が主体となっている。手術顕微鏡が新規なものとなり、手術時間短縮、患者の満足度向上に繋がった。

(2) 業務実績

ア 外来業務

(ア) 外来患者数

外来患者数は減少傾向である。理由として、昨年同様、待ち時間が長いため、受診を危惧してしまう事が、考えられる。平成 28 年 3 月より視能訓練士が不在となるが、抜本的な診療体系の改革をし、医療提供の質を保ちつつ、待ち時間を減らすことが、今後の課題である。

入院患者数は減少傾向にある。理由として、外来患者数の減少が、予想される。

前述同様、待ち時間を減らすことが、今後の課題である。

(イ) 入院・外来患者数

(単位：人)

区分	平成 26 年度	平成 27 年度
外来	6,901	6,477
入院	159	134

イ 手術業務

(ア) 白内障手術件数

手術件数は減少傾向である。理由として、やはり外来患者数の減少が、予想

される。手術顕微鏡が新規なものとなったため、白内障手術時の術中合併症の減少及び術後の満足度の更なる向上が得られる。前述同様、待ち時間を減らし、白内障手術希望者を獲得する事が、今後の課題である。

(イ) 手術件数

(単位：件)

区分	平成 26 年度	平成 27 年度
白内障手術	434	342

(8) 小児科



科部長 五味渕 一三

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア 外来業務

平成 24 年 4 月、小児科常勤医として、五味渕が着任。今までの診療体制を引き継ぎ、午前中は一般外来、午後は予約外来として、月曜日及び木曜日はぜんそく外来、火曜日及び水曜日は予防接種外来を行っている。また、行政機関の依頼による結核接触者健診並びに福島県外避難者県民健康管理調査も受諾している。

イ 地域との連携

現在、常勤医 1 名であり、小児の入院受入れは行っていないため、周辺の医療施設との連携が必須となる。そこで、市内の医院からの患者紹介を受け、そこで入院適応のある場合には、横須賀市立市民病院、横須賀市立うわまち病院、神奈川県立こども医療センター、横浜市立大学付属病院などに紹介するようにしている。

また、平成 26 年 9 月に第一回三浦半島周産期懇話会が横須賀市立うわまち病院で開催され、当該地域における周産期医療の現状と課題について話し合いが行われた。当院では現在分娩は行っていないが少子化対策における地域の取組に協力していく次第である。

(2) 業務実績

ア 院外活動

(ア) 業務実績

院外活動として、三浦市の児童虐待対策や乳児健診などにも携わっている。特に児童虐待対策については、神奈川県、鎌倉保健福祉事務所三崎センター、三浦市の児童虐待対策会議に参加している。児童虐待対策は、早期発見が重要な社会的な課題であるため、今後は地域で児童虐待対策チームなどを立ち上げ、活動していく必要性を感じている。

(イ) 業務実績

近年は、医療の進歩などにより、慢性疾患の子どもたちが、思春期～成人期を迎えることも多くなったため、小児科から成人診療科への継続的な移行が必

要である。そこで、どうすれば、患者が安心して、小児科から成人診療科へ移行できるのか？この疑問を解決する糸口として、週一回の内科初診外来を担当して2年あまりになった。小児と成人では、診療への考えが異なることを経験し、現在は、小児から成人へと成長していく患者たちを継続して診療することに非常に役立っている。このような機会を与えてくれた病院と診療面で、大変お世話になっている内科医師をはじめ、関連のスタッフのみなさんに、この場を借りて深謝したい。

(9) 耳鼻いんこう科



○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・火曜・水曜・木曜日の午後に横浜市立大学及び横須賀共済病院の応援を得て、耳鼻いんこう科外来を実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

外来患者数は、平成 25 年度は 4,205 人、平成 26 年度の外来患者数は 3,490 人、平成 27 年度は 3,098 人であった。平成 25 年度から平成 27 年度にかけて外来患者数は減少した。今後も、患者から信頼される診療をしていきたいと思う。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
外来	4,205	3,490	3,098

(10) 麻酔科



○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・火曜・水曜・金曜日の午後に横須賀共済病院、横浜労災病院及び横浜南共済病院の応援を得て、麻酔科を実施している。手術前の患者に手術の説明から術中覚醒までの麻酔管理を行っている。

(2) 業務実績

ア 平成 27 年度麻酔実施状況

平成 27 年度は局所麻酔の件数が 391 件、全身麻酔が 169 件、全麻・硬麻は 58 件、腰椎麻酔が 10 件、硬膜外 0 件、伝達麻酔 0 件という実績であった。

イ 麻酔件数表

(単位：件)

区分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
全麻・硬麻	4	6	7	8	2	7	5	5	4	5	2	3	58
全身麻酔	16	13	18	15	14	9	16	17	18	12	6	15	169
硬膜外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腰椎麻酔	1	1	1	0	2	0	1	1	1	1	1	0	10
伝達麻酔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
局所麻酔	35	52	48	37	13	23	28	42	27	22	35	29	391
計	56	72	74	60	31	39	50	65	50	40	44	47	628

(11) 脳神経外科



○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

当院では、毎週水曜・金曜日の午後に、横須賀共済病院の応援を得て、脳神経外科外来を実施している。また脳ドックの読影についても実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

外来患者数は平成 25 年度 1,706 人、平成 26 年度 1,700 人、平成 27 年度 1,695 人であった。平成 26 年度から平成 27 年度にかけて外来患者数は減少した。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
外来	1,706	1,700	1,695

(12) 泌尿器科



○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

当院では、毎週月曜・木曜日の午後に、横須賀共済病院の応援を得て、泌尿器科外来を実施している。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 25 年度から平成 26 年度にかけては外来患者数は減少した。平成 26 年度から平成 27 年度にかけては外来患者数は増加した。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
外来	2,317	2,431	2,441

(13) 皮膚科



○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

当院では、毎週火曜日・金曜日午後に横須賀共済病院の応援を得て、皮膚科外来を実施している。また、病棟における入院患者の皮膚疾患管理も担っている。

(2) 業務実績

ア 外来業務

平成 26 年度の外来患者数は 2,311 人で、平成 27 年度の外来患者数は 2,568 人であった。平成 27 年度は皮膚科外来が始まって 5 年目であり、前年度に引き続き外来患者数も増加した。今後も三浦市ならではの診療ができるようにしていきたいと思う。

イ 外来患者数

(単位：人)

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
外来	1,898	2,311	2,568

(14) 研修医



診療部長 木谷 勇一

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

平成 27 年度から奈良県の西和医療センターよりの 1 名の研修医の派遣が開始となった。また横須賀共済病院より 14 名、横浜市大病院より 3 名の研修医が来院された。当院での研修目的は地域医療であるが、来院された研修医の方々は、三浦半島における地域医療を十分学ばれ、更にプラスアルファの知見を得て帰られたと考えている。

(2) 平成 27 年度研修医一覧

平成 27 年度	萩原 真斗	三橋 耕平		
	以上横浜市立大学より			
	相澤 圭洋			
	以上横浜市立大学附属市民総合医療センターより			
	矢野 優太			
	以上奈良県西和医療センターより			
	藤本 章博	星野 亜紗子	大矢 浩貴	青山 慧
	田尻下 紘直	井上 玲	阿部 奈々	南 ひろこ
	岡田 理沙	小野瀬 祐太	藤原 俊	中田 智明
	住友 沙織	北嶋 達也		
	以上横須賀共済より			

2 診療支援部



(1) 薬剤科

科長（H28. 3. 31 現在） 猪崎 佐和子

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア 病棟薬剤業務加算算定

平成 26 年度から職員の 1 名増員により、これまで積み重ねてきた病棟での情報提供や持参薬管理業務等が診療報酬として加算となり、月平均 521 件、521,000 円の算定となった。

イ 院内医薬品在庫管理

棚卸資産減耗費として計上する、医薬品の期限切れ、破損及び指示変更による廃棄はここ数年、毎年十数パーセントの削減となり経費削減に繋がっている。これは SPD の日々の努力によるものである。今年度も引き続き、各科定数配置薬の品目、数量の見直しを図り、更なる在庫管理を進めていく所存である。

ウ 6 年生薬学生実務実習（11 週間）

今年度は受け入れをしなかったが、平成 28 年度は 1 名受け入れる予定である。当院では実施していない業務においては他の医療機関の協力をいただいている現状であるが、薬学生を指導することにより職員の更なる知識及び技術の向上並びに意識改革に繋がっていると考える。

(2) 業務実績

ア 調剤業務

区分	処方箋枚数			調剤数		院外処方
	外来		入院	外来	入院	疑義照会
	院内処方	院外処方				件数
年間	2,364	59,631	18,093	3,905	47,795	3,315

※電子カルテの導入により、屯用処方箋は廃止となった。

イ 薬剤管理指導業務

区分		内科	外科	整形外科	産婦人科	眼科	小児科	耳鼻科	計
服薬指導患者数		111	261	185	0	0	0	0	557
総服薬指導件数		169	359	399	0	0	0	0	927
算定件数	380 点	118	203	217	0	0	0	0	538
	325 点	83	119	182	0	0	0	0	384
麻薬加算件数									82
退院時薬剤情報加算件数									213

ウ 注射剤混合業務

区分	無菌調剤処方件数		無菌調整件数（中心静脈）	調整本数
年間	2,465		1,797	2,047
	化学療法	入院	124	206
	調整	外来	0	

エ 麻薬管理業務

区分	処方箋枚数		
	内服	外用	注射
年間	194	102	1,899

オ 血液製剤管理業務

区分	件数
年間	16

カ 院内製剤業務

区分	件数
年間	149

キ 持参薬管理業務

区分	件数
年間	1,641

(2) リハビリテーション科



技師長 清水 隆人

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア スタッフ数の変遷について

平成 27 年度は、理学療法士 12 名（うち産前・育児休暇 1 名、非常勤職員 1 名）、作業療法士 3 名での開始となった。7 月より理学療法士の産前・育児休暇が 1 名あり、8 月・9 月に退職者が 3 名（理学療法士 2 名、作業療法士 1 名）あった。9 月・10 月に理学療法士が 3 名入職し、平成 27 年度の最終的なスタッフ数は、理学療法士 14 名（うち育児休暇 2 名、非常勤職員 1 名）、作業療法士 2 名の体制となった。

イ 連携事業について①「三浦市民健康大学」

平成 27 年 9 月より 12 月までの 3 ヶ月間、「三浦市民健康大学」を介護予防教室として当院にて開催した。本事業は、地域在住高齢者の介護予防、未病を治す取組を以て健康意識の啓発ならびに社会参加の促進を図ることを目的とし、神奈川県立保健福祉大学、風の谷リハビリデイサービスとともに協同で取り組んでいるリビングラボラトリーの一環として開催した。期間中、43 名の市内在住高齢者（男性 11 名、女性 32 名。平均年齢 72.8 歳）が参加された。当科より理学療法士・作業療法士が参加し、事業運営とともに参加者の送迎・運動機能・転倒リスクの評価、運動指導を実施した。

ウ 連携事業について②「三浦市民健康大学オープンキャンパス」

平成 28 年 3 月 20 日、「三浦市民健康大学オープンキャンパス」を YMCA 三浦ふれあいの村にて開催した。本事業は、地域在住高齢者への介護予防や未病を治す取組などの健康意識の啓発を図ることを特化した目的とし、神奈川県立保健福祉大学、三浦市高齢介護課、三浦市社会福祉協議会、市内外の事業所とともに実行委員会を編成し、開催した。本事業への参加者数は 68 名であり、市内外より 20 代から 80 代までの幅広い年齢層の方々に参加していただいた。当科より理学療法士・作業療法士が参加し、事業運営とともに参加者への体操指導・個別相談の受付を行った。

エ 地域包括医療・ケア認定専門職の認定について

公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会の審査を受け、地域包括医療・ケア認定専門職として当科理学療法士 3 名が認定された。

(2) 業務実績

ア 入院患者 実施患者・単位数

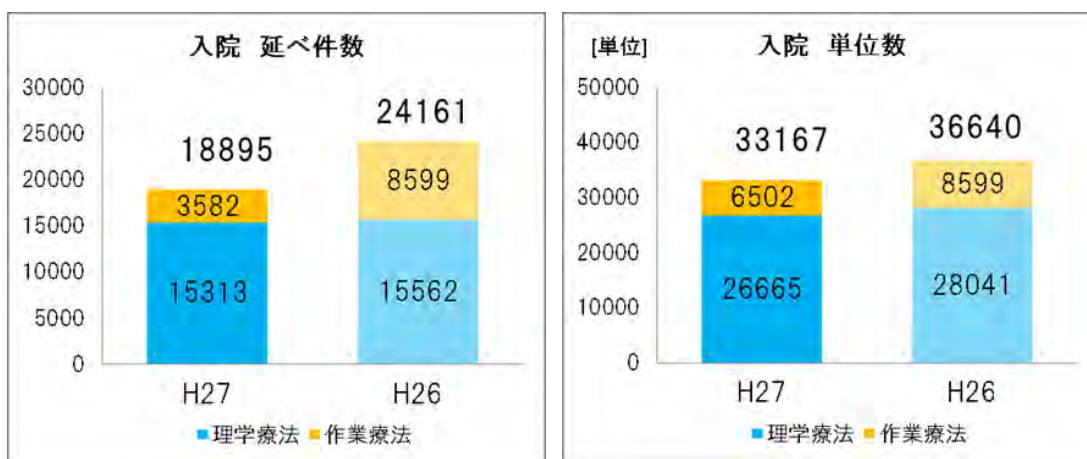
(ア) 業務実績

入院の実施延べ患者数は 18,895 件、実施単位数は 33,167 単位であった
(前年比 延べ患者数 0.92 倍、単位数 0.91 倍)。また、1 件当たりの単位数は、
1.76 単位であった(前年度 1.52 単位、前年比 1.15 倍)。

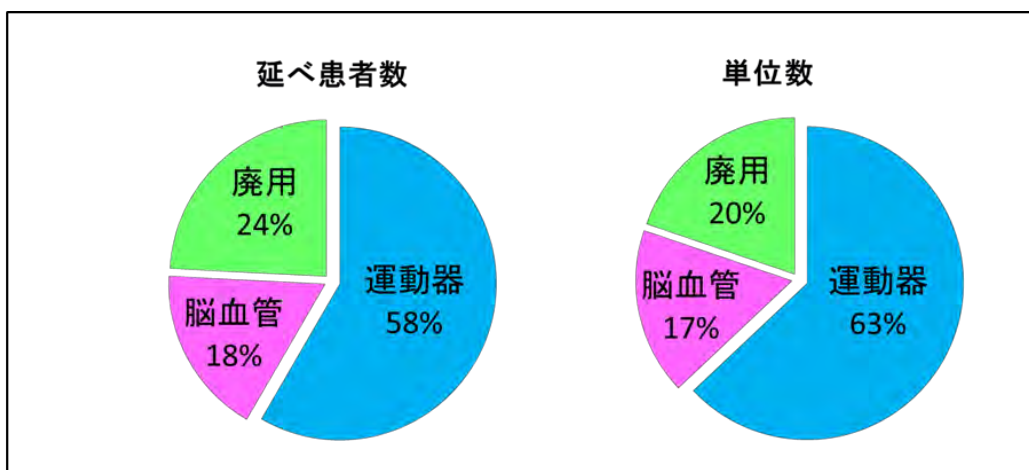
入院患者に対する各疾患別リハビリテーションの割合は、運動器は患者数
58%・単位数 63%、脳血管疾患は患者数 18%・単位数 17%、廃用症候群は患者
数 24%・単位数 20%であった。

退院前にリハビリテーション科スタッフが直接自宅を訪問し、環境の確認や
調整を家族・ケアマネジャー・福祉用具業者等と共に行う退院前訪問指導は、
98 件実施した。(前年度 86 件、前年比 1.14 倍)

(イ) 実績表



算定区分別割合



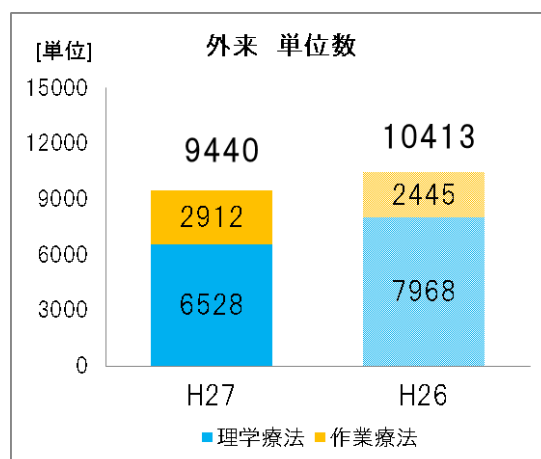
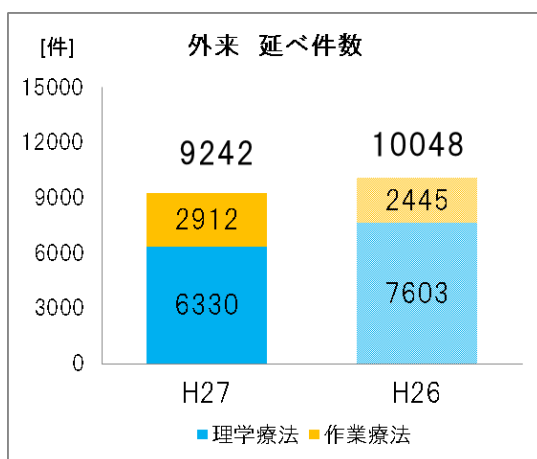
イ 外来患者 実施患者・単位数

(ア) 業務実績

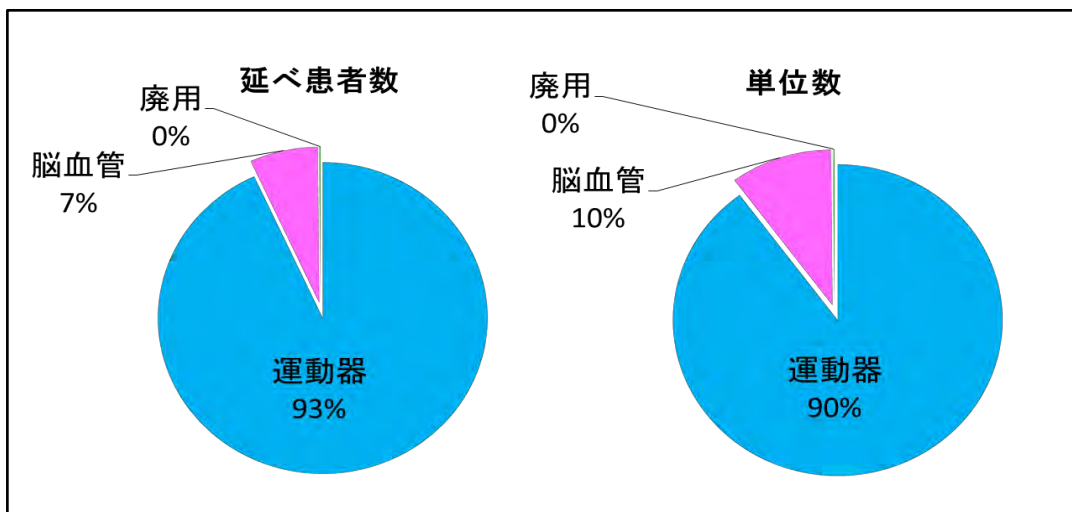
外来の実施延べ患者数は 8,673 件、実施単位数は 9,440 単位であった（前年比 延べ患者数 0.88 倍、単位数 0.91 倍）。また、1 件当たりの単位数は、1.02 単位であった（前年度 1.04 単位、前年比 0.99 倍）。

外来患者に対する各疾患別リハビリテーションの割合は、運動器は患者数 88%・単位数 92%、脳血管疾患は患者数 11%・単位数 7%、廃用症候群は患者数・単位数とも 1%であった。

(イ) 実績表



算定区分別割合

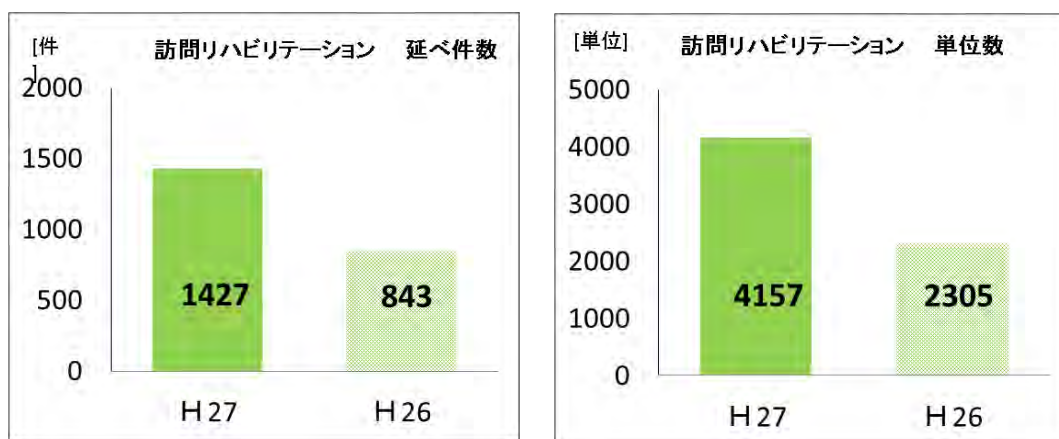


ウ 訪問リハビリテーション 実施患者・単位数

(ア) 業務実績

訪問リハビリテーションの実施延べ患者数は 1,427 件、実施単位数は 4,157 単位であった（前年比 延べ患者数 1.69 倍、単位数 1.8 倍）。

(イ) 実績表

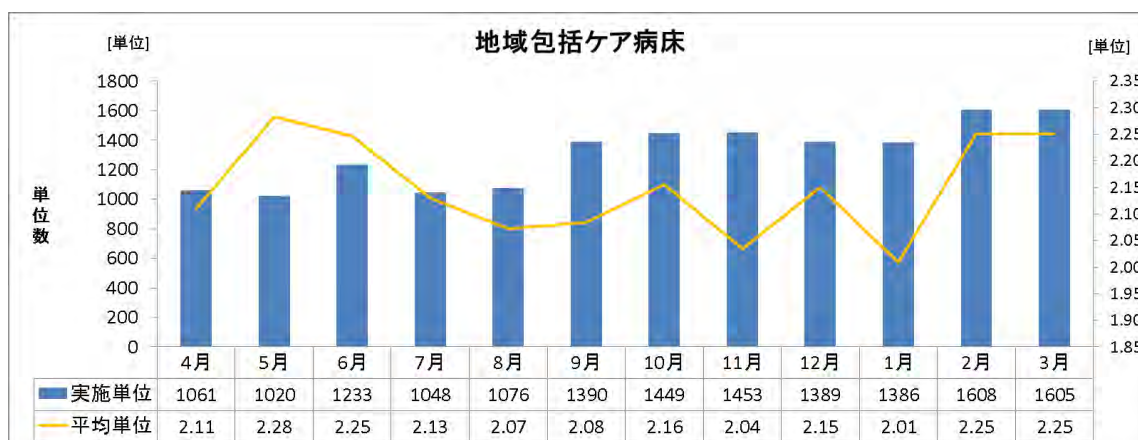


エ 地域包括ケア病床

(ア) 業務実績

地域包括ケア病床入院中の患者に対する月平均のリハ実施患者数は 39.6 名、総実施単位数は 1,309.8 単位、患者一人一日当たりの平均実施単位数は 2.15 単位であった（前年度 月平均のリハ実施患者数 32.4 名、総実施単位数 1,121.6 単位、患者一人一日当たりの平均実施単位数 2.1 単位）。

(イ) 実績表



オ 実習生の受入れ

本年度の実習生は、下記の理学療法士養成校 2 校より受け入れた。

学校名	実習内容	期間	学生数
神奈川県立保健福祉大学	臨床実習（4 年生）	4 月 6 日～5 月 23 日	1 名
横浜リハビリテーション専門学校	臨床実習（4 年生）	6 月 8 日～8 月 1 日	1 名

カ 研修会の開催

本年度は、下記の研修会を当科主催で開催した。

区分	テーマ	期日	参加数
公開講座	第 1 回 ポジショニングについて	5 月 28 日	10 名
	第 2 回 認知症について	11 月 5 日	11 名
	第 3 回 嚥下について	3 月 2 日	12 名
院内研修	院内転倒予防について	11 月 24 日	9 名

キ 研修会・学会等での発表

演者	テーマ	学会等	期日
藤井	活動事例報告 三浦市民健康大学	「三浦を元気にするリビングラボラトリー」 活動報告と今後の展望	2 月 20 日

本事業では、指導介入前後に当院にて血液検査を行い、管理栄養士による食生活調査、栄養状態、成人病リスクの評価を実施するとともに、理学療法士・作業療法士による歩行分析、運動能力検査を行い、転倒リスク及び運動機能と脳の機能を評価した。

体操教室

The top photograph shows a large, well-lit room with a wooden floor. Several people are standing in a line, facing away from the camera. They are wearing light blue shirts and dark pants. A man in a white shirt and dark pants is standing in the foreground, facing the line. The room has large windows on the right side and a whiteboard on the left. The bottom photograph shows a closer view of the same room. A group of people are standing in a line, facing away from the camera. They are wearing light blue shirts and dark pants. A man in a white shirt and dark pants is standing in the foreground, facing the line. The room has large windows on the right side and a whiteboard on the left.

転倒予防体操 パンフレット(一部)

柔軟・準備体操

身体を動かす前に準備体操を行い、動かし後に再び柔軟体操を行うことでケガの予防だけでなく、運動の効果がより期待できます！

時間が無いときや、疲れがある際にはゆっくりと、柔軟体操だけでも行ってみてください。

転倒予防体操

● 転びにくい状態を維持するために3つのポイントをもつ体操を行っていきましょう。

1. 立ち座り、歩きに必要な筋力をつける体操
2. リズムを調整する体操
3. バランスに必要な機能を保持(改善)させる体操

[illegible]

修了式



ケ リビングラボラトリー連携事業②三浦市民健康大学オープンキャンパスの概要
 本事業では、下記の通り未病サポーター養成講座や体操教室・個別相談・福祉用具展示などを実施した。

ブ ィ ス	カリキュラム	10:00					11:00					12:00					13:00					14:00					15:00				
		10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50	10	20	30	40	50
A	未病サポーター養成講座	※午前のみ、開催																													
B	食生活、栄養相談	※1回30分程度										※1回30分程度																			
	クッキングセミナー											実演																			
C	健康増進トレーニング 転倒予防体操教室	体操										体操					体操														
D	足腰の痛み予防体操教室	体操										体操					体操														
E	認知症予防体操教室	講義	体操									講義					講義														
	認知症に関する相談	※1回30分程度										※1回30分程度																			
F	排便・排尿に関する体操・相談	体操	相談									体操	相談				体操	相談													
G	介護用品、健康機器などの体験	※終日、展示										※随時、展示																			
	介護保険に関する相談	※1回30分程度										※1回30分程度																			
H	お年寄りに必要な 法律に関する相談	※1回30分程度										※1回30分程度																			
		: 体操・教室										: 個別相談																			

当科理学療法士・作業療法士は、C.健康増進・転倒予防体操教室、D.足腰の痛み
 予防体操教室、E.認知症に関する相談を主に担当し、その他事業運営スタッフとし
 て従事した。



(3) 放射線科



技師長 久保 隆

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

平成 28 年 3 月に、一般撮影システムを CR から DR (FPD)システムに換装した。CR 撮影時に比べ約 1/2 の X 線量で撮影することが出来るため、被ばく線量も減少し安全な医療を提供することが出来るようになった。画像生成時間が CR に比べ短くほぼ即時表示の為、スループットが格段に向上し検査時間や待ち時間が大きく短縮された。

また電子カルテ用の無線アクセスポイントを利用し、RIS との無線 MWM と PACS への Storage を無線で行えるようになり、特に OPE 後や処置後のポータブル検査画像が、撮影後すぐに参照出来るようになった。

放射線科全体での検査人数は、前年度比 1.06 倍と僅かながら増加。

(2) 業務実績

ア 一般撮影

(ア) 胸部・腹部検査は増加。骨部・他検査は変わらず。MMG 検査は、病気に対する関心が高まった年であったため検診が増加。一般撮影全体では、前年度比 1.01 倍。

(イ) 一般撮影実績

(内数)

	外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
胸部	8,076	834	8,910	8,910
腹部	1,889	764	2,653	2,653
骨部・他	5,415	3,096	8,511	10,299
(体幹)	(2,967)	(2,615)	(5,582)	(7,064)
(四肢)	(2,448)	(481)	(2,929)	(3,285)
(ポータブル)	(340)	(1,797)	(2,137)	(2,757)
乳房	1,004	1	1,005	1,005
合計	16,384	4,695	21,079	22,867

イ X線TV検査

(ア) 血管造影検査は増加。消化器系検査は、ドック等健診での胃バリウム検査が増加。その他の透視下で行う検査は、全数は変わらないものの、外来で行う検査（胃瘻交換等）は減少。入院で行う各種検査（PTCD・ERCP・ED-tube・胃瘻・イレウス管等）は増加。X線TV検査全体では、前年度比 1.03 倍。

(イ) X線TV検査実績

	外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
心 血管	0	17	17	17
消化器	463	76	539	539
泌尿・生殖器	1	3	4	4
その他	44	104	148	148
合計	508	200	708	708

ウ X線CT検査

(ア) また検査内容（MPR・3D等の画像処理やthin slice等）も増加。CT検査全体では前年度比 1.17 倍。

(イ) X線CT検査実績

		外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
単純	頭部	1,355	175	1,530	1,573
	躯幹	1,901	537	2,438	2,596
	四肢	77	15	92	98
	小計	3,333	727	4,060	4,267
造影	頭部	5	1	6	6
	躯幹	445	143	588	661
	四肢	0	1	1	1
	小計	450	145	595	668
合計		3,783	872	4,655	4,935

エ MRI検査

(ア) 単純MRI検査は、頭部・躯幹・四肢共に増加。造影検査は、変わらず。MRI検査全体では、前年度比 1.05 倍。

(イ) MR I 検査実績

		外来患者人数	入院患者人数	総患者人数	総部位件数
単純	頭部	968	90	1,058	1,058
	躯幹	562	167	729	787
	四肢	120	36	156	156
	小計	1,650	293	1,943	2,001
造影 (単+造影)	頭部	15	0	15	15
	躯幹	7	5	12	12
	四肢	0	0	0	0
	小計	22	5	27	27
合計		1,672	298	1,970	2,028

(4) 臨床検査科



技師長 鈴木 正芳

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア 検体検査

(ア) 平成 28 年 2 月に自動免疫測定装置の更新を行った。

機種名 ルミパルス f を→ルミパルス G1200 へ

上記の機種変更に伴い、一部検査項目を G1200 へ移行させる。

移行項目 PSA、FT3、FT4、TSH

イ 生理機能検査

(ア) 平成 27 年度も毎週月～水曜日の週 3 回、脳ドックの患者の MRI 検査を実施する。

*平成 27 年度実施者数は 274 人（全脳ドック患者の 59%相当を実施）

(2) 業務実績

ア 検体検査部門

区分	一般	血液	細菌	生化学	血清	輸血	外注検査	合計
件数	29,564	55,118	2,052	85,361	20,364	1,717	13,604	207,780
点数	951,799	1,049,941	311,449	6,909,529	1,776,901	66,214	2,676,385	13,742,218

	H25 年度		H26 年度		H27 年度	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数
院内検査	191,012	11,190,182	190,802	10,783,448	207,780	11,065,833
外注検査	14,790	2,669,762	13,101	2,669,762	13,604	2,676,385
合計	205,802	13,859,944	203,903	13,453,210	221,384	13,742,218

- ・過去2年と比べて院内検査数は増加した。

イ 生理機能検査部門

	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
件数	15,287	15,575	16,438	16,228	16,164
点数	3,966,689	3,875,742	4,297,402	4,190,948	4,181,520

- ・昨年度と比べると若干ではあるが検査数が減少した。

ウ 検査部門総評

- ・臨床検査科総収入は、厳しい状況が続いているが、検体検査部門の全体的な増加により2億1218万円（昨年度＋2％増）と、昨年度に引き続き収益が前年度を上回る状態が続けられている。
- ・利益率は検体検査部門の増加により57％となり、昨年と比べて更に改善された。
 - *総収入に占める経費の内訳
 - ・試薬代・保守点検代を含めた経費率＝24％
 - ・人件費率＝19％
- ・高齢化率の高い三浦市は、これから人口減に伴う患者数の減少が考えられる。今後検査数の増加のみを求めていくことは厳しいと思われる中、「三浦ならではの地域医療の確立」という病院の方針の基、地域のニーズにあった検査の提供を更に進めていく前提であるが、院内では眼科部門の視能訓練士の退職に伴い、眼科部門の検査についても臨床検査科での実施を考慮していきたい。

(5) 地域医療科



科長 原 美智子

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

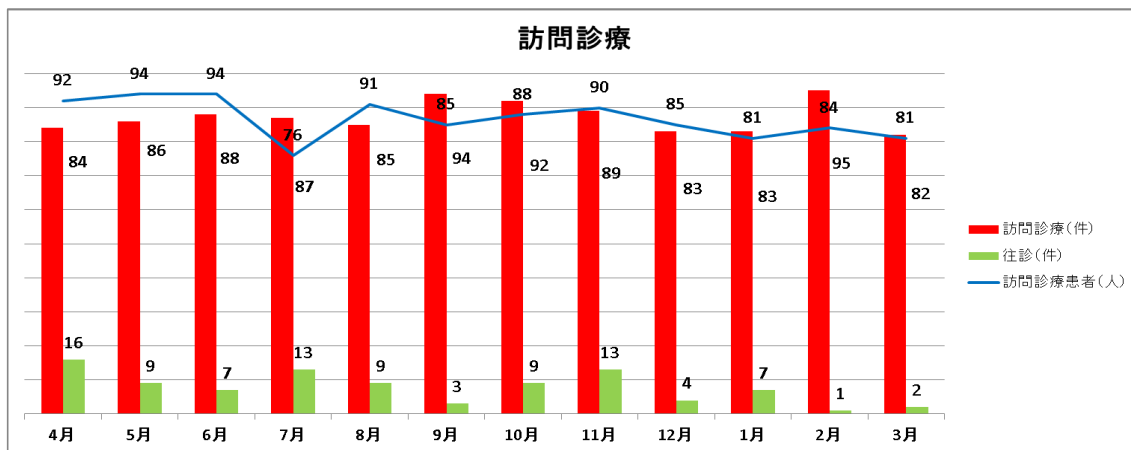
地域包括ケア病床を設置して6カ月が経過。近隣の高度急性期からの後方支援では在宅及び療養先に戻る際のADL回復目的のリハビリ支援、地域の開業医からの後方支援、在宅患者の急性増悪時のバックベッド機能、医療依存度の高い患者のレスパイト入院機能があり、連携・支援・調整を行った。

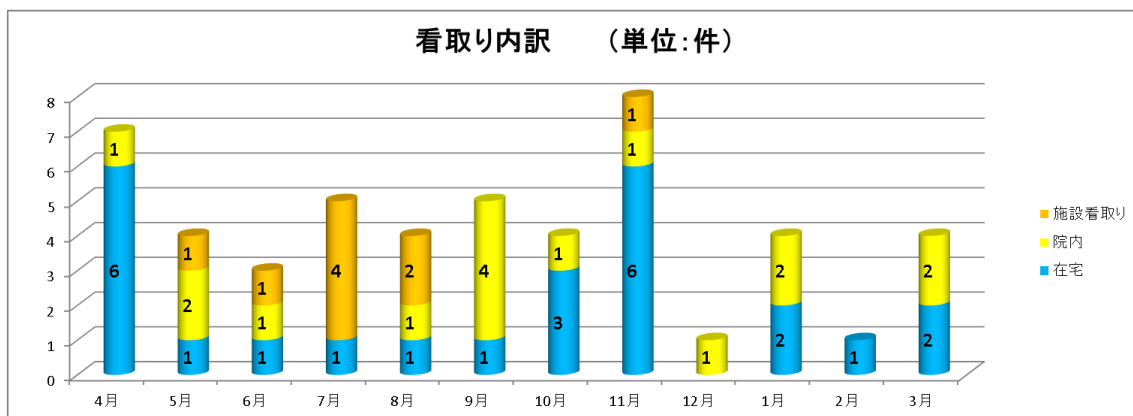
受入れ体制の強化や、退院支援連携強化により、地域に退院でき、必要な時にいつでも受けられる体制を整え、安心して住み慣れた地域で穏やかに療養生活を送れるよう支援した。病院、在宅、施設間でのトライアングルの関係が構築でき、さらには行政との連携を速やかに行うことで、「顔の見える関係」から「こころのわかる関係」に近づけたと感じている。

(2) 業務実績

ア 在宅医療

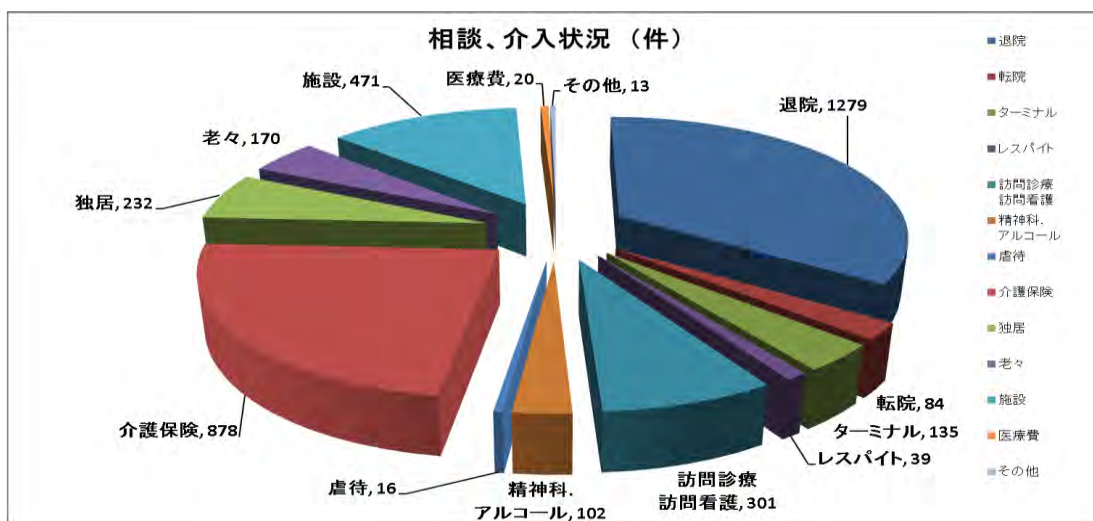
機能強化型在宅療養支援病院として訪問診療を実施した。27年度の訪問診療件数は1,041件、往診93件、訪問看護10件となっており、訪問診療、往診ともにやや減少しているが、在宅療養を進める上で充実性を求めた結果と考える。また、在宅看取りは25件、施設看取り9件実施。これからも在宅看取りや、高齢者の病状についての公開講座を実施することで、「看取り」に対しての不安を減少し、在宅・施設看取りにつなげていけるのではないかと感じている。

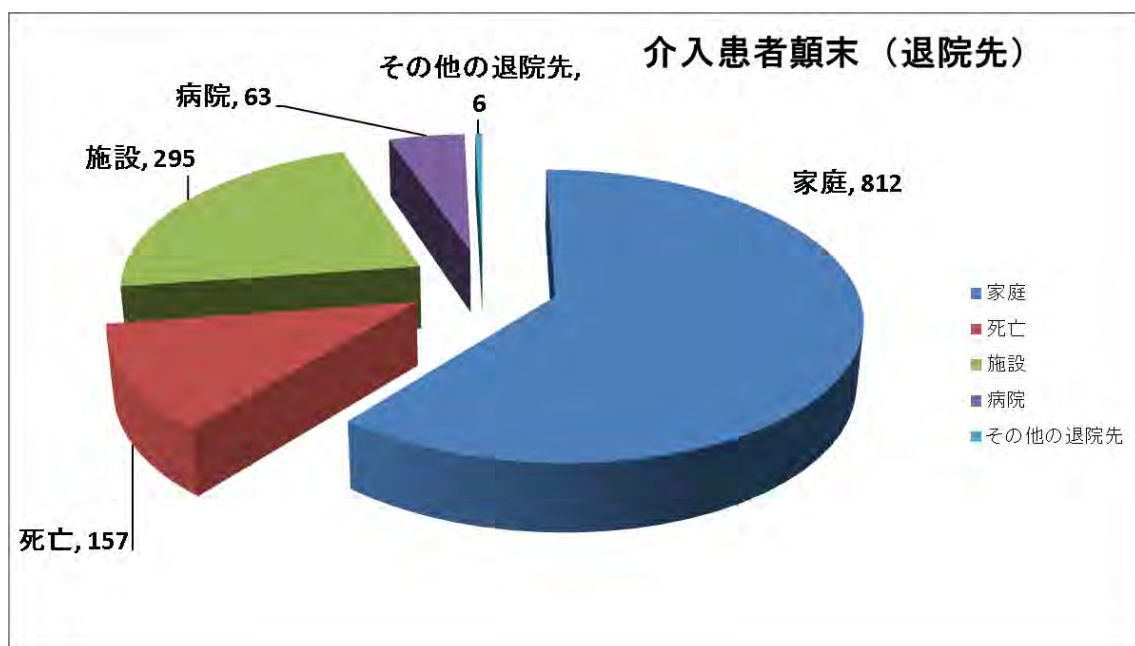




イ 退院支援・調整

ベッドコントロール看護師長から入院の連絡を受け、ADL、介護環境、介護保険状況等の情報を収集し、スクリーニングを行い早期介入につなげた。介入の必要な患者には、本人・家族面談、退院前訪問、「ケア会議」を実施し病院と地域の橋渡しを行った。介入患者の退院先は半数以上が自宅で、また、施設退院は、三浦市内が89%三浦市外は11%であり、住み慣れた地域へ退院できる支援・調整ができた。



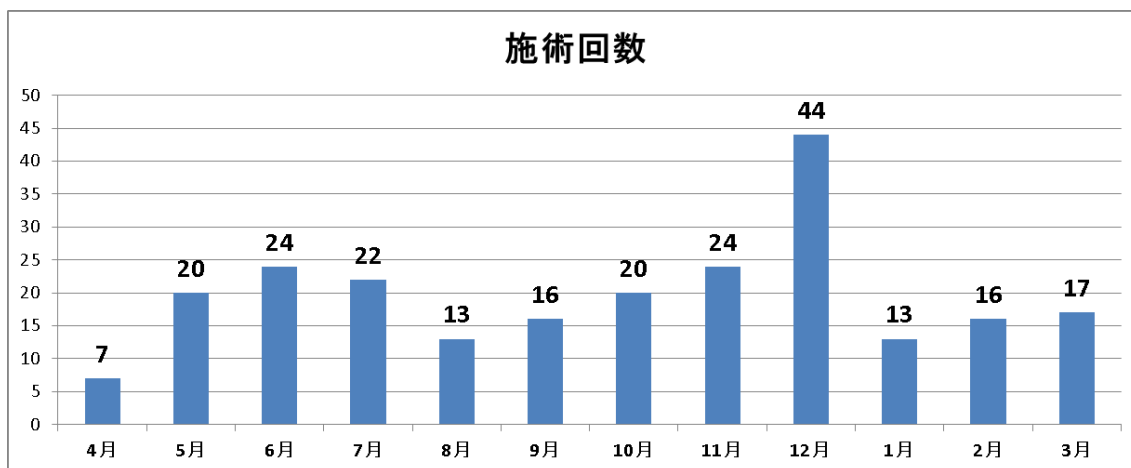


ウ リンパ浮腫外来

術後二次的に起こるリンパ浮腫は早期からケアを開始する事で重症化を防ぎ、QOLを維持させることができる。一人でも多くのリンパ浮腫患者を支援していきたいと、平成25年リンパ浮腫外来を開設し3年目を迎えた。利用者は増加し、2倍の人数となり、在宅での施術も3倍に増加、ケア導入後、症状が改善することで“患者の心を元気に”に導けたと感じている。

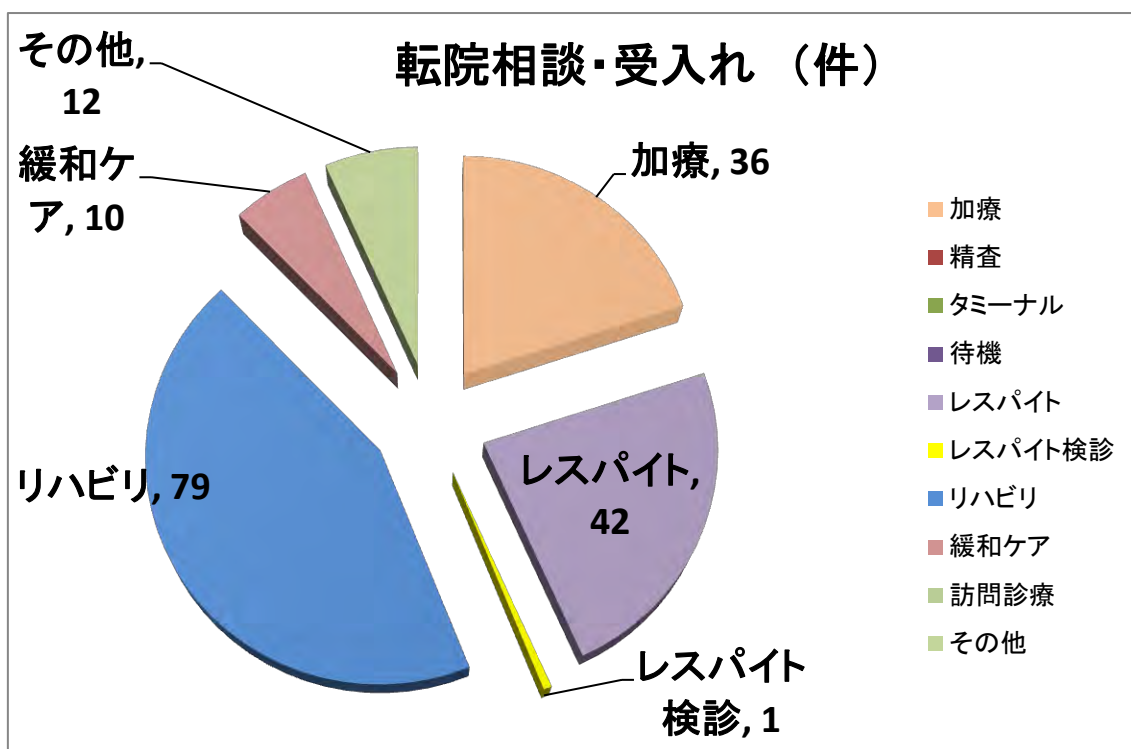
リンパ浮腫外来

総患者数	総施術回数	施術回数			診療科			性別		部位								施術場所			終了顛末					着衣のみ購入
		一人あたりの年間平均	最多者	最少者	内科	外科	婦人科	男性	女性	右上肢	左上肢	両上肢	右下肢	左下肢	両下肢	全身	顔面	外来	病棟	在宅	転居	軽快	訪問リンパへ	死亡	その他	
21名	236回	11.23回	36回	2回	12	5	3	6	15	2	3	0	1	2	8	5	0	7	7	7		4		11		



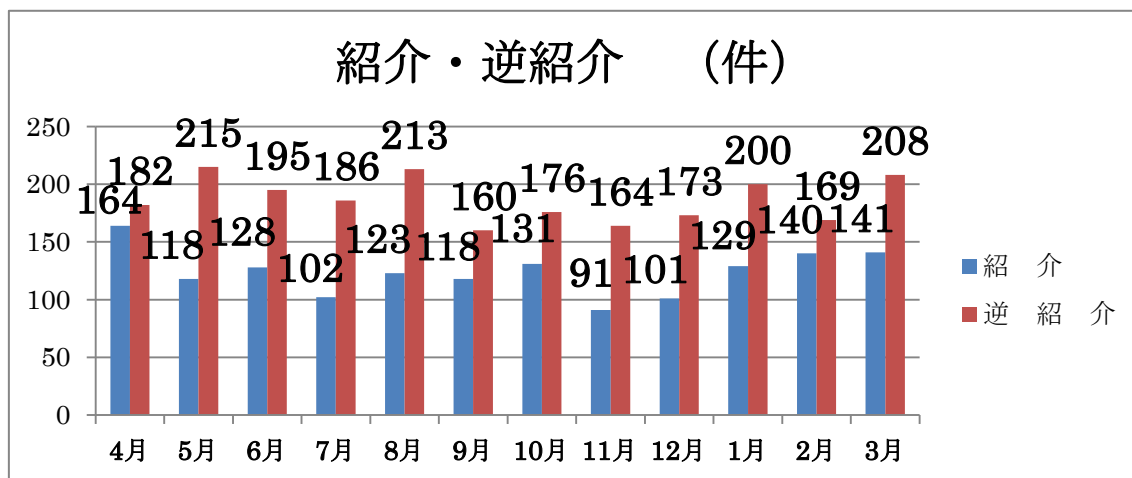
エ 転院相談・受入れ

急性期を脱した方の継続加療や、リハビリを必要としている方の転院相談が多く、シームレスな連携を実施し、スムーズな受入れにつなげた。



オ レスパイト検診

ご家族の介護をされている介護者の健康を守るためのレスパイト検診が1件と少ない。介護者の健康維持のため、広める努力をしていく。「安心して介護に専念できる」レスパイト支援は、地域に定着しつつあり、介護者が自分のリズムを保ちながら介護に当たれるよう、利用が昨年の約4倍に増加した。



キ 在宅療養を考えるつどい「地域で支える在宅医療を考える」シンポジウム

○ 開催概要

(1) 日時：平成 28 年 3 月 5 日 (土) 13:00～16:00

(2) 場所：三浦市民ホール (うらり 2 F)

(3) 主催：三浦市

(4) 共催：三浦市医師会・神奈川県鎌倉保健福祉事務所三崎センター

(5) 主管：三浦市立病院

(6) プログラム

ア 開 会 13:00～13:05

イ 主催者あいさつ 13:05～13:15

三 浦 市 長 吉 田 英 男

三浦市医師会副会長 矢 島 眞 文

ウ 基調講演 13:15～14:00

テーマ：「地域で支える在宅医療を考える」

講 師：三輪医院院長 千場 純 先生 (横須賀市医師会副会長)

休 憩 14:00～14:10

エ リレー講演 14:10～15:00

テーマ：在宅療養を考える

講 師：徳山診療所院長 (三浦市医師会地位医療介護担当理事) 徳山 宏基 先生

三浦中央医院院長 瀧端 正博 先生

三浦市立病院地域医療科担当医長 児玉 末 先生

(株) シフトみさき薬局 中村 正芳 管理薬剤師

せいれい訪問看護ステーション油壺所長 草間 理子 看護師

三浦市保健福祉部高齢介護課 出口 雅史 課長

オ 休 憩 15:00～15:10

カ パネルディスカッション 15:10～15:55

テーマ：「地域で支える在宅療養を考える」

コーディネーター：大久保久美子 (神奈川県鎌倉保健福祉事務所三崎センター所長)

コメンテーター：千場 純 先生
パネラー：リレー講演講師の皆さん
(7) 閉 会 15:55～16:00
三浦市立病院 総病院長 小 澤 幸 弘

平成 26 年 3 月 15 日にシンポジウムを開始して 3 年目になる。年々出席者数が減少してきている。地域に欠かせないテーマでシンポジウムを開催しているため、できるだけ多くの市民の方に出席していただきたい。そのためには準備段階から市民のニーズに添える内容にするための努力が必要である。



(6) 医療安全管理室

室長（H28.3.31 現在） 五味渕 一三

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

平成 26 年度に設置された医療安全管理室も 2 年目を迎え、更なる多職種連携を深め、医療の質の向上を図るため、リスクマネジメント担当と感染管理担当で共同して事業を実施することについて検討を行った。

平成 27 年度は、医療安全管理室のホームページ作成、リスクマネジメント担当と感染管理担当の院内合同ラウンド、院内マニュアルの調査等の共同事業を実施し、院内外に向けて医療安全管理室としての取組を発信することができた。

引き続きリスクマネジメントの視点と感染管理の視点を効果的に取り入れた共同事業について検討を重ね、実施していきたい。

(2) 業務実績

ア ミーティングの開催

医療安全管理室ミーティングは、リスクマネジメント担当と感染管理担当のそれぞれの所掌事項についての 1 か月の実績及び今後の予定を報告し、必要な情報共有及び協議を行う場である。医療安全管理室は、院内の感染対策及びリスク管理についてトータル的なマネジメントを行う組織であり、医療安全管理室の下にある感染対策委員会及びリスクマネジメント委員会において必要な協議調整を行う。

イ ミーティングの概要

(ア) 第 1 回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成 27 年 4 月 28 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

●感染管理担当からの報告

- ・安全機能付きの針について
- ・感染対策講習会の開催について

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・病棟の窓について
- ・研修について
- ・衝撃マットの導入について
- ・インシデントレポートの書き方について

- ・苦情対処マニュアルについて
- ・リスクマネージャーの変更及びインシデント分類について
- 医療安全管理室次長からの提案
 - ・共同事業について
- c 出席人数 8人

(イ) 第2回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所

平成27年5月26日(火) 三浦市立病院2階会議室
- b 議事
 - 感染管理担当からの報告
 - ・救急外来集団食中毒及び集団火災フローチャートについて
 - ・HBワクチン接種について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・医療安全研修について
 - ・七市公立病院の状況について
 - ・苦情対応マニュアルについて
- c 出席人数 7人

(ウ) 第3回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所

平成27年6月23日(火) 三浦市立病院2階会議室
- b 議事
 - 感染管理担当からの報告
 - ・針刺し切創事象について
 - ・新しい針捨て Box について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・インシデントレポートについて
 - ・衝撃マットについて
 - ・無断離院について
 - ・食中毒について
 - ・ドライヤーの扱いについて
 - ・インシデントレポートのエラー分類番号について
 - ・血液型の誤認に関するインシデントについて
 - ・苦情対処マニュアルについて
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・共同事業の企画について
- c 出席人数 8人

(エ) 第4回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成27年7月28日(火) 三浦市立病院2階会議室
- b 議事
 - 感染管理担当からの報告
 - ・食中毒フロー(案)について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・入院患者無断離院マニュアル等の取扱いについて
 - ・苦情対応マニュアルについて
 - ・七市公立病院の状況について
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・共同事業の企画について
- c 出席人数 8人

(オ) 第5回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所
平成27年8月25日(火) 三浦市立病院2階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・医薬品安全使用のためのチェックについて
 - ・フィルター透過性・薬剤混注に関するマニュアル作成について
 - ・マニュアル改訂の提案について
 - ・合同ラウンドについて
 - ・スローガンについて
 - ・ホームページ作成について
 - ・研修の義務化について
 - 感染管理担当からの報告
 - ・針刺し切創について
 - ・セーフティ翼付採血セットについて
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・インシデントレポートについて
 - インフルエンザワクチンの価格について
- c 出席人数 7人

(カ) 第6回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成27年9月29日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- 医療安全管理室年報(案)について
- リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・マニュアルの改訂提案について
 - ・注射薬のフィルター透過性マニュアルについて
 - ・ホームページ作成について
 - ・スローガンについて
 - ・研修の義務化について
 - ・合同ラウンドについて

c 出席人数 6人

(キ) 第7回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成27年10月27日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・注射薬のフィルター透過性マニュアルについて
 - ・ホームページ作成について
 - ・スローガンについて
 - ・合同ラウンドについて
- 感染管理担当からの報告
 - ・ホームページの見直しについて
- リスクマネジメント担当からの報告
 - ・点滴薬剤未開通について
 - ・名前確認の掲示について
 - ・無断離院マニュアルについて

c 出席人数 8人

(ク) 第8回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成27年11月24日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・医療安全管理室ホームページの作成について
- ・スローガンについて
- ・合同ラウンドについて
- ・研修の周知方法について

●感染管理担当からの報告

- ・針刺し切創について

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・七市公立病院の状況について
- ・インシデントレポートの改正について
- ・針刺しについて
- ・インシデント等を繰り返して起こす者の対処について

c 出席人数 7人

(ケ) 第9回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成27年12月22日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・医療安全管理室ホームページの作成について
- ・スローガンについて
- ・合同ラウンドについて
- ・感染対策講習会の開催について

●感染管理担当からの報告

- ・眼粘膜の血液曝露について
- ・横須賀・三浦地域におけるVRE検出について

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・注射に関するリスクについて
- ・入院時無断離院対応マニュアルについて

c 出席人数 8人

(コ) 第10回医療安全管理室ミーティング

a 開催日及び場所

平成28年1月26日(火) 三浦市立病院2階会議室

b 議事

●リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について

- ・医療安全管理室ホームページの作成について
- ・スローガンについて
- ・マニュアル調査について
- ・院内研修について
- ・合同ラウンドについて
- 感染管理担当からの報告
 - ・VRE 患者について
- リスクマネジメント担当からの報告
 - ・七市公立病院の状況について
- c 出席人数 8人

(サ) 第 11 医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所

平成 28 年 2 月 23 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・医療安全管理室ホームページの作成について
 - ・スローガンについて
 - ・合同ラウンドについて
 - 感染管理担当からの報告
 - ・VRE の患者について
 - ・インフルエンザの流行について
 - リスクマネジメント担当からの報告
 - ・アクシデントレポートについて
 - ・当直帯での診察券の取扱いについて
 - ・院内マニュアル調査について
 - ・入院時無断離院対応マニュアルについて
 - ・医療安全研修の開催について
- c 出席人数 7人

(シ) 第 12 回医療安全管理室ミーティング

- a 開催日及び場所

平成 28 年 3 月 22 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
 - リスクマネジメント担当と感染管理担当との共同事業について
 - ・マニュアルの見直しについて

- ・医療安全研修について
- ・合同ラウンドについて
- ・接遇向上委員会への提案について

●感染管理担当からの報告

- ・感染防止対策カンファレンスについて
- ・七市公立病院感染管理交流会について
- ・インフルエンザの流行状況について
- ・アンチバイオグラムについて

●リスクマネジメント担当からの報告

- ・最近のリスクについて
- ・入院時無断離院対応マニュアルについて

c 出席人数 7人

ウ リスクマネジメント業務

(ア) 医療安全講習会院内研修

日時	対象者	テーマ	参加人数
4月8日	新人看護師	医療安全について	8名
6月30日	全職員	平成27年度第1回医療安全研修 災害について「これだけは知っておきたい緊急時の対応」	40名
12月15日 12月16日	看護助手	医療安全看護助手研修 とらえ方は人それぞれ違う	18名
2月29日 3月8日	全職員	平成27年度第2回医療安全研修 医薬品安全使用について	56名

(イ) インフォメーション

医療安全の観点から週4日午前中にインフォメーションを担当し、併せて、医療相談やご意見（賞詞含む。）の窓口となり、病院利用者の生の声を聞いて各部署と連絡調整を図り、適切な業務執行に寄与した。

(ウ) 医療安全ラウンド

週4日院内各所のラウンドを実施し、リスク回避等の助言を行った。

(エ) レポートについて

リスクマネジメント委員会、リスクマネジメント看護部会等を通じ、レポート作成の重要性を周知するとともに、各部署から提出されたレポートのチェッ

クを行い、分析、対策及び再発防止についての指導及び助言を行った。

また、報告者の記載方法、インシデント事例分類の整備等を図り、レポート様式の一部改正を行った。

さらに、医療安全事例報告書を作成し、インシデント発生時の速やかな報告体制を整備した。

(オ) 神奈川県七市公立病院医療安全管理者交流会の参加

2か月に1度、交流会へ出席し、得た情報を医療安全管理室ミーティング等で共有を図った。平成27年度の主なテーマは、次のとおりである。

- ・ 病院機能評価の監査内容に学ぶ安全領域の課題
- ・ 医療事故調査制度について
- ・ 患者誤認防止の対策について
- ・ 各施設の近況報告
- ・ 薬剤師の持参薬検薬について
- ・ 高齢者への安全対策

エ 感染管理業務

(ア) 感染対策講習会 院内研修

日時	対象者	テーマ	参加人数
4月3日	新人看護師	感染管理活動、手指衛生	各5名
4月8日		標準予防策	
4月9日		標準予防策、個人防護具	
4月9日		針刺し切創血液曝露について① 針刺し切創血液曝露について②	
5月19日 20日	病院全職員	手指衛生	計80名
6月22日 23日	看護助手	手指衛生	計16名
6月26日	ラダー感染コースⅢ	洗浄・消毒・滅菌の基礎	3名
9月3日	感染対策リンクナース他	採血セット説明会	13名
9月24日 25日	ラダー感染コースⅡ	感染症法について	計12名
9月28日	ラダー感染コースⅢ	抗菌薬適正使用について	3名
12月8日 14日	病院全職員	インフルエンザとノロウイルスについて	計53名

日時	対象者	テーマ	参加人数
12月17日 12月18日	ラダー感染コースⅡ	感染対策と人権について考える	計12名
12月21日	ラダー感染コースⅢ	教育指導演習/ 感染対策と人権について考える	3名

(イ) 感染対策公開講座

日時	テーマ	院外参加人数	院内参加人数	参加人数合計
6月16日	肝炎と食中毒について	3名	3名	6名
10月20日	結核と疥癬について	10名	4名	14名
11月18日	インフルエンザと ノロウイルスについて	4名	5名	9名

(ウ) 感染対策 健康宅配便

日時	テーマ	対象者	参加人数
6月25日	食中毒予防とまん延防止	ルナランド職員他	14名
12月10日	インフルエンザの予防と まん延防止	ルナランド職員他	13名

(エ) コンサルテーション

依頼部署/施設	件数
2階病棟	2
3階病棟	7
4階病棟	2
外来（内科外来）	3
外来（内視鏡室）	1
手術室	2
臨床検査科	1
栄養課	1
委託業者（清掃）	1
院外の施設	2
計	22

(オ) 感染症患者報告（入院）

感染症名	報告数
インフルエンザ A	7
結核疑い（1名重複）	5
VRE（保菌）	2
感染性胃腸炎	1
疥癬	1
レジオネラ肺炎	1
流行性角結膜炎	1
伝染性紅斑	1
黄色部ブドウ球菌食中毒	1
アメーバ赤痢疑い	1
計	21

(カ) 感染症患者報告（訪問診療/外来）

感染症名	報告数
結核疑い	2
疥癬	1
潜在性結核感染症	1
計	4

(キ) 感染症職員報告

感染症名	報告数
インフルエンザ A	13
インフルエンザ（AB 不明）	2
流行性角結膜炎	2
感染性胃腸炎	1
レジオネラ肺炎	1
流行性耳下腺炎	1
マイコプラズマ肺炎疑い	1
計	21

(ク) ICT ラウンド

週 1 回 ICT ラウンドを実施した。そのうち月 1 回を手指衛生ラウンドとして実施し、速乾性手指消毒薬の使用状況の把握及び設置状況の整備を行った。

(ケ) リスク・感染合同ラウンド

医療安全管理室のリスク担当と感染管理担当との共同事業として、院内合同ラウンドを行った。内容は、ラウンドチェック表に基づく環境ラウンドを中心として、年4回の間隔で実施した。ラウンド実施部署も、病棟及び外来以外の部署においても、年間で全ての部署が確認できるよう調整した。

3 看護部

(1) 看護部



部長 嘉山 静子

○活動状況

開かれた看護部（風通しの良い看護部）を目指し、職場環境を整えることから始まった1年であり、心地よく働ける環境をつくり、退職者を出さないことが重点課題であった。平成27年4月常勤看護師84名で始まり、平成28年3月退職者9名の結果であり、前年度に比べ離職率は低下したが産休・育休者の増加なども加わり、看護体制に余裕はなく心地よく働く環境には至らなかった。20代のスタッフの増加にて平均年齢も若くなり、さらに産休・育休者が増えていくことが予想され、早期復帰できる体制を整え、結婚や出産しても辞めずに働き続けられる体制作りが今後の課題である。

(1) 平成27年度のトピックス

ア 「三浦ならではの」の地域包括ケアシステムの構築

慢性期疾患を抱えながら地域で暮らす多くの高齢者を支え、出来る限り住み慣れた地域で安心して療養生活を継続し、人生の最期を望む場所で迎えることが出来るよう連携の強化を行った。また、病棟編成において機能分化の強化を図り、急性期から慢性期の移行、退院支援・調整を行った。

イ 実習の受入れ

(ア) 看護学生の実習受入れを開始した。実習受入れ開始に当たり、実習指導者の養成・受入れ準備を行った。教える体制づくりはまず自らが知識・技術を習得する必要がある、看護学生の実習受入れはスタッフの刺激や活気につながり、ケアの質の向上にもつながった。

(イ) ベトナムからの看護師研修の受入れは「日本の看護師の接遇を学ぶ」ことが目的となっており、「おもてなし」のところが伝わるよう接していった。外国籍の方の研修受入れは部署のモチベーション向上につながった。

(2) 看護職員状況

ア 看護職人員確保 (平成 27 年度)

(単位：人)

	看護師 常勤	看護師 非常勤	准看護師	看護助手 非常勤	合計
採用	10	3	0	2	15
退職	9	2	2	1	14

イ 職別構成 (平成 27 年 4 月 1 日現在)

(単位：人)

区分	看護部長	主幹	看護師長	主任看護師	看護師	准看護師	看護助手	合計
職員	1	2	5	11	66	0	0	85
非常勤	0	0	0	0	6	8	30	44
計	1	2	5	11	72	8	30	129

ウ 年齢別構成 (平成 27 年 4 月 1 日現在) 常勤

(単位：人)

区分	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55 歳以上	平均年齢
看護師	13	5	8	15	17	13	9	5	40.4

(3) 看護部の目標と評価

ア 医療安全・接遇・倫理観

(ア) 安全・安楽な療養環境を整え、患者中心の看護の提供

(イ) 人権を尊重し、心地よい対応を提供する

高齢者の増加、長期入院の環境から転倒のインシデント報告の割合が多くなっている。転倒レポート分析を分析したデータより、転倒の多い時間・時期・病状期などが打ち出され対策を行ってきたが、減少できていない傾向があった。更なるデータを基に未然に防ぐ予防対策が必要である。接遇においては、賞詞を多く頂くことができ、対応時の言動・態度・身だしなみなど、心地よいと感じるケアを提供した結果だと思われる。

イ 経営参画

(ア) 受入れ態勢の強化に努め予算目標達成に最善を尽くす

(イ) 多職種・多施設との連携を行い、地域とともに支え合う体制を整える

機能分化の強化を図り、受入れ態勢を整えることで経営目標値に近づけることが出来た。常に数値を示し見える化することで経営状況の意識付けや、今何をすべきか、何が出来るかに繋がり行動できたと感じている。

ウ 人財育成・教育

(ア) 誰でも、どこでも出来る看護師を育成し、リリーフ体制の構築を図る

(イ) 看護職としてのキャリアアップをめざし、医療の質向上に努める

ローテーション研修やリリーフ体制を構築することで、受入れ態勢の強化にもつながった。日々、ベットコントロールミーティングにおいて急な休みや欠員に対応し、お互いに要請しリリーフ体制を整えることができた。

キャリアラダーが確立され、それぞれの目標、道すじは明確になりつつある。今後も「個」の成長を支援し、医療の質の向上を継続していく。

(2) 2階病棟



看護師長 (H28.3.31 現在) 中條 郁代

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

特色

H27 年 4 月 1 日	看護師長 1 名	主任看護師 2 名	看護師 16 名
	非常勤看護師 3 名	非常勤看護助手 5 名	
H28 年 3 月 31 日	看護師長 1 名	主任看護師 2 名	看護師 14 名
	非常勤看護師 1 名	非常勤看護助手 5 名	

外科系急性期病棟 42 床 (HCU 2 床)

入院対象は主に外科・整形外科の急性期・眼科

外科系疾患は主に 胃癌・胆道系疾患・ヘルニア・乳癌・イレウス・化学療法目的・大腸癌・外傷・急性腹症など 897 名であった。

今年度、大腸内視鏡検査入院は、約 430 名、日帰り化学療法は、91 名であった。

整形外科入院 284 名中、大腿骨頸部骨折・胸腰椎圧迫骨折が、殆どであった。

眼科入院 340 名は、全て白内障手術目的であった。

内科 54 名の入院があった。

(2) 業務実績

H27 年度総入院数は、1,575 名 (月平均患者数は 131 名) で、うち、外科 897 名 (56.95%)、整形外科 284 名 (18.03%)、眼科 340 名 (21.59%)、内科 54 名 (3.43%) であった。

1,575 名中、100 歳以上 6 名 (0.38%)、90 歳以上 62 名 (3.94%)、80 歳以上 441 名 (28.00%)、70 歳以上 561 名 (35.62%)、60 歳以上 318 名 (20.19%) であった。

昨年同様 60 歳以上が、1,388 名 (88.13%) と大幅に占めており、昨年とほぼ同じであった。20 歳未満が 13 名/年の入院であった。

また、眼科「白内障手術」と外科「大腸内視鏡」の入院日が同日となり、日中オーバーベッドを作動の状態もみられた。

(単位:人)

区分	9 歳以下	10～ 19 歳	20～ 29 歳	30 ～39 歳	40 ～49 歳	50 ～59 歳	60 ～69 歳	70 ～79 歳	80 ～89 歳	90 ～99 歳	100 以上	計
外科	2	1	3	17	44	72	209	303	227	17	2	897
整形	3	4	2	7	4	10	28	88	106	29	3	284
内科		3		2	2	3	10	17	14	2	1	54
眼科					3	5	58	142	80	8		296
合計	5	8	5	26	53	90	305	550	427	56	6	1,531

(3) 病棟目標評価

H27 年度 2 階病棟看護目標

ア 情報の共有ができ、統一した看護・ケアの提供を行う。

① 毎朝のチームカンファレンス・1 回/週の定期カンファレンスを行い、患者情報を共有できる。

② 情報不足・コミュニケーションエラーによるリスクをなくす。

<評価>

① ワークシートの使用方法を検討、情報共有が、行えるようになった。

また、毎月の病棟会でデスカンファレンスが行えるようになった。

② 外科医師とのカンファレンスが持てず、長期入院患者の療養環境を整えることが難しく、今後の課題である。

イ 個々の役割を確実にを行い、経営参画を行う。

① 物品管理を確実にを行い、無駄をなくす。

② 受入れ態勢を整え、平均 90%の占床率を目指す。

<評価>

① 物品管理が、行き届いていない。(カード紛失が多い) 病棟内の役割の見直し、整理整頓を行い、無駄のない管理に繋げる。

② 患者受入れ態勢は良好だったが占床率 78%であった。今後も占床率 100%目指し、患者を受け入れる。

ウ 個々のキャリアアップを行う。

- ① 実習生との関わりの中で、共に学び・育つことが出来る。
- ② 積極的に院内・院外研修に参加し（2回/年間以上）知り得た知識を伝達する。

<評価>

研修参加、目標の進行には、個々のばらつきが見られる。

目標面接時に個別にて対応策を考え次世代の育成に繋げていく。

(3) 3階病棟



看護師長 市川 夏実

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

特色

H27 年 4 月 1 日 看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 19 名
非常勤看護助手 7 名

H28 年 3 月 31 日 看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 15 名
非常勤看護師 4 名 非常勤看護助手 7 名

病床数 : 47 床 (HCU 2 床 個室 6 床 特室 1 床 4 人部屋 40 床)

入院対象 : 急性期内科 (24 時間救急患者入院対応)
ベットコントロールにて外科・整形患者の受入れも実施

看護方式 : 固定チームナーシング : A・B 2 チーム制、継続受け持ち看護方式
を取り入れ、準夜・深夜ともに看護師 3 名体制で質の高い看護を
提供。

(2) 業務実績

ア 入院患者の状況

区分	H27	
	入院患者数(人)	構成比(%)
内科	1,076	95.73%
外科	24	2.13%
整形	20	1.78%
産婦人科	0	0.00%
小児科	0	0.00%
眼科	4	0.36%
合計	1,124	100.0%

イ 入院患者の年齢別状況

(単位：人)

区分	9歳 以下	10～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80～ 89歳	90～ 99歳	100歳 以上	合計
内科	0	1	10	17	22	38	120	285	380	196	5	1,074
外科	0	0	0	0	1	1	5	5	8	3	1	24
整形	0	0	0	0	1	0	1	5	9	4	0	20
産婦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼科	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	4
耳鼻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	10	17	24	40	126	297	398	203	6	1,122

(ア) 主な疾患

肺炎・脳梗塞・心不全・糖尿病・尿路感染症・脱水・溺水・心肺停止後蘇生・腎盂腎炎・眩暈・肝機能障害・肺癌・憩室炎・急性扁桃炎・肝臓・イレウス・胆石・胆のう炎

(イ) 対象手術

永久ペースメーカー挿入術・MR I ポート挿入術・胃瘻造設術・大腸ポリープ切除術

ウ 平成 27 年度 3 階病棟看護目標

患者・家族が安心できる入院生活の提供とやりがいを持ち働きやすい職場環境を目指す。

(ア) 安全・安楽な療養生活の提供を行う。

- a 毎日の昼カンファレンスを徹底し、看護計画に沿った個別性の看護を立案し、個別性の看護を提供する。
- b 毎週火曜日にリハビリテーション科と合同カンファレンスを行い、他セクションとの情報交換を行う。
- c 優しく丁寧な言葉使いで接する。
 - ・ 受持ち制看護の導入をし、各自が責任を持って取り組むことができた。接遇委員会を中心に「優しい言葉使い」「身だしなみチェック」を日々実施し、看護業

務で実践した。

(イ) 常に入院対応できる体制作りを行う。

- a 急性期内科病棟の特性と役割を理解し、お互いに協力し合える関係性作りに各自努力し、入院の受入率 100%を目指す。
- b 多職種と合同カンファレンスを行うなど積極的な連携を図れるように計画調整する。
- ・ 日々のベッドコントロールを活かし急性期病棟として入院受け入れはほぼ 100%に近づけた。リハビリテーション科との合同カンファレンスは毎週 1 回の関係が定着し、お互い情報交換ができ同じ方向に向かって退院支援へつなげる事ができた。

(ウ) キャリアアップを目指す。

- a 院内・院外研修の積極的な参加として、院外研修は一回/年以上、院内研修は 5 回/年以上の参加を目指す。
- b 個々の得意分野を共通理解できるよう病棟内で分散教育研修会を実施する
- ・ キャリアラダーの年間教育計画に沿い目標を設定し取り組み、個々のキャリアアップに努めた。教育担当の協力で院外研修・院内研修・長期研修に積極的に参加できた。

(4) 4階病棟



看護師長 鈴木 三恵子

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

特色

平成 27 年 4 月 1 日 看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 14 名
准看護師 1 名 (看護学生)
看護助手 8 名 (うち看護学生 2 名)

平成 28 年 3 月 31 日 看護師長 1 名 主任看護師 2 名 看護師 14 名
准看護師 1 名 (看護学生)
看護助手 8 名 (うち看護学生 3 名)

慢性期病棟 47 床 (地域包括ケア病床 24 床含む)

入院対象は院内外からの急性期治療が終了した患者と地域包括ケア病床への受入れ、及びレスパイトを目的とした患者の受入れ。

(2) 統計

平成 27 年度総入院患者数は 461 名、うち内科 237 名 (51%)、外科 14 名 (3%)、整形 210 名 (46%)。入院患者は 80 歳以上が 60% を占め、地域包括ケア病床占床率は 81.6% であった。在宅復帰率は 90.0% であり、その内訳は自宅 74.5%、施設 (居住形態) 13.5%、その他 2% であった。

3 月末日現在数 (単位: 人)

区分	20 ~29 歳	30 ~39 歳	40 ~49 歳	50 ~59 歳	60 ~69 歳	70 ~79 歳	80 歳 ~89 歳	90 歳 以上	合計
内科	0	1	3	3	14	63	102	51	237
外科	0	0	0	1	0	8	4	1	14
整形外科	0	3	4	6	13	63	95	26	210

(3) 病棟看護目標

患者・家族が日常生活の場に安心して戻れるよう支援します

「安心できる暮らしへ」

ア 患者・家族の思いを大切にする

(評価)

C S委員会への苦情は1件「ナースコールをしても全然来ない」であった。これについては優先順位を考え、できるだけ迅速に対応すること、適切な声掛けを確認した。接遇に関しては、「親切で優しい対応」とお褒めの言葉があった一方、「言葉や態度が上から目線」との指摘があった。いずれもその都度、内容を振り返り情報を共有し、言動を意識した行動ができる組織作りに取り組んだ。

イ 安全で安心できる療養環境を提供する

(評価)

インシデントは55件であった。そのうち、転倒、転落に関連したインシデントは全体の40%であった。転倒、転落事故が心配されるケースでは、事前の対応策を講ずるとともに、せん妄や不穏行動が顕在化したときに家族が現状認識できるように現状を家族とも共有することを行い、アクシデントに繋げない取組ができた。

ウ 看護の立場で病院経営に貢献する

(評価)

平均占床率は91%であった。予定入院以外にも社会的入院、安静目的の入院の受入れをして自部署としての役割を果たすことができた。また、地域包括ケア病床では、7月から整形外科の一部で転床の基準化を行い、占床率向上に貢献することができた。

エ 看護の質の向上を図ることができる

(評価)

院内キャリアラダーには、ほぼ全員が計画的に参加することができた。それぞれがキャリアアップを目指して積極的に取り組むことができた。また、研修で得た新しい情報は伝達講習で知識、技術の共有を図り看護の質向上に努めた。今後も一人ひとりの目標を把握し、目標達成に関連した研修や進捗度への声掛けをして意欲を高める支援を行っていききたい。

地域包括ケアシステムの推進が本格化し、当院ではこのうち医療分野の中心となる地域包括ケア病床を平成26年9月に開設した。高齢者人口の増加や認知症を抱える高齢者が増加するなど医療を取り巻く環境も変化してきている。こうした状況に対応し、患者とその家族が住み慣れた地域で安心した暮らしが続けられるように支援し、患者を受け入れる体制をしっかりと整えていきたい。

(5) 手術室



看護師長 下地 福子

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア 患者・家族が安心して手術に臨めるような体制

(ア) 患者・家族・職員に笑顔であいさつをする。

(イ) 他部門との情報共有

a 術前訪問 100%維持と術前チェックリストでの再確認。

b 術後チェックリストに沿った術後訪問の検討と実行で、情報共有により患者中心の看護が提供できる。

評価：緊急手術以外入院患者に対し 100%の術前訪問ができた。また、術前訪問時、手術の流れ説明に対し“事前の説明で安心して手術に臨めた”とお褒めの言葉が目安箱内に多々あった。来年度も更なる接遇向上に努める。

また、術前訪問の時間で術後患者へ挨拶・声掛けを時間の範囲で行っている。患者の思いや言葉がきけ、周術期の看護の振り返りと訪問により他患者へも還元できた。

(ウ) 手術が安全に遂行するよう点検・整備

a 始業前・始業後チェックリストでダブルチェックをする。

b 機材異常時、速やかに報告・対応する。

イ スタッフが安全・円滑に働ける職場環境を整える

(ア) 手術が円滑に流れるようお互いが声を掛け合い、ミーティング時情報共有で、各人の動きがわかるようにする。

(イ) コスト意識を持ち、材料費削減・材料の予備を最小限にとどめ無駄のない業務をする。

(ウ) 各人は年 1 回以上の研修に行き中材・手術室のキャリアアップをする。

評価：時間の有効活用、事前のイメージトレーニングと、声の掛け合いにより安全な手術展開となった。件数調整・時間・人数調整をし、研修参加がで

きる様努力する。

ウ 人員： 看護師長 1 名
看護師 4 名
看護助手 1 名 （合計 6 名）

（２）業務実績

ア 手術室・中央材料室

（ア）業務実績

平成 27 年度の手術件数は 629 件でした。内訳は外科 162 件、整形外科 122 件、眼科 342 件、内科 3 件で前年度より 97 件減でした。

今年度は、手術台・無影灯・ジェットウォシャーが新しく交換又は設置された。

中央材料室では院内で使用する医療機器の洗浄から滅菌まで一括業務を行っている。また、単包化により滅菌有効期限の延長が向上した。

日々医療機器・備品点検を行い安全に手術が行えるよう、また緊急手術にも備えている。術前訪問を実施し、患者の不安軽減に努めている。術前訪問は 100% 実施できている。

（イ）手術件数状況

a 科別

（単位：件）

区分	外科	整形外科	眼科	内科	婦人科	その他	計
手術	162	122	342	3	0	0	629
緊急手術	8	6	0	0	0	0	14

b 年齢別

(単位：件)

区分	0~19 歳	20~29 歳	30~39 歳	40~49 歳	50~59 歳	60~69 歳	70~79 歳	80 歳以上	計
外科	2	2	5	6	12	29	51	56	163
整形外科	7	0	5	5	5	27	32	40	121
眼科	0	0	0	3	6	67	158	108	342
内科	0	0	0	0	0	0	0	3	3
計	9	2	10	14	23	123	241	207	629

(6) 外来



看護師長（H28.3.31 現在） 園田 恵美子

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア 診療科：内科（循環器科 呼吸器科 糖尿病） 外科 整形外科 眼科 耳鼻咽喉科 産婦人科 小児科 神経内科 脳神経外科 泌尿器科 皮膚科
内視鏡 フットケア外来 リンパ浮腫外来

イ 救急外来：24 時間体制（地域医療科・手術室・病棟師長の応援体制あり）

ウ 人員： 看護師長 1 名
主任看護師 3 名
看護師 7 名
非常勤看護師 4 名
非常勤准看護師 7 名
非常勤看護助手 8 名 （合計 30 名）

(2) 業務実績

ア 患者数 92,442 人／年
平均患者数 380 人／日

イ 健診業務：国保・なごみ・特定・一般健診 621 件
市職・船員・その他事業所等の健診 1,365 件
集団健診 1,049 件
土曜日健診（毎月第 2 土曜日）癌検診と国保等健診を行う。

ウ 予防注射：インフルエンザ（院内）1,077 件
インフルエンザ（出張）179 件
破傷風・HB ワクチン 226 件
肺炎球菌ワクチン 179 件

エ 平成 27 年度科別患者数

(単位：人)

区分	内科	神経 内科	外科	整形 外科	産婦 人科	小児科	眼科	耳鼻咽 喉科	脳神経 外科	泌尿 器科	皮膚科
4 月	2,815	174	746	2,445	108	177	591	276	149	206	204
5 月	2,562	160	752	2,207	107	175	536	214	149	195	177
6 月	2,664	169	773	2,538	174	232	614	293	144	218	263
7 月	2,818	176	872	2,657	121	242	599	265	148	206	225
8 月	2,735	158	802	2,290	127	218	566	268	122	216	234
9 月	2,586	140	795	1,960	121	215	426	248	123	183	211
10 月	2,792	184	837	2,405	133	239	575	259	179	207	240
11 月	2,684	169	764	2,111	163	259	530	249	119	217	156
12 月	2,787	158	744	2,124	132	268	550	250	135	210	208
1 月	2,762	168	704	2,073	156	229	470	207	133	200	221
2 月	2,865	157	768	2,186	138	317	541	278	156	193	193
3 月	3,020	173	802	2,309	141	231	479	291	138	190	236
計	33,090	1,986	9,359	27,305	1,621	2,802	6,477	3,098	1,695	2,441	2,568

オ フットケア外来

第 1 木曜日、第 2 第 4 火曜日の 3 日／月

H27 年度は 165 件であった。

(3) 外来目標及び評価

『患者様のニーズに対応し、満足していただける外来にします』

ア 毎月の外来会議において、事例検討を通して接遇・倫理観の意見交換をする
外来における困難事例やインシデント事例を検討できた。

イ 各科のマニュアルは半年ごとに見直し、追加は常時更新する

内視鏡の説明用紙を見直すことができた。各科マニュアルの改訂は引き続き行っていく。

ウ 施設職員からの情報をもとに適切な対応をする

施設職員から救急要請前に電話連絡が入る場合の応対を統一した。施設からの入院において特別問題は生じなかった。

エ 患者情報を病棟スタッフへ正確に伝える。

入院時チェックリストの内容に必要な項目を追加した。引き続き検討をして行く。

オ 救急処置マニュアルの整備

H27 年度中に既存のものは見直し、または新規作成救急処置マニュアルの完成には至らなかった。引き続きマニュアルの整備を行なっていく。

(7) 看護教育室



看護師長 舘林 美加子

○活動内容

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア 公開講座 6 コース

- (ア) 褥瘡管理
- (イ) 薬剤管理
- (ウ) リハビリテーション
- (エ) 地域連携
- (オ) 緩和ケア
- (カ) トピックス 3 回 (退院支援、医療処置、パーキンソン氏病)

イ 神奈川歯科大学短期大学部看護学科 実習の受入れ

(2) 業務実績

ア 院内研修

(ア) 新採用職員研修及び新人看護師研修

	月 日	内容	講師・担当	受講者
新採用者研修	27 年 4 月 1 日	オリエンテーション ・ 辞令交付式・職務義務 ・ 看護部の概念・体制・組織について・職員紹介 ・ 総院長講話 ・ 院内教育について・仕事の基本「報連相」公務員倫理	小澤総病院長 嘉山看護部長 吉田三浦市長 市役所職員	新採用 7 名
	2 日	・ 人事諸制度①・市の地理と歴史 ・ 市長講和	救急救命士 舘林美加子	新採用 5 名
	3 日	・ 感染講義①② ・ 地域財政制度と本市の財政状況 ・ 救急救命講座	杉崎絵美 感染管理認定看護師	
	6 日	・ 三浦市の経済について ・ 民間の共同について ・ 地方自治体・地方公務員法入門	市役所職員	
	7 日	・ 清掃体験研修		7 名
	8 日	・ 人事諸制度② ・ 感染講義①② ・ 採血、点滴の概念 ・ 採血実技①	市役所職員 杉崎絵美	新採用 5 名
	9 日	・ 接遇（マナーと実技）	感染管理認定看護師	受講者
		・ 採血実技② 筋肉注射・皮下注射 血糖測定含む	舘林美加子	

新採用者研修	月 日	内容	講師・担当	受講者
	27 年 4 月 10 日	情報研修・健康管理・市の施設見学	市役所職員	新採用 5 名
	13 日	・固定チームナーシング ・復命書・出張伝票様式 ・スーパーキャス使用手順・採血実技③	舘林美加子	新採用 5 名
	14 日	・心電図モニター・除細動器・ベットサイドモニターの 使用方法 ・看護必要度について ・採血実技テスト ・日々の振り返りについて	嘉山看護部長 原主幹 舘林美加子	新採用 5 名
	15 日	・点滴の計算方法 ・点滴確保の手順 ・ ・シリンジポンプ 輸液ポンプの適正な使用方法 ・院内の接遇マニュアル 話し方について	舘林美加子 高橋さつき 瀬古澤和子 高久乙華	新採用 5 名
	16 日	・医療安全について ・リスクマネジメントについて ・災害看護	後藤令子 鈴木三恵子 原主幹	新採用 5 名
	17 日	・救急外来 内視鏡について ・プリセプター交流会 挨拶	長田泰代 安田佳恵 一條生久 瀬古澤和子 高橋さつき	新採用 5 名
	20 日	・看護記録関係 ・吸引の手順 ・倫理綱領	山崎静枝 原主幹	新採用 5 名
	21 日	・口腔ケアについて ・コーチング ・薬剤管理について	鎌倉保健福祉事務所三崎センター 長島歯科衛生士 猪崎薬剤科長	新採用 5 名
	22 日	・高齢者看護について ・高齢者疑似体験 ・筋肉注射・皮下注射・血糖測定テスト	舘林美加子	新採用 5 名
	23 日	・電子カルテ操作	山本浩文	新採用 5 名
	6 月 13 日	・3ヶ月フォローアップ ・課題の明確化 現在の思い ・急変の看護について ・夜間のリーダーについて	舘林美加子	新採用 5 名
	9 月 11 日	・6ヶ月フォローアップ ・現状報告 看護の展開 ・現在の到達度	山崎静枝 舘林美加子	新採用 5 名
	12 月 11 日	・9ヶ月フォローアップ ・多重課題 ・看護展開の実際 ・呼吸器講習会 ディスカッション	舘林美加子 山本浩文	新採用 5 名

新採用	月 日	内 容	講師・担当	受講者
	28年2月25日	・12ヶ月フォローアップ ・2年目に向けての課題 ・日々のリーダーの役割	館林美加子	新採用 5名
	3月25日	・1年の振り返り 発表		

(イ) キャリアラダー

レベル	研修講座名	内 容	担当	受講者
I－II	27年6月2日 6月4日	ケースレポート導入講義	下地福子	17名
	27年7月1日	卒後2年目 呼吸器勉強会	館林美加子	7名
	27年10月22日 29日	看護観 心に残った看護 GW	山本浩文	16名
	28年1月28日2月4日	ケースレポート報告会	中川恵	12名
	28年3月30日	発表	下里未来 山崎静枝	7名
I－III	27年6月16日	再構成導入講義 (9月30日レポート提出)	市川夏実	9名
	27年7月1日	卒後3年目 呼吸器勉強会	鈴木三恵子	9名
	27年9月30日	レポート提出	柴田弘子	9名
	27年10月15日	再構成グループワーク看護観 再構成	渡辺みゆき	9名
	28年2月25日	リーダーシップ GW	原田左和子	9名
II	27年6月8日	看護研究 導入講義	原主幹	
	27年7月9日	高齢者のエンドオブライフケア (石川)	園田恵美子	12名
	27年9月17日	エンドオブライフにおける看護 (石川)	杉崎絵美	17名
	27年10月16日	進行状況	長田泰代	3名
	28年4月22日	発表	石川智子	9名

(ウ) 選択コース

コース	日程	担当	受講者
感染Ⅰ	①27年6月19日 感染標準予防策 ②7月2日 感染経路別予防策 ③1月18日 レポート提出	杉崎絵美感染管理認定看護師	1名
感染Ⅱ	①27年6月26日 感染症法について ②11月26日 27日 ノロウイルス対策 ③12月17日 18日 感染対策と人権について ④28年1月 レポート提出	杉崎絵美感染管理認定看護師	12名
感染Ⅲ	①27年6月26日 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 ②9月28日 抗菌剤適正使用 ③12月21日 教育指導の演習 ④28年1月 教育指導 演習の完成	杉崎絵美感染管理認定看護師	3名

コース	日程	担当	受講者
看取り	①27年6月10日 がん性疼痛と鎮静薬 ②9月28日 終末期患者の症状緩和 ③28年1月13日 看取りの看護 ④28年2月 レポート提出	柴田弘子緩和ケア認定看護師	4名
リーダーシップ	①27年7月16日 リーダーシップとは ②10月20日 八甲田山から学ぶリーダーシップ ③11月30日 レポート提出④理想とするリーダー像 GW	舘林美加子 山本浩文	2名
災害看護	①27年6月24日 災害医療と看護 ②9月8日 専門的知識、技術を習得する ③12月15日 災害時の看護の役割・対策・訓練④アクションカードをつくろう	原主幹 市川夏実 長田泰代	7名

(エ) 公開講座

コース	日程	内容	講師	受講者
感染管理	27年6月12日	肝炎と食中毒	感染委員会	8名
	27年9月16日	結核と疥癬	杉崎絵美感染管理認定看護師	14名
	27年11月20日	ノロ・インフルエンザについて	定看護師	6名
緩和ケア（看取り）	27年7月8日	地域・在宅の緩和ケアを考える	柴田弘子緩和ケア認定看護師	11名
	27年10月21日	癌性疼痛について	定看護師	10名
	28年1月26日	その人らしく生きる事例検討		9名
褥瘡管理	27年6月17日	褥瘡と栄養管理	大塚製薬株式会社	16名
	27年10月14日	褥瘡予防について	パラマウントベット	18名
リハビリテーション	27年5月28日	クッションでとれる体の痛み	理学療法士	10名
	27年11月5日	認知症について	竹内晃雄作業療法士	13名
	28年3月2日	嚥下について	後藤健太郎作業療法士	13名
薬剤管理	27年9月3日	残暑を乗り越える脱水対策	太田健介薬剤師	11名
トピックス	27年10月8日	退院支援と地域連携	安藤麻由美社会福祉士 兒玉末医師	28名
	28年2月9日	在宅・施設における医療処置	加藤慈薬剤師	23名
	28年2月25日	パーキンソン氏について	神経内科東山医師	36名

(オ) 院内研修会・伝達講習会

院内 研 修 会	月 日	研修内容	講師	
	27 年 5 月 27 日	生体モニターについて	日本光電	11 名
	27 年 6 月 12 日	急変の看護 シミュレーション	3 階 看護師	14 名
	27 年 6 月 11 日	フォルテオ勉強会 3 階	福本哲也薬剤師	16 名
	27 年 6 月 12 日	フォルテオ勉強会 4 階	福本哲也薬剤師	11 名
	27 年 6 月 17 日	フォルテオ勉強会 2 階	福本哲也薬剤師	10 名
	27 年 6 月 18 日	フォルテオ勉強会 外来	福本哲也薬剤師	6 名
	27 年 6 月 18 日	ギプス固定	川邊れい子 塩瀬実弥子	40 名
	27 年 6 月 25 日	ビーフリードについて 3 階	製薬会社	6 名
	27 年 6 月 30 日	ビーフリードについて 4 階	製薬会社	9 名
	27 年 7 月 1 日	ビーフリードについて 2 階	製薬会社	12 名
	27 年 7 月 2 日	ビーフリードについて 外来	製薬会社	9 名
	27 年 7 月 9 日	高齢者のエンドオブライフケアについて	石川智子緩和認定ケア看護師	24 名
	27 年 7 月 14 日	退院支援について	安藤麻由美社会福祉士	33 名
	27 年 7 月 30 日	呼吸器 チェックリストの見方	山本浩文	13 名
	27 年 9 月 1 日	先輩から学ぶ包帯法	沖野英美子 塩瀬実弥子	20 名
	27 年 9 月 15 日	栄養療法とサルコペニア周術期の管理	川邊医師	35 名
	27 年 9 月 30 日	画像の見方①	加藤静放射線技師	17 名
	27 年 10 月 23 日	看護必要度研修①	渡辺みゆき 下里未来	21 名
	27 年 11 月 4 日	看護必要度研修②	渡辺みゆき 下里未来	16 名
	27 年 11 月 12 日	A ライン研修会	関本藍 他 OP 室スタッフ	25 名
	27 年 11 月 6 日	口腔ケアについて①	医科歯科大学研究科白田先生	17 名
	27 年 11 月 24 日	当院の転倒について	竹内晃雄作業療法士 林賢治理学療法士	9 名
	27 年 12 月 1 日	転倒転落・離床センサーについて	パラマウントベット:光田	14 名
	27 年 12 月 3 日	口腔ケアについて②	医科歯科大学研究科白田先生	11 名
	27 年 12 月 9 日	NST 経腸について	大塚製薬工場:前川	10 名
	27 年 12 月 10 日	呼吸器研修 VELA の使用方法	IMI	11 名
	28 年 1 月 15 日	心電図 生体モニターについて	日本光電	8 名
	28 年 1 月 27 日	12 誘導使用方法!電子カルテの設定まで	一ツ谷麻衣子 長田泰代	27 名
	28 年 2 月 15 日	緩和ケア	兒玉末医師	11 名
	28 年 2 月 19 日	疼痛緩和 オピオイドについて	加藤慈薬剤師	23 名

(カ) 助手研修

助 手 研 修	月 日	研修内容	講師	受講者
	27 年 6 月 22 日 23 日	感染管理	杉崎絵美感染管理認定看護師	16 名
	27 年 12 月 15 日 16 日	医療安全 看護助手研修	園田恵美子	18 名
	28 年 2 月 18 日・25 日	高齢者とのコミュニケーションスキル	石川智子緩和ケア認定看護師	9 名

イ 院外研修

(ア) 出張研修・参加状況

月 日	研修テーマ	開催場所	受講者
27 年 5 月 22 日 6 月 6 日 8 月 29 日 11 月 28 日 28 年 1 月 30 日	神奈川県看護協会他施設合同研修 新人看護師職員研修	神奈川県総合医療会館 5 階	5 名
27 年 5 月 28 日	平成 27 年度 がんばれ新人ナース	横浜市民会館文化会館 関内ホール	5 名
27 年 5 月 30 日	第 65 回神奈川県国民保健団体連合会診療施設 部研修会	大和市保健福祉センター 1 階ホール	14 名
27 年 7 月 26 日	看護実習指導者フォローアップ研修	キャリア支援研修センター藤沢	1 名
27 年 7 月 31 日	2 年目ナース研修 これからもイキイキと看	キャリア支援研修センター藤沢	3 名
27 年 8 月 21 日	護を続けるために！	神奈川県総合医療会館	2 名
27 年 8 月 30 日	ビックレスキューかながわ	神奈川県総合防災センター	4 名
27 年 9 月 26 日	リレーフォーライフ 2015 三浦半島	神奈川県立保健福祉大学	2 名
27 年 12 月 7 日 18 日	新人看護職員 責任者研修	神奈川県総合医療会館	1 名

神奈川県看護協会 教育研修 A 群～D 群

研修テーマ	開催場所	受講者
看護協会教育研修 A 群	神奈川県総合医療会館	3 名
看護協会教育研修 B 群	神奈川県総合医療会館	7 名
看護協会教育研修 C 群	神奈川県総合医療会館	7 名
看護協会教育研修 D 群	神奈川県総合医療会館	8 名

(イ) 看護管理研修会

期間	研修テーマ	開催場所	受講者
27 年 6 月 27 日	平成 27 年度七市公立病院 看護師長研修会	藤沢労働会館	嘉山看護部長 原主幹 中條主幹 園田恵美子 下地福子 鈴木三恵子 市川夏実 山本浩文 館林美加子 原田左和子 柴田弘子 杉崎絵美 中川恵 下里未来 長田泰代 山崎静枝 渡辺みゆき
27 年 7 月 24 日	病院等における災害防止 対策研修会	TKA 東京駅前カンフ ァレンスセンター	中條主幹
27 年 9 月 4 日 11 日 14 日 15 日 10 月 2 日 7 日 9 日	医療安全管理者養成研修	神奈川県総合医療会館	中條主幹

(ウ) 全国自治体病院協議会研修

日時	研修テーマ	開催場所	受講者
27 年 7 月 30 日 31 日	平成 27 年度看護師研修会	東京ラーニングスクエア新橋	渡辺みゆき
27 年 8 月 29 日	重症度、医療、看護必要度評価者 養成研修会	ベルサール九段	渡辺みゆき 下里未来
27 年 8 月 19 日 20 日・21 日	平成 27 年度看護管理研修会	東京都市センターホテル	中川恵
27 年 11 月 18 日 19 日・20 日	平成 27 年度看護管理研修会	東京都市センターホテル	山本浩文

(エ) 院外講師

月 日	研修テーマ	講師
27 年 1 月 21 日 22 日 28 年 2 月 9 日 10 日	H27 年度看護協会 教育研修 D 群 1 災害看護実務編① D 群 2 災害看護実務編②	原主幹
27 年 10 月～11 月	神奈川歯科大学短期大学部看護学科 人間関係	嘉山看護部長

ウ 院内発表会

(ア) 新人看護師発表者 28 年 3 月 25 日

テーマ	発表者
「1 年間を振り返って学んだこと 2 年目の課題」	飯島彩綾 松崎彩 高橋宏美 水野佳苗 三浦朋夏

参加者 14 名

(イ) ラダーⅠ－Ⅱ ケースレポート発表会 28年3月30日

所属	発表者	テーマ
2階	一山春花	人工肛門造設を受ける患者のストーマ管理について
2階	鈴木裕子	人工肛門造設術を受けた患者への看護 ～個別性に合わせたセルフケアの確立～
2階	松井紀子	ADL回復にともなう気持ちの変化 ～ストーマ便廃棄自立まで～
3階	蛭田千香子	食べることを失った患者への援助 ～私たちにできること～
手術室	関本藍	術後訪問を実施して学んだこと～患者の体験から学び、今後に活かしていきたいこと～
4階	伊藤千瑞子	がんターミナル期の患者に対するトータルペインのかかわり
4階	原かおり	終末期患者の口腔ケア～出血傾向にある患者の口腔ケア方法について考える～
4階	一條生久	安心した在宅介護に繋げる退院支援について
4階	益島美帆	がん終末期患者の心に寄り添う看護
外来	四竈三佳	患者と向き合う ～外来通院患者との関わりから学んだこと～
外来	岸田美智子	患者の行動を変える動機づけに関する考察

参加者 25 名

(ウ) 看護研究 院外発表

日程	開催地	テーマ	発表者
27年5月30日	神奈川県国民健康保険団体連合会診療施設部会	リンパ浮腫外来開設の準備	中川恵
27年8月7日	第 55 回全国国保地域医療学会研究発表	リンパ浮腫ケアの効果 ～リンパ浮腫外来開設から現在までの経過報告	中川恵
27年11月14日	神奈川県看護協会横須賀支部病院・施設看護研究	リンパ浮腫ケアの効果 ～リンパ浮腫外来開設から現在までの経過報告	中川恵

エ 職場体験

職場体験日	体験者数	担当者
27年5月28日29日	長井中学校 5名	池田安弘 原かおり
27年11月19日20日	衣笠中学校 7名	鈴木未来
28年1月13日14日	三崎中学校 10名	長谷川嘉寛
28年1月21日22日	初声中学校 6名	原かおり
28年2月3日4日	南下浦中学校 5名	長谷川嘉寛 原田左和子

オ 1 日看護体験

職場体験日	体験者数	担当者
27 年 7 月 29 日	高校生 10 名	下里未来 原田左和子 原かおり 安田佳恵 池田安弘 舘林美加子
27 年 7 月 30 日	高校生 10 名	
27 年 7 月 31 日	高校生 10 名	

カ 神奈川歯科大学短期大学部看護学科実習

実習日	期間	受入れ人数
27 年 8 月 24 日～9 月 3 日	8 日間	5 クール 4 名
27 年 9 月 7 日～9 月 17 日	8 日間	6 クール 4 名
27 年 9 月 28 日～10 月 8 日	8 日間	7 クール 4 名

4 事務局

(1) 総務課



総務課長 矢尾板 昌克

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア 経営状況

三浦市立病院改革プランに基づき各種経営効率化の取組を実施した。この結果、三浦市立病院改革プランの収支計画の目標である単年度資金収支の黒字化及び経常損益の黒字化を平成 23 年度から 5 年連続で達成した。

イ 公立病院改革事例集への掲載

総務省が作成する経営改革に成果を出した全国 20 の公立病院の優良事例を取りまとめた、「公立病院経営改革事例集」に当院の事例が掲載された。

(2) 業務実績

ア 経理

(ア) 業務実績

本年度の事業収益は、2,603,148,297 円で、これに対して事業費用は、2,530,203,137 円となり、収入、支出差引き 72,945,160 円の黒字である。

事業収益 2,603,148,297 円の内容は、医業収益 2,468,046,384 円、医業外収益 135,101,913 円である。

一方、事業費用 2,530,203,137 円の内容は、医業費用 2,403,344,207 円、医業外費用 126,607,860 円、特別損失 251,070 円である。

(イ) 事業収益に関する事項

区分	平成 27 年度
医業収益	2,468,046,384 円
医業外収益	135,101,913 円
事業収益	2,603,148,297 円

(ウ) 事業費用に関する事項

区分	平成 27 年度
医業費用	2, 403, 344, 207 円
医業外費用	126, 607, 860 円
特別損失	251, 070 円
事業費用	2, 530, 203, 137 円

イ 医療機器等

(ア) 業務実績

医療機器等については、デジタルラジオグラフィー一式、セントラルモニター一式、手術室用ジェットウォッシャー洗浄装置等の整備を図った。

(イ) 器械備品及び車両取得の概況

購入年月日	品名	金額 (円)	購入先
平成 27 年 11 月 30 日	セントラルモニター一式	8, 625, 918	アルフレッサ (株) 横須賀支店
平成 27 年 12 月 25 日	腹腔鏡手術カメラ及び CCU コンソール	5, 362, 632	アルフレッサ (株) 横須賀支店
平成 28 年 2 月 5 日	免疫測定装置	1, 944, 000	アルフレッサ (株) 横須賀支店
平成 28 年 2 月 5 日	手術室用ジェットウォッシャー洗浄装置	5, 616, 000	アルフレッサ (株) 横須賀支店
平成 28 年 3 月 10 日	全自動散薬分包機 (コンベア無)	3, 315, 600	アルフレッサ (株) 横須賀支店
平成 28 年 3 月 31 日	デジタルラジオグラフィー一式	69, 304, 680	アルフレッサ (株) 横須賀支店



(2) 医事課

医事課長（H28.3.31 現在） 石渡 秀朗

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

ア 三浦を元気にするリビングラボラトリーの運営協定

平成 27 年 10 月「住民」「企業」「行政」「大学」等が参画し、課題に応じた「検討→開発→評価」を繰り返し行いながら製品やサービスあるいは行政施策等を開発する「地域共創型のオープンプラットフォーム」として、リビング・ラボの運営協定を行った。ロボットを使った健康管理の共同研究や転倒リスク、栄養状況の評価などの講座を設定した「三浦市民健康大学」の開催及び講座・栄養相談・予防体操教室など 8 つの教室を配置した「三浦市民健康大学オープンキャンパス」を開催した。開催後は、今後の同事業の充実や改善に活用するため参加者にアンケートを実施した。

イ 健診業務（土曜健診に向けて）

市民要求を実現する会より、「人間ドックの受付人数が平日 5 名のため、申し込みから受検まで時間がかかりすぎるので土曜日などに人間ドックの枠を設けて、受検人数を増やす取り組みをしてほしい。」と要望があり、「受診しやすい体制の検討」を行った。平成 28 年 4 月より、毎月第 2 土曜日に実施している土曜健診にドック枠を 5 名分増やし実施することを決定した。

ウ 神奈川県医師会在宅医療 ICT システム構築モデル事業参入

平成 27 年 10 月神奈川県医師会において、在宅医療 ICT システム構築モデル事業を神奈川県内に広めるための説明会を行った。11 月には神奈川県医師会は三浦市医師会を対象に同モデル事業のシステムに関する説明会を開催し、三浦市医師会は三浦市立病院を基幹病院として事業参入することを決定した。

(2) 業務実績

ア 健康診断

(ア) 三浦市集団健診

本年度は、三浦合同庁舎、南下浦市民センター及び初声市民センターの各会場に赴き、三浦市国民健康保険の特定健診を実施した。

三浦合同庁舎 6 回、南下浦市民センター 4 回及び初声市民センター 2 回合計 12 回実施し、延べ 1,209 名の方が受診した。

(イ) 出張健診

市内医療介護福祉関係施設延べ 6 施設で実施し、延べ 476 人の方が受診し入居者の方々と勤務されている方々を効率的に健診は受けられるよう配慮して実施した。

(ウ) 出張予防接種

インフルエンザ予防接種について施設 1 件、接種人数 88 名。官庁 1 件、99 名。合計 187 名の出張予防接種を実施した。

イ 施設基準

平成 27 年度中届出した施設基準

- (ア) 基本診療料 感染防止対策加算 1 「辞退」
- (イ) 基本診療料 感染防止対策加算 2 「変更」
- (ウ) 基本診療料 医師事務作業補助体制加算 2 (50 対 1) 「変更」
- (エ) 基本診療料 患者サポート体制充実加算 「変更」
- (オ) 特掲診療料 地域連携診療計画退院時指導料Ⅰ 「新規」
- (カ) 特掲診療料 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅰ 「変更」
- (キ) 特掲診療料 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 「変更」
- (ク) 特掲診療料 地域連携診療計画退院時指導料Ⅱ 「新規」
- (ケ) 特掲診療料 胃瘻造設術 「新規」
- (コ) 特掲診療料 脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ 「変更」
- (サ) 特掲診療料 検体検査管理加算Ⅱ 「変更」
- (シ) 特掲診療料 造血器腫瘍遺伝子検査 「新規」
- (ス) 基本診療料 感染防止対策加算 1 「変更」
- (セ) 基本診療料 救急搬送患者地域連携紹介加算 「辞退」
- (ソ) 基本診療料 救急搬送患者地域連携受入加算 「変更」

(3) 栄養課



栄養課長 矢尾板 昌克

○活動状況

(1) 平成 27 年度のトピックス

4月から、それまで不定期に行っていた誕生日のお祝い食を、全入院患者対象に開始した。1月からは食物繊維給与量増加のため、夕食時に麦ごはんの提供を開始した。その他、主食量の変更に伴う副食内容の見直し、ゼリー食の献立変更、職員検食の継続等、給食業務委託会社と共に献立内容の改善へ取り組んだ。今後も患者満足度向上を図るための取組を継続していきたい。

(2) 業務実績

ア 栄養食事指導

(ア) 業務実績

昨年度より指導件数は減少した。今後は多職種との連携を強化し、多様な疾病における指導の充実に努めたい。

(イ) 栄養食事指導実績数表

(単位：件)

年度 区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
入院患者	86	60	48
外来患者	43	150	124
合計	129	210	172

イ 給食業務

(ア) 業務実績

昨年度より食数は増加したが、特別食比率は減少した。

(イ) 年度別食数表

(単位：食)

年度 区分		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
患者給食数	一般食	71,696	69,286	73,365
	特別食	20,176	23,651	21,574
	経管栄養	2,464	3,181	2,496
	小計	94,336	96,118	97,435
患者外給食数		2,321	2,286	2,459
合計		96,657	98,404	99,894

(ウ) 平成 27 年度 月別食数表

(単位：食)

区分 月	患者給食数				患者外 給食数	合計
	一般食	特別食	経管栄養	小計		
4 月	6,311	2,378	316	9,005	203	9,208
5 月	6,341	1,856	185	8,382	204	8,586
6 月	5,982	1,429	129	7,540	202	7,742
7 月	6,244	1,657	268	8,169	208	8,377
8 月	6,495	2,061	223	8,779	210	8,989
9 月	5,980	1,727	371	8,078	203	8,281
10 月	6,750	1,518	89	8,357	207	8,564
11 月	5,830	1,205	152	7,187	203	7,390
12 月	6,687	1,653	307	8,647	207	8,854
1 月	6,292	1,956	189	8,437	208	8,645
2 月	5,660	2,180	71	7,911	194	8,105
3 月	4,793	1,954	196	6,943	210	7,153
合計	73,365	21,574	2,496	97,435	2,459	99,894

ウ その他

神奈川県立保健福祉大学が主催する「三浦を元気にするリビングラボトリー」事業の市民健康大学及び市民健康大学オープンキャンパスに参加し、地域高齢者の健康増進に取り組んだ。

Ⅲ 委員会の状況

1 三浦市立病院リスクマネジメント委員会



委員長 石渡 秀朗（副管理者）（H28.3.31 現在）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ア 医療事故防止対策に関すること。
- イ 医療事故の分析及び再発防止策に関すること。
- ウ 訴訟及び和解に関すること。
- エ その他医療事故に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 4 月 28 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・インシデント・アクシデント分類の細分化とインシデントレポートの様式変更について及び入院患者における内服薬自己管理についての協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 16 名

イ 第２回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 5 月 26 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・点滴ポンプの使用基準服薬自己運用マニュアルについての協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 14 名

ウ 第3回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年6月23日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・転倒マット導入に向けての協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 16名

エ 第4回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年7月28日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・苦情対処マニュアルについての協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 16名

オ 第5回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年8月25日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・入院患者無断離院対応マニュアルについての協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 15名

カ 第6回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年9月29日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・ADLと転倒に関する調査研究についての承認
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 14名

キ 第7回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年10月28日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容

- ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 16 名

ク 第 8 回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 11 月 24 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・入院患者無断離院発生時対応マニュアルについての協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 15 名

ケ 第 9 回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 12 月 22 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・ADL と転倒に関する調査研究についての承認
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 13 名

コ 第 10 回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 1 月 26 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・入院患者無断離院予防策及び発生時対応マニュアルについて協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 13 名

サ 第 11 回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 2 月 23 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
 - ・入院患者無断離院予防策及び発生時対応マニュアルについて承認及び夜間施設について協議
 - ・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 14 名

シ 第12回「リスクマネジメント委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年3月29日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
・事例報告並びに分析及び再発防止策についての協議
- c 参加人数 13名

② 研修

ア 第1回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成27年6月30日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ「災害について」
講師 地域医療科長
- c 参加人数 40名

イ 第2回 院内研修

- a 開催日時及び場所
平成28年2月29日 三浦市立病院会議室
平成28年3月8日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
テーマ「医薬品安全使用について」
講師 薬剤科長
- c 参加人数 56名

③ その他の活動

当院における、平成 27 年度のインシデント数は下記のとおりである。

2015年度 月別 インシデント事例及びアクシデント報告数

レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	1	2		2			4	1	1			1	12
1	24	10	10	7	9	4	5	9	3	1	2	4	88
2	2		2	4	4	8	10	7	9	5	5	5	61
3a	1	3	2	3	1	1	1	1	2			2	17
3b					1		1			1		1	4
4a													0
4b													0
5													0
合計	28	15	14	16	15	13	21	18	15	7	7	13	182

2015年度 分類別 インシデント事例及びアクシデント報告数

事象区分／レベル	レベル								合計	構成比	備考
	0	1	2	3a	3b	4a	4b	5			
転倒転落	2	30	24	2	3				61	33.5%	
薬品・輸血	3	21	18	1	1				44	24.2%	
チューブ類管理		6	16	11					33	18.1%	
リハビリ	3	11	2						16	8.8%	
検査	3	4	1	1					9	5.0%	
食事・窒息・誤嚥	1	8							9	5.0%	
オーダー・指示出し等		6							6	3.3%	情報伝達も含む
対応・接遇		1							1	0.5%	
その他		1		2					3	1.6%	
合計	12	88	61	17	4	0	0	0	182	100.0%	

当院における、インシデント・アクシデントのレベル分類基準

(レベル 0～レベル 3 a＝インシデントとし、レベル 3 b～レベル 5はアクシデントとする。)

レベル	傷害の内容		
	傷害の継続性	傷害の程度	具体的な内容
レベル 0	－	－	エラーや医薬品、医療用具等の不具合が見られたが、患者には実施はされなかった。
レベル 1	なし	－	患者への実害は、無かった場合。(何らかの影響の可能性は、否定できない)
レベル 2	一過性	軽度	処置や治療は行わなかった場合。(患者観察の強化、V Sの軽度変化等)
レベル 3a	一過性	中等度	簡単な治療等の条件が生じた場合。(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤投与等)
レベル 3b	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した場合。(V Sの高度変化、手術、入院日数延長、骨折等)
レベル 4a	永続的	軽度～中等度	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害等は伴わない場合。
レベル 4b	永続的	中等度～高度	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害等が伴う場合。
レベル 5		死亡	事故が死因となった場合。(原疾患の自然経過によるものを除く)

* V S＝バイタルサイン (血圧・心拍数・体温・呼吸数・意識レベル)

2 三浦市立病院感染対策委員会（I C C）



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（１）設置目的

当委員会は、医療安全管理室が所掌し、医療関連感染に対する感染防止対策に関し、組織を横断して行うべき施策の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため設置されているが、院内にとどまらず地域の感染防止対策にも注力し、次に掲げる任務を遂行している。

ア 院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応に関すること。

イ 院内感染の発生原因の分析、改善策の立案、実施及び見直し並びに病院職員に対する周知に関すること。

ウ 地域の医療機関、保健福祉施設等からの医療関連感染に関する支援に関すること。

エ 感染対策チーム（I C T）への助言及び支援に関すること。

オ その他感染対策に関すること。

当委員会の下部組織として、医療関連感染対策上の実践チームである感染対策チーム（I C T）及び臨床現場の役割モデルとしての感染対策リンクナース会を設置し、院内感染対策や職業感染防止などに関連する知識、技術等の職員への周知を実施している

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第1回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 27 年 4 月 3 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M 一覧 3 月（2015 年）
- ・ 抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H27. 3）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H27. 3）
- ・ 抗菌薬使用量（H27. 3）
- ・ 感染症職員/患者報告
- ・ 平成 26 年度感染管理年間報告

c 出席人数 10 人

イ 第2回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 27 年 5 月 12 日（火） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M 一覧 4 月（2015 年）
- ・ 抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H27. 4）
- ・ 使用制限抗菌薬使用患者リスト（H27. 4）
- ・ 抗菌薬使用量（H27. 4）
- ・ 感染症患者/職員報告

c 出席人数 12 人

ウ 第3回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 27 年 6 月 5 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M 一覧 5 月（2015 年）
- ・ 抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H27. 5）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H27. 5）
- ・ 抗菌薬使用量（H27. 5）
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 研修実施報告及び健康宅配便について

c 出席人数 12 人

エ 第4回感染対策委員会ここまで

a 開催日及び場所

平成 27 年 7 月 9 日（木） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・ M 一覧 6 月（2015 年）
- ・ 抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H27. 6）
- ・ 使用制限抗菌薬リスト（H27. 6）
- ・ 抗菌薬使用量（H27. 6）
- ・ 感染症患者/職員報告
- ・ 三浦市立病院 MERS 疑い患者対応マニュアル
- ・ 公開講座について

c 出席人数 9 人

オ 第5回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成27年8月7日（金） 三浦市立病院2階会議室

b 議 事

- ・M一覧7月（2015年）
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト（H27.7）
- ・使用制限抗菌薬リスト（H27.7）
- ・抗菌薬使用量（H27.7）
- ・感染症患者報告/職員報告

c 出席人数 10人

カ 第1回感染対策委員会臨時会

a 開催日及び場所

平成27年8月24日（月） 三浦市立病院2階会議室

b 議 事

- ・三浦市立病院デング熱対応マニュアルの改正について

c 出席人数 9人

キ 第6回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成27年9月2日（水） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M一覧8月（2015年）
- ・抗MRSA薬品使用患者リスト（H27.8）
- ・使用制限抗菌薬リスト（H27.8）
- ・抗菌薬使用量（H27.8）
- ・感染症患者/職員報告
- ・感染管理情報（針刺し切創）
- ・食中毒対応フロー（案）について
- ・流行性耳下腺炎抗体価検査結果報告

c 出席人数 9人

ク 第7回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成27年10月2日（金） 三浦市立病院2階会議室

b 議事

- ・M 一覧 9 月（2015 年）
 - ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H27. 9）
 - ・使用制限抗菌薬リスト（H27. 9）
 - ・抗菌薬使用量（H27. 9）
 - ・感染症患者/職員報告
 - ・感染管理体制の活動と組織に関する基本的事項の改正について
 - ・結核マニュアルの改正について
 - ・平成 27 年度ムンプスワクチン接種結果報告
 - ・平成 26 年度三浦市立病院感染対策委員会年報について
 - ・職員のインフルエンザ予防接種について
- c 出席人数 6 人

ケ 第 8 回感染対策委員会

- a 開催日及び場所
平成 27 年 11 月 4 日（水） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
- ・M 一覧 10 月（2015 年）
 - ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H27. 10）
 - ・使用制限抗菌薬リスト（H27. 10）
 - ・抗菌薬使用量（H27. 10）
 - ・感染症患者/職員報告
 - ・三浦市立病院 MERS 疑い患者対応マニュアルの改正について
 - ・三浦市立病院エボラ出血熱疑い患者対応マニュアルの改正について
 - ・平成 27 年度医療法第 25 条第 1 項に基づく病院立入検査について
 - ・平成 28 年度新型インフルエンザ等対策医療機器整備費補助金について
- c 出席人数 10 人

コ 第 9 回感染対策委員会

- a 開催日及び場所
平成 27 年 12 月 4 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室
- b 議事
- ・M 一覧 11 月（2015 年）
 - ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H27. 11）
 - ・使用制限抗菌薬リスト（H27. 11）
 - ・抗菌薬使用量（H27. 11）
 - ・感染症患者/職員報告

- ・感染管理情報（針刺し切創血液汚染）
- ・感染対策講習会、公開講座及び健康宅配便報告

c 出席人数 11 人

サ 第 10 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 28 年 1 月 6 日（水） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・M 一覧 12 月（2015 年）
- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H27. 12）
- ・使用制限抗菌薬リスト（H27. 12）
- ・抗菌薬使用量（H27. 12）
- ・感染症患者/職員報告
- ・感染管理情報（血液曝露）
- ・感染症情報の電子カルテ掲載について
- ・感染対策講習会及び健康宅配便報告

c 出席人数 11 人

シ 第 11 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 28 年 2 月 5 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・M 一覧 1 月（2016 年）
- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H28. 1）
- ・使用制限抗菌薬リスト（H28. 1）
- ・抗菌薬使用量（H28. 1）
- ・感染症患者/職員報告
- ・VRE 保菌患者発生及びその対応について
- ・抗体獲得拡大プログラムの実施について
- ・平成 27 年度 B 型肝炎ワクチン接種に関する報告
- ・感染症情報の電子カルテ掲載に関する報告

c 出席人数 10 人

ス 第 12 回感染対策委員会

a 開催日及び場所

平成 28 年 3 月 4 日（金） 三浦市立病院 2 階会議室

b 議事

- ・M 一覧 2 月（2016 年）
- ・抗 MRSA 薬品使用患者リスト（H28. 2）
- ・使用制限抗菌薬リスト（H28. 2）
- ・抗菌薬使用量（H28. 2）
- ・アンチバイオグラムについて
- ・感染症患者/職員報告
- ・アウトブレイク対応マニュアル
- ・VRE マニュアル
- ・抗体価個人カードの作成について
- ・抗体獲得拡大プログラムに関する報告
- ・平成 27 年度感染防止対策カンファレンスについて

c 出席人数 10 人

② 研修

ア 院内全体研修

a 平成 27 年 5 月 19 日（火）及び 20 日（水）

「平成 27 年度院内感染対策講習会①」

対象者：病院職員

テーマ：「手指衛生を知ろう！学ぼう！」

講師：丸石製薬株式会社 吉田幸史氏

参加者：80 名

b 平成 27 年 12 月 8 日（火）及び 14 日（月）

「平成 27 年度院内感染対策講習会②」

対象者：病院職員

テーマ：「インフルエンザとノロウイルス感染症について」

講師：杏林製薬株式会社 平野尚美氏

参加者：53 名

イ 感染対策公開講座

a 平成 27 年 6 月 12 日（金）

テーマ：「肝炎と食中毒について」

参加者：7 名（院外 3 名・院内 4 名）

b 平成 27 年 9 月 16 日（水）

テーマ：「結核と疥癬について」

参加者：14名（院外10名・院内4名）

c 平成27年11月20日（金）

テーマ：「インフルエンザとノロウイルスについて」

参加者：6名（院外4名・院内2名）

ウ 健康宅配便（感染対策講座）

a 平成27年6月25日（木） 会場：ルナランド デイサービス

対象者：ルナランドデイサービス職員、あんじゅ三崎口・三浦海岸職員など

テーマ：「食中毒の発生予防とまん延防止について」

参加者：14名

b 平成27年12月10日（木） 会場：ルナランド デイサービス

対象者：ルナランドデイサービス職員、あんじゅ三崎口・三浦海岸職員など

テーマ：「感染症（インフルエンザ）の発生予防とまん延防止について」

参加者：13名

③ その他の活動

ア 感染防止対策カンファレンス

a 平成27年5月1日（金）「ICT 合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、聖ヨゼフ病院、自衛隊横須賀病院、
パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院

b 平成27年7月3日（金）「ICT 合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、聖ヨゼフ病院、自衛隊横須賀病院、
パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院

c 平成27年9月4日（金）「ICT 合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、聖ヨゼフ病院、自衛隊横須賀病院、
パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院

d 平成27年11月6日（金）「ICT 合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、自衛隊横須賀病院、
パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院

e 平成 28 年 1 月 8 日（金）「ICT 合同カンファレンス」

会場：横須賀共済病院分院

参加施設：横須賀共済病院、湘南病院、聖ヨゼフ病院、自衛隊横須賀病院、
パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院

f 平成 28 年 3 月 16 日（水）「感染防止対策カンファレンス」

会場：パシフィック・ホスピタル

参加施設：パシフィック・ホスピタル、三浦市立病院

イ サーベイランス

a 厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）全入院患者部門

目的：全入院患者を対象とし、主要な薬剤耐性菌による感染症患者の発生率
に関するデータを継続的に収集・解析し、医療機関における薬剤耐性
菌による感染症の発生状況を明らかにする。

平成 27 年 薬剤耐性菌感染症患者及び感染率

区分	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
感染症患者数	2	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0
MRSA	2	1	0	1	1	1	0	0	1	1	0	0
VRSA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VRE	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PRSP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MDRP	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MDRA	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CRE	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
MRSA 感染率(%)	5.65	2.90	0.0	2.89	2.91	2.85	0.0	0.00	2.82	3.3	0.0	0.0
対象医療機関	5.23											
MRSA 感染率(%)												

薬剤耐性菌名	新規感染症患者数	年間感染率（‰）
MRSA	7	2.32
VRSA	0	0.00
VRE	0	0.00
PRSP	0	0.00
MDRP	0	0.00
MDRA	0	0.00
CRE	0	0.00

JANIS 全入院患者部門 2015 年 1 月～12 月年報（200 床未満）をもとに作成

対象期間は、2015 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日

対象医療機関は、168 施設

感染症患者数＝（新規感染症患者数）＋（継続感染症患者数）

感染率（‰）＝（感染症患者数）÷（総入院患者数）×1000

b 厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業（JANIS）SSI 部門

目的：術後に発生する手術部位感染（SSI）のリスク因子ごとの発生率やその原因菌に関するデータを継続的に収集・解析し、医療機関における SSI の発生状況を明らかにする。

平成 27 年 対象医療機関との手術件数及び SSI 発生率の比較

手術手技 コード	手術手技	自施設		集計対象医療機関	
		SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率	SSI 件数/ 手術件数	SSI 発生率
BILI 合計	胆管膵手術の合計	0/2	0.0%	1,498/10,615	14.1%
BILI-PD	膵頭十二指腸切除	0/1	0.0%	657/2,738	24.0%
BILI-O	その他の胆管膵手術	0/1	0.0%	484/3,211	15.1%
CHOL	胆のう手術	0/6	0.0%	677/22,787	3.0%
COLO	大腸手術	3/14	21.4%	4,783/40,774	11.7%
GAST 合計	胃の手術合計	0/5	0.0%	1,746/19,905	8.8%
GAST-D	幽門側胃切除	0/3	0.0%	758/9,729	7.8%
GAST-T	胃全摘	0/2	0.0%	642/5,510	11.7%
HER	ヘルニア手術	0/8	0.0%	112/15,722	0.7%
REC	直腸手術	1/1	100.0%	2,154/15,131	14.2%
FX	骨折観血的整復術	0/41	0.0%	138/16,764	0.8%
BRST	乳房切除術	0/2	0.0%	93/6,146	1.5%

JANIS SSI 部門 2015 年 1 月～12 月年報をもとに作成

対象期間は、2015 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日

対象医療機関は、671 施設

SSI 発生率（％）＝（集計対象医療機関の SSI 件数合計）÷（集計対象医療機関の手術件数合計）×100

ウ 感染症情報の周知徹底に関する取組について

院内の感染症発生について報告書により迅速に把握できる体制を維持してきたが、院内に情報として周知する明確な手段がなかったことから、電子カルテ上に「感染症情報」として掲載することによって、よりタイムリーな情報を周知できるシステムを構築した。

3 三浦市立病院褥瘡対策委員会



委員長 石田 良太（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

褥瘡の予防等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報の共有及び実施のため、三浦市立病院褥瘡対策委員会を設置する。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 4 月 2 日 三浦市立病院 2 階会議室

b 活動内容

昨年度の振り返り、今年度の目標設定

公開講座の企画検討

c 参加人数 8 名

イ 第２回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 5 月 7 日 三浦市立病院 2 階会議室

b 活動内容

今年度の目標設定、活動内容について

公開講座の企画検討

c 参加人数 8 名

ウ 第３回「褥瘡対策委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 6 月 5 日 三浦市立病院 2 階会議室

b 活動内容

エアマットレス、ポジショニング用クッションの管理、運用について

褥瘡回診状況報告

- c 参加人数 8名

エ 第4回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年7月2日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
エアマットレスの使用状況報告
公開講座の企画検討
- c 参加人数 8名

オ 第5回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年9月3日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
エアマットレスの使用状況報告
褥瘡回診状況報告
- c 参加人数 7名

カ 第6回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年10月1日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
エアマットレスの使用状況報告
褥瘡の発生状況報告
公開講座の企画検討
- c 参加人数 7名

キ 第7回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年11月6日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
エアマットレスの使用状況報告
褥瘡発生状況報告
公開講座の反省と課題
褥瘡患者対象の補助食品について
伝達講習「褥瘡の発生要因、体位変換の方法、創傷被覆材について」

- c 参加人数 8名

ク 第8回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年12月3日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
エアマットレスの使用状況報告
褥瘡の発生状況報告
褥瘡患者の補助食品について
ベッドマットレスの買い替えについて
- c 参加人数 8名

ケ 第9回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年1月7日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
エアマットレスの使用状況報告
褥瘡の発生状況報告
栄養製品について
- c 参加人数 7名

コ 第10回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年2月4日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
エアマットレスの使用状況報告
褥瘡の発生状況報告
- c 参加人数 8名

サ 第11回「褥瘡対策委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年3月3日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
ニュートリー(株)から「CP10」についての製品説明
エアマットレスの使用状況報告

褥瘡の発生状況報告

c 参加人数 7名

褥瘡持ち込みと褥瘡院内発生数・率

(単位：件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
褥瘡持ち込み	5	0	1	1	4	1	3	1	6	7	4	3
褥瘡院内発生	1	0	0	3	2	1	0	0	3	0	1	2
合計	6	0	1	4	6	2	3	1	9	7	5	5
病床数全体	119.9	112.6	105.6	111.8	117.1	113.6	109.8	104.5	117.5	118.7	113.5	95.8
持ち込み率	4.1%		0.9%	0.8%	3.4%	0.8%	2.7%	0.9%	5.1%	5.0%	3.5%	3.1%
発生率	0.8%			2.6%	1.7%	0.8%			2.5%		0.8%	2.0%

褥瘡持ち込み率 平均 2.5%

褥瘡発生率 平均 0.9%

② 研修

ア 第1回 院内全体研修

a 開催日時及び場所

平成27年6月17日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

テーマ「褥瘡と栄養管理」

講師 (株)大塚製薬工場

c 参加人数 16名

イ 第1回 褥瘡対策公開講座

a 開催日時及び場所

平成27年10月14日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

テーマ「床ずれ対策セミナー」

講師 パラマウントベッド(株)

c 参加人数 18名

③ その他

各病棟 褥瘡患者の回診

エアマットレス使用状況確認

- a 開催日
第1・3月曜日 15時30分～
- b 場所
各病棟
- c 活動内容
 - (a) 褥瘡のある患者の回診を行い、適切な治療が行われること
 - (b) 記録を残し、情報を共有すること
- d 参加人数
医師 1名 看護師（各部署）

4 三浦市立病院接遇向上委員会



委員長 園田 恵美子（看護師長）（H28.3.31 現在）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

（設置）

接遇の向上に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院接遇向上委員会を設置する。

（所掌事項）

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な審議、決定、情報交換及び施策を行う。

- ア 相手を大切に思う心を表す対応に関すること。
- イ 表情、言葉づかい、身だしなみ及び態度に関すること。
- ウ 信頼、安心感、納得及び癒しを満たす対応に関すること。
- エ 質の高いサービスに関すること。
- オ 接遇研修に関すること。
- カ その他接遇に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 27 年 4 月 15 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
院内ラウンド結果報告
各班現状報告
3/30 研修報告
- c 参加人数 7 名

イ 第２回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 27 年 5 月 20 日 三浦市立病院会議室

- b 活動内容
平成 27 年度目標 各班の発表
司会・書記の順番について
班編成について
- c 参加人数 6 名

ウ 第 3 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 27 年 6 月 17 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
各班の活動・進捗状況報告
院内ラウンドの順番を検討
- c 参加人数 10 名

エ 第 4 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 27 年 7 月 15 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
各班の活動報告
- c 参加人数 10 名

オ 第 5 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 27 年 9 月 16 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
今年度の研修について
- c 参加人数 11 名

カ 第 6 回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成 27 年 10 月 21 日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
- c 参加人数 8 名

キ 第7回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成27年11月19日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
- c 参加人数 8名

ク 第8回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成27年12月16日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
接遇マニュアルの改訂について
- c 参加人数 8名

ケ 第9回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成28年1月20日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
接遇研修2回目について検討
- c 参加人数 11名

コ 第10回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成28年2月17日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告
接遇マニュアル内容の検討
- c 参加人数 8名

サ 第11回「接遇向上委員会」

- a 開催日及び場所
平成28年3月16日 三浦市立病院会議室
- b 活動内容
接遇ラウンド報告・各班の活動報告

c 参加人数 7名

② 研修

ア 第1回「患者様から喜ばれる接遇を目指そう！」

a 開催日及び場所

平成27年11月18日 三浦市立病院会議室

b 講師

三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）

吉田朱里

c 参加人数 16名

イ 第2回「患者様から喜ばれる接遇を目指そう！」

a 開催日及び場所

平成28年3月23日 三浦市立病院会議室

b 講師

三浦市立病院接遇向上委員（接遇マネージャー）

吉田朱里

c 参加人数 40名

5 三浦市立病院NST委員会



委員長 和田 博雄（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

栄養管理を症例個々や各疾患治療に応じて適切に実施すること等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院NST委員会を設置する。

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ① 適切な栄養管理法の選択に関すること。
- ② 適切かつ質の高い栄養管理の提供に関すること。
- ③ 早期栄養障害の発見及び早期栄養療法の開始に関すること。
- ④ 栄養療法による合併症の予防に関すること。
- ⑤ 疾患罹患率及び死亡率の減少に関すること。
- ⑥ 病院スタッフへの栄養管理に関する知識の啓蒙及び修得に関すること。
- ⑦ 医療安全管理の確立及びリスクの回避に関すること。
- ⑧ 栄養素材及び資材の適正使用による経費削減に関すること。
- ⑨ 在院日数の短縮及び入院費の節減に関すること。
- ⑩ 在宅治療症例の再入院及び重症化の抑制に関すること。
- ⑪ その他栄養管理に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「NST委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 4 月 2 日 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

昨年度の振り返り、今年度の目標設定

c 参加人数 10 人

イ 第２回「NST委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 5 月 7 日 三浦市立病院 2 階会議室

- b 活動内容
今年度の目標、年間計画、活動内容について
- c 参加人数 8人

ウ 第3回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年6月4日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
研修会の企画検討
チェックリスト・スクリーニングの見直しについて
- c 参加人数 8人

エ 第4回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年7月2日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
研修会の企画検討
NST回診状況報告
摂食機能療法実施の流れについて
- c 参加人数 10人

オ 第5回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年9月3日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
摂食機能療法について
NST回診状況報告
- c 参加人数 7人

カ 第6回「NST 委員会」

- a 開催日時及び場所
平成27年10月1日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
摂食機能療法の運用について
NST回診状況報告
研修会の企画検討

c 参加人数 7人

キ 第7回「NST 委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年11月5日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

摂食機能療法の運用について

NST回診状況報告

研修会・伝達講習について

c 参加人数 7人

ク 第8回「NST 委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年12月3日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

摂食機能療法の運用について

NST回診状況報告

事例検討ディスカッション

c 参加人数 9人

ケ 第9回「NST 委員会」

a 開催日時及び場所

平成28年1月7日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

摂食機能療法の運用について

NST回診状況報告

研修会の反省、今後の検討事項

c 参加人数 7人

コ 第10回「NST 委員会」

a 開催日時及び場所

平成28年2月4日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

NST回診状況報告

摂食機能療法の運用について

c 参加人数 6人

サ 第 11 回「NST 委員会」

a 開催日時及び場所

平成 28 年 3 月 3 日 三浦市立病院 2 階会議室

b 活動内容

N S T 回診状況報告

摂食機能療法の運用について

次年度の課題

② 研修

ア 第 1 回「NST 勉強会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 12 月 9 日 三浦市立病院 2 階会議室

b 活動内容

テーマ 「経腸栄養について」経腸栄養剤の種類・適応と管理法・合併症

講師 株式会社 大塚製薬工場

c 参加人数 10 名

6 三浦市立病院CS向上委員会



委員長 五味 潤 一三（診療支援部長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

Customer Satisfaction つまり、顧客満足を追求・実践することを目的として設置されている。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 4 月 7 日 三浦市立病院 2 階会議室

b 活動内容

ご意見箱、待ち時間の短縮、敷地内違法駐車、目安箱の回答

c 参加人数 8 人

イ 第２回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 6 月 2 日 三浦市立病院 2 階会議室

b 活動内容

ご意見箱設置要領の再確認、ご意見箱、待ち時間統計、明光社からの提案、院内ルールの違反患者、市民まつり

c 参加人数 10 名

ウ 第３回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 7 月 7 日 三浦市立病院 2 階会議室

b 活動内容

がん征圧チャリティウォークイベント、ご意見箱、待ち時間統計、院内コンサート実施要領、ロビーコンサート

c 参加人数 11 名

エ 第4回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年8月4日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

ご意見箱、待ち時間統計、がん征圧チャリティウォークイベント、院内コンサート、振り込め詐欺に係る警察とのコラボ、ペーパータオル

c 参加人数 8名

オ 第5回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年9月1日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

ご意見箱、待ち時間統計、がん征圧チャリティウォークイベント、院内コンサート、終了時間間際の受付

c 参加人数 8名

カ 第6回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年10月6日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

ご意見箱、待ち時間統計、院内コンサート報告、がん征圧チャリティウォークイベント報告、市民まつり

c 参加人数 9名

キ 第7回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年11月4日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

ご意見箱、待ち時間統計、みうら市民まつり、健康宅配便

c 参加人数 10名

ク 第8回「CS向上委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年12月1日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

CS向上委員会設置要領及び構成員の変更、ご意見箱、時間統計及び三浦市

民まつり

- c 参加人数 8名

ケ 第9回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年1月5日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
ご意見箱、待ち時間統計、写真コンテスト生徒作品展示
- c 参加人数 8名

コ 第10回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年2月2日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
ご意見箱、待ち時間統計
- c 参加人数 9名

サ 第11回「CS向上委員会」

- a 開催日時及び場所
平成28年3月1日 三浦市立病院2階会議室
- b 活動内容
ご意見箱、待ち時間統計
- c 参加人数 10名

② 健康宅配便、ヘルスチェックキャラバン

ア 第1回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成27年4月28日 初声市民センター
- b 活動内容
健康づくりセミナー 生活習慣病別講座（高血圧編）
 - ・食事の献立は、どうするといいの？
 - ・病気と薬の関係
- c 参加人数 5人

イ 第2回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所

平成 27 年 6 月 25 日 あんじゅ三浦海岸

b 活動内容

食中毒の発生予防とまん延防止についての講義及び手洗いの演習

c 参加人数 14 人

ウ 第 3 回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 8 月 17 日 健康ぷらっと

b 活動内容

健康づくりセミナー 生活習慣病別講座（糖尿病編）

- ・食事の献立は、どうするといいの？
- ・病気と薬の関係

c 参加人数 12 人

エ 第 1 回「ヘルスチェックキャラバン」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 9 月 26 日 神奈川県立保健福祉大学

b 活動内容

がん征圧チャリティーウォークイベント

- ・啓発ブースにて血糖・血圧・視力測定、リンパ浮腫外来資料展示

c 参加人数 40 人

オ 第 4 回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 10 月 13 日 三浦市合同庁舎

b 活動内容

脱！メタボリアン作戦市民講座「大事な肝臓を守ろう」

～ お酒・脂肪・ストレスとのつきあい方 ～

c 参加人数 20 人

カ 第 5 回「健康宅配便」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 10 月 13 日 初声市民センター

b 活動内容

脱！メタボリアン作戦市民講座「大事な肝臓を守ろう」

～ お酒・脂肪・ストレスとのつきあい方 ～

- c 参加人数 15 名

キ 第6回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 10 月 15 日 南下浦市民センター
- b 活動内容
脱！メタボリアン作戦市民講座「大事な肝臓を守ろう」
～ お酒・脂肪・ストレスとのつきあい方 ～
- c 参加人数 26 人

ク 第7回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 11 月 12 日 三浦市合同庁舎
- b 活動内容
がん治療のいま
- c 参加人数 48 名

ケ 第2回「ヘルスチェックキャラバン」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 11 月 15 日 潮風アリーナ研修室
- b 活動内容
「みうら市民まつり」における眼底写真、血圧・血糖測定、腰痛予防体操、
こども相談、コスプレ撮影等
- c 参加人数 434 名

コ 第8回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 12 月 10 日 ルナランドデイサービス
- b 活動内容
感染症（インフルエンザ）の発生予防とまん延防止について
- c 参加人数 13 人

サ 第9回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 12 月 22 日 南下浦市民センター
- b 活動内容

健康づくりセミナー 生活習慣病別講座（高コレステロール血症・高中性脂肪編）

- ・食事の献立は、どうするといいの？
- ・病気と薬の関係

c 参加人数 17 人

シ 第 10 回「健康宅配便」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 2 月 9 日 三浦市合同庁舎
- b 活動内容
地域から広げる生活習慣病予防
- c 参加人数 11 名

③ 院内コンサート

ア 第 1 回「院内コンサート」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 9 月 19 日 三浦市立病院 1 階玄関ロビー
- b 活動内容
轟会による民舞
- c 参加人数 70 名

イ 第 2 回「院内コンサート」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 12 月 20 日 三浦市立病院 1 階玄関ロビー
- b 活動内容
和美会による民舞
- c 参加人数 50 名

ウ その他

随時活動している内容として、市内小中学校児童・生徒の作品を 10 月から 3 月まで内科待合に展示している。

7 三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会



委員長 小澤 幸弘（総病院長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

地域が一体となった糖尿病の重症化及び合併症の予防等に関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院糖尿病疾病管理委員会を設置した。

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ①糖尿病のミニマムデータセットを活用した糖尿病疾病診療体制の構築に関すること。
- ②診療所からの検体検査業務受託により得たデータに基づく当該診療所との糖尿病疾病診療に係る連携に関すること。
- ③その他地域が一体となった糖尿病疾病管理に関すること。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第１回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 4 月 21 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課、薬剤科等各部門からの報告
- c 参加人数 11 名

イ 第２回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 5 月 19 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課、薬剤科等各部門からの報告
- c 参加人数 15 名

ウ 第3回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年6月16日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課、
薬剤科等各部門からの報告

c 参加人数 14名

エ 第4回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年7月21日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課
薬剤科等各部門からの報告

c 参加人数 12名

オ 第5回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年8月18日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課
薬剤科等各部門からの報告

c 参加人数 14名

カ 第6回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年9月15日 三浦市立病院2階会議室

b 活動内容

臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課
薬剤科等各部門からの報告

c 参加人数 12名

キ 第7回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年10月20日 三浦市立病院2階会議室

- b 活動内容
臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課
薬剤科等各部門からの報告
- c 参加人数 12 名

ク 第 8 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 11 月 17 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課
薬剤科等各部門からの報告
- c 参加人数 12 名

ケ 第 9 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 27 年 12 月 15 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課
薬剤科等各部門からの報告
- c 参加人数 15 名

コ 第 10 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 1 月 19 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課
薬剤科等各部門からの報告
- c 参加人数 12 名

サ 第 11 回「糖尿病疾病管理委員会」

- a 開催日時及び場所
平成 28 年 2 月 16 日 三浦市立病院 2 階会議室
- b 活動内容
臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課
薬剤科等各部門からの報告
- c 参加人数 11 名

シ 第 12 回「糖尿病疾病管理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 28 年 3 月 15 日 三浦市立病院 2 階会議室

b 活動内容

臨床検査科、糖尿病外来、フットケア外来、リハビリテーション科、栄養課
薬剤科等各部門からの報告

c 参加人数 12 名

8 三浦市立病院薬事委員会



委員長 堀内 俊治（医師）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

- ア 院内における医薬品の適正な管理及び運用に関すること。
 - イ 医薬品の採用及び削除に関すること。
 - ウ 使用医薬品の適正な使用方法（厚生労働省発行の医薬品副作用情報の伝達等）に関すること。
 - エ その他薬剤業務に関すること。
- 以上について必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 平成 27 年度第 1 回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成 27 年 4 月 24 日（金） 三浦市立病院地下食堂会議室

b 活動内容

委員の紹介

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

各科定数配置薬、配置数の見直しにより診療の向上及び在庫管理に資すると。

c 参加人数

5 名（欠席者：1 名）

イ 平成 27 年度第 2 回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成 27 年 7 月 24 日（金） 三浦市立病院地下食堂会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。

c 参加人数

5 名（欠席者：1 名）

ウ 平成 27 年度第 3 回「薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成 27 年 10 月 23 日（金） 三浦市立病院地下会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。
各科及び救急カートの定数配置薬、配置数の見直しによる診療の向上及び在庫管理に資すること。

c 参加人数

3 名（欠席者：3 名）

エ 平成 27 年度第 4 回「臨時薬事委員会」

a 開催日及び場所

平成 28 年 1 月 22 日（金） 地下食堂兼会議室

b 活動内容

新規採用薬及び削除薬の検討により診療の向上及び在庫管理に資すること。
経営効果向上目的による後発品への切り替え。

c 参加人数

6 名

（単位：品目）

平成 27 年度採用・削除状況				
区分	内用	注射	外用	計
新規採用	1	4	1(1)	6(1)
削除	1	1	5	7
新規準採用	22	1	5	28
平成 28 年 3 月 31 日 採用状況				
区分	内用	注射	外用	計
採用薬品数	477(42)	333(40)	184(15)	994(97)
準採用薬品数	505(14)	6	169(14)	680(28)

（ ）は後発品

9 三浦市立病院情報処理委員会



委員長 木谷 勇一（診療部長）

○活動状況

（１）委員会設置の目的

（設置）

I C Tに関し、三浦市立病院において組織を横断して行うべき施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施のため、三浦市立病院情報処理委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

委員会は、次に掲げる事項を所掌し、必要な施策等の立案、意見調整、審議決定、情報共有及び実施を行う。

- ア 病院業務医療情報システムの運用等に関すること。
- イ 診療録に関すること。
- ウ 画像記録に関すること。
- エ 諸記録に関すること。
- オ 疾病分類に関すること。
- カ その他診療録、院内の情報処理に関すること。

平成 26 年 5 月 15 日改正

（２）活動実績

① 委員会の開催

ア 第 1 回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 4 月 16 日 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

- ・ C T予約枠の変更について
- ・ 表示盤待ち時間表示の変更について

c 参加人数：10 名

イ 第 2 回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 5 月 21 日 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

- ・予約枠について
- ・待ち時間表示の変更について
- ・ホームページ運用部会の設置について
- ・画像取込に関する方針について

c 参加人数：9名

ウ 第3回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年6月18日 DPC室

b 活動内容

- ・画像取込マニュアルの変更について
- ・ホームページ運用部会の設置、報告について

c 参加人数：11名

エ 第4回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年7月16日 DPC室

b 活動内容

- ・予約枠の変更について
- ・ホームページ監視結果について

c 参加人数：10名

オ 第5回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年8月20日 三浦市立病院地下食堂兼会議室

b 活動内容

- ・ホームページ監視結果について
- ・健診結果枠の変更について
- ・週報会議報告に係わる放射線科のCT件数の算定方法について

c 参加人数：9名

カ 第6回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成27年9月17日 DPC室

b 活動内容

- ・オーバーベット枠の運用について

- ・再診予約枠と当日予約枠の同時変更について
- ・ＣＴ件数の増加策及び医局における情報共有について

c 参加人数：９名

キ 第７回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 10 月 15 日 ＤＰＣ室

b 活動内容

- ・ＣＴ件数の増加策及び週報会議報告の件数のあり方について
- ・内科外来「うわまち医師」枠の取り扱いについて
- ・ＵＳＢ等ウイルス感染について

c 参加人数：12 名

ク 第８回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 11 月 19 日 ＤＰＣ室

b 活動内容

- ・眼科ブースでのシステム障害について
- ・内科 1 ～ 3 診の枠及び運用の変更について
- ・予約枠（最大人数）を超えて予約が取れることについて

c 参加人数：12 名

ケ 第９回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 27 年 12 月 16 日 ＤＰＣ室

b 活動内容

- ・ＵＳＢ等ウイルス感染について
- ・ホームページ監視結果について

c 参加人数：８名

コ 第 10 回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成 28 年 1 月 21 日 ＤＰＣ室

b 活動内容

- ・感染症情報の電子カルテ記載について
- ・Ｉｐａｄについて

c 参加人数：9名

サ 第11回「情報処理委員会」

a 開催日時及び場所

平成28年2月18日 DPC室

b 活動内容

- ・ホームページ監視結果について
- ・I p a dについて

c 参加人数：9名

Ⅳ 経営状況

1 決算概要

(1) 経常収益比較

(2) 事業収益に関する事項

区 分		平成27年度	平成26年度	比 較	
				増 減	増減比率
医 業 収 益	入 院 収 益	円 1,448,394,484	円 1,413,149,991	円 35,244,493	% 2.5
	外 来 収 益	692,947,482	702,116,574	△ 9,169,092	△ 1.3
	そ の 他 医 業 収 益	154,922,418	146,484,194	8,438,224	5.8
	他 会 計 負 担 金	171,782,000	187,088,000	△ 15,306,000	△ 8.2
医 業 外 収 益	他 会 計 負 担 金	76,704,000	81,112,000	△ 4,408,000	△ 5.4
	長 期 前 受 金 戻 入	22,484,274	20,192,581	2,291,693	11.3
	そ の 他	35,913,639	39,914,339	△ 4,000,700	△ 10.0
特 別 利 益		0	1,137,634	△ 1,137,634	皆減
事 業 収 益		2,603,148,297	2,591,195,313	11,952,984	0.5

(3) 事業費用に関する事項

区 分		平成27年度	平成26年度	比 較	
				増 減	増減比率
医 業 費 用	給 与 費	円 1,479,480,060	円 1,444,962,123	円 34,517,937	% 2.4
	材 料 費	288,424,356	287,996,287	428,069	0.1
	経 費	426,242,440	430,614,050	△ 4,371,610	△ 1.0
	減 価 償 却 費	172,337,377	173,707,727	△ 1,370,350	△ 0.8
	資 産 減 耗 費	5,233,739	2,235,624	2,998,115	134.1
	研 究 研 修 費	31,626,235	35,003,770	△ 3,377,535	△ 9.6
医 業 外 費 用	支 払 利 息 及 び 企 業 債 取 扱 諸 費	50,586,952	54,453,771	△ 3,866,819	△ 7.1
	そ の 他	76,020,908	73,889,393	2,131,515	2.9
特 別 損 失		251,070	84,064,618	△ 83,813,548	△ 99.7
事 業 費 用		2,530,203,137	2,586,927,363	△ 56,724,226	△ 2.2

(2) 損益計算書

平成27年度三浦市病院事業損益計算書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

(単位:円)

1	医	業	収	益			
(1)	入	院	収	益	1,448,394,484		
(2)	外	来	収	益	692,947,482		
(3)	そ	の	他	医	業	収	益
(4)	他	会	計	負	担	金	
					<u>171,782,000</u>	2,468,046,384	
2	医	業	費	用			
(1)	給		与	費	1,479,480,060		
(2)	材		料	費	288,424,356		
(3)	経			費	426,242,440		
(4)	減	価	償	却	費	172,337,377	
(5)	資	産	減	耗	費	5,233,739	
(6)	研	究	研	修	費	<u>31,626,235</u>	<u>2,403,344,207</u>
	医	業	利	益			64,702,177
3	医	業	外	収	益		
(1)	受	取	利	息	配	当	金
(2)	他	会	計	負	担	金	
(3)	患	者	外	給	食	収	益
(4)	長	期	前	受	金	戻	入
(5)	そ	の	他	医	業	外	収
					<u>35,842,350</u>	135,101,913	
4	医	業	外	費	用		
(1)	支	払	利	息	及	び	企
(2)	患	者	外	給	食	材	料
(3)	貸	倒	引	当	金	繰	入
(4)	雑		損		失		
					<u>62,807,178</u>	<u>126,607,860</u>	<u>8,494,053</u>
	経	常	利	益			73,196,230
5	特	別	損	失			
(1)	過	年	度	損	益	修	正
					<u>251,070</u>	<u>251,070</u>	<u>△ 251,070</u>
	当	年	度	純	利	益	72,945,160
	前	年	度	繰	越	欠	損
							1,393,883,101
	そ	の	他	未	処	分	利
							<u>626,385,245</u>
	当	年	度	未	処	理	欠
							<u><u>694,552,696</u></u>

(3) 貸借対照表

(単位：円)

資 産 の 部			
1	固 定 資 産		
(1)	有 形 固 定 資 産		
イ	土 地		34,032,902
ロ	建 物	1,941,179,995	
	建 物 減 価 償 却 累 計 額	<u>△567,016,199</u>	1,374,163,796
ハ	建 物 附 属 設 備	1,708,547,153	
	建 物 附 属 設 備 減 価 償 却 累 計 額	<u>△519,968,153</u>	1,188,579,000
ニ	構 築 物	28,538,421	
	構 築 物 減 価 償 却 累 計 額	<u>△17,026,228</u>	11,512,193
ホ	器 械 備 品	1,306,661,610	
	器 械 備 品 減 価 償 却 累 計 額	<u>△878,951,205</u>	427,710,405
ヘ	車 両	9,672,952	
	車 両 減 価 償 却 累 計 額	<u>△4,744,248</u>	4,928,704
ト	リ ー ス 資 産	4,531,000	
	リ ー ス 資 産 減 価 償 却 累 計 額	<u>△4,276,900</u>	254,100
	有 形 固 定 資 産 合 計		3,041,181,100
(2)	無 形 固 定 資 産		
イ	電 話 加 入 権		<u>443,100</u>
	無 形 固 定 資 産 合 計		443,100
(3)	投 資 そ の 他 の 資 産		
イ	長 期 貸 付 金	66,000,000	
	貸 倒 引 当 金	<u>△19,830,000</u>	46,170,000
	投 資 そ の 他 の 資 産 合 計		<u>46,170,000</u>
	固 定 資 産 合 計		3,087,794,200
2	流 動 資 産		
(1)	現 金 預 金		351,009,065
(2)	未 収 金		
イ	医 業 未 収 金	365,639,694	
	貸 倒 引 当 金	<u>△8,741,276</u>	356,898,418
ロ	医 業 外 未 収 金		88,190,088
ハ	そ の 他 未 収 金		<u>123,683,000</u>
	未 収 金 合 計		568,771,506
(3)	貯 蔵 品		10,267,031
(4)	前 払 費 用		1,356,840
(5)	そ の 他 流 動 資 産		<u>1,308,700</u>
	流 動 資 産 合 計		<u>932,713,142</u>
	資 産 合 計		<u><u>4,020,507,342</u></u>

(単位：円)

負債の部			
3	固定負債		
(1)	企業債		
	イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	2,591,516,509	
	企業債合計		2,591,516,509
(2)	引当金		
	イ 退職給付引当金	50,482,000	
	引当金合計		50,482,000
	固定負債合計		2,641,998,509
4	流動負債		
(1)	企業債		
	イ 建設改良費等の財源に充てるための企業債	215,781,261	
	企業債合計		215,781,261
(2)	未払金		
	イ 医業未払金	127,655,269	
	ロ 医業外未払金	1,929,222	
	ハ その他の未払金	95,141,420	
	未払金合計		224,725,911
(3)	前受金		4,272,292
(4)	引当金		
	イ 賞与引当金	62,698,382	
	ロ 法定福利費引当金	11,270,991	
	引当金合計		73,969,373
(5)	預り金		13,965,724
	流動負債合計		532,714,561
5	繰延収益		
(1)	長期前受金		
	イ 受贈財産評価額	2,077,452	
	ロ 寄附金	30,104,856	
	ハ 国庫補助金	170,383,357	
	ニ 県補助金	25,736,191	
	ホ 市補助金	117,218,886	
	長期前受金合計		345,520,742
(2)	収益化累計額		△182,487,969
	繰延収益合計		163,032,773
	負債合計		3,337,745,843
資本の部			
6	資本金		
(1)	固有資本金		67,852,672
(2)	繰入資本金		1,309,461,523
	資本金合計		1,377,314,195
7	剰余金		
(1)	欠損金		
	イ 当年度未処理欠損金	694,552,696	
	欠損金合計		694,552,696
	剰余金合計		△694,552,696
	資本合計		682,761,499
	負債資本合計		4,020,507,342

2 三浦市立病院改革プラン及び実施状況

団 体 名		神奈川県三浦市					
プ ラ ン の 名 称		三浦市立病院改革プラン					
策 定 日		平成 21年		3月		25日	
対 象 期 間		平成 21年度		～		平成 25年度	
病院の現状	病 院 名	三浦市立病院					
	所 在 地	神奈川県三浦市岬陽町4番33号					
	病 床 数	一般病床136床					
	診療科目	内科 神経内科 外科 整形外科 眼科 耳鼻いんこう科 小児科 産婦人科 リハビリテーション科 麻酔科、脳神経外科					
公立病院として今後果たすべき役割(概要) (注)詳細は別紙添付		・ 公立病院として地域医療の基幹的な役割を果たす 市内唯一の総合病院として、民間医療機関で担うことのできない高度・専門医療を提供するとともに、救急告示病院として、一次及び二次救急を担う。 ・ 自己完結型から地域完結型に転換 それぞれの医療機関や福祉施設が、得意分野を生かして機能や役割を分担するとともに、地域的なネットワークにより、医療、介護サービスを提供できるような仕組みを目指し、地域完結型医療への転換を図る。 ・ ネットワークで安全、安心の医療を提供 病々、病診の連携を強化し、地域のネットワークにより、安全、安心の医療を提供する。 ・ 市民全員の生涯的・統一的健康管理 健康管理データの一元化を図り、市民の生涯的・統一的健康管理を行う。					
一般会計における経費負担の考え方(繰出基準の概要) (注)詳細は別紙添付		・救急医療の確保に要する経費(特別交付税措置分相当額＋所要人件費及び物件費相当額からその収入を差し引いた分) ・病院事業会計に係る共済組合追加費用の負担に要する経費の45％ ・地方公営企業職員に係る基礎年金拠出金に係る公的負担に要する経費 ・保健衛生行政事務に要する経費のうち、医療相談等保健衛生派遣費用 ・高度医療に要する経費(高度医療に係る所要人件費及び物件費相当額からその収入を差し引いた分) ・研修研究費 ・リハビリテーション医療に要する経費(所要人件費及び物件費相当額からその収入を差し引いた分) ・地方公営企業職員に係る児童手当に要する経費 ・病院事業債元利償還金の2/3(14年度以前分)ないし1/2(15年度以降分)相当額 ・病院の建設改良に要する経費の1/2(起債分を除く)					
経営効率化に係る計画	財務に係る数値目標(主なもの)	19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	備考
	経常収支比率	79.6	80.7	91.5	96.8	102.4	
	職員給与費比率	62.5	60.8	58.0	54.9	52.7	
	病床利用率	80.0	73.2	83.9	88.2	92.0	
	患者1人1日当たり診療収入(入院)	29,550	30,012	31,616	30,762	29,929	単位(円)
	患者1人1日当たり診療収入(外来)	5,528	5,553	5,786	6,014	6,035	単位(円)
上記目標数値設定の考え方		計画3ヶ年度目に当る平成23年度に経常黒字化を目指す。 任意項目としては、医療提供の内容を反映し患者単価に直接結びつく指標を選択した。 (経常黒字化の目標年度：23年度)					

公立病院としての医療機能に係る数値目標(主なもの)		19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	備考
	年延入院患者数	39,821	36,338	41,641	43,783	45,817	年間延べ件数
	年延外来患者数	114,615	108,926	120,711	124,313	126,910	年間延べ件数
	紹介件数	972	1,217	1,462	1,707	1,952	年間延べ件数
	逆紹介件数	1,032	1,277	1,522	1,767	2,012	年間延べ件数
数値目標達成に向けての具体的な取組及び実施時期	民間的経営手法の導入	○平成2年4月1日から医事事務を完全委託化。 ○平成20年4月1日から病院給食業務の民間委託実施。 ○平成20年4月1日から、民間病院等経営経験の民間人を任期付き一般職員(事務長)として採用し経営改革に着手。					
	事業規模・形態の見直し	○平成22年度から地方公営企業法全部適用を前提に制度等の検討を進める。					
	経費削減・抑制対策	【人件費】 1.業務量及び業務内容を判断し、事務職員の適正配置を心がけ、最低限必要な人数で機能するよう非常勤職員の活用を積極的に図る。 2.(H20.7.1実施)平成20年度中の人事異動を進め、平成20年3月31日現在の12名の事務局職員を平成20年9月1日において8名とした。(年間効果額3,900万円) 3.(H20.7.1実施)看護師祝日勤務時間外勤務手当の振替休日シフト。(年間効果額1,200万円) 4.(H20.9.1実施)常勤医師確保による非常勤当直医師数の削減による影響額。(年間効果額2,080万円) 5.(継続的)常勤医師確保による非常勤医師賃金の減(年間効果額約3,200万円) 【委託料】 1.(H20.5.1実施)医事業務委託の複数年契約(年間効果額380万円) 2.(H20.10.1実施)院内医事システムSE駐在委託の見直し(年間効果額460万円) 3.(H20.9.1実施)面会受付業務の見直し(年間効果額200万円) 4.(H20.10.1実施)生活習慣病管理料採用による長期投与見直し(年間効果額2,600万円) 【SPD関連経費】 1.SPDシステムによる在庫管理を徹底するため、専門業者への委託化を進める。(年間効果額2,400万円)					
	収入増加・確保対策	1.(H20.7.1実施)良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、入院基本料7対1を実施(年間効果額4,500万円) 2.(H20.9.1実施)糖尿病教育入院の実施(年間効果額400万円) 3.(H20.8.1実施)亜急性期病床の算定実施(年間効果額2,400万円) 4.(H20.7.1実施)診療報酬精度調査による診療報酬請求の向上(実施効果額5,800万円) 5.(H20.10.1実施)脳神経外科外来の実施による、入院・外来の増(年間効果額1,800万円) 6.(H20.10.1実施)生活習慣病管理料採用による長期投与見直し(年間効果額3,700万円) 7.(H20.9.1～実施)開業医との連携による検体検査受託(年間効果額3,600万円)					
	その他	○CS(患者満足度)、ES(職員満足度)の向上による職員の意識改革及びインフォームドコンセントの適切な対応、接遇向上による「信頼される病院」として接遇マニュアルの見直しを毎年実施 ○職員研修計画に基づき、認定看護師及び専門看護師の養成を目指し、院内における看護技術の向上を図る ○医療クラークの養成により、医師が診療に専念できる体制づくりを行う					
	各年度の収支計画	別紙のとおり					
	その他の特記事項	病床利用率の状況 17年度 87.9% 18年度 90.0% 19年度 80.0% 病床利用率の状況を踏まえた病床数等の抜本見直し、施設の増改築計画の状況等 当面、亜急性期13床を含む136床で運営する計画。					

再編・ネットワーク化に係る計画	二次医療圏内の公立病院等配置の現況	当院が所在する神奈川県横須賀三浦保健医療圏には、公立病院が4病院所在。 (横須賀市立うわまち病院、横須賀市立市民病院(横須賀市840床)、国立病院機構久里浜アルコール症センター(横須賀市100床)、三浦市立病院(三浦市136床)※いずれも一般・療養病床の合計を記載)	
	都道府県医療計画等における今後の方向性	公立病院間、同一医療圏地域内病院間等におけるネットワーク化を中心とする連携について検討を行う。	
	再編・ネットワーク化計画の概要及び当該病院における対応計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時 期> 平成21年度	<内 容> ○公立病院間、同一医療圏地域内病院間等におけるネットワーク化を中心とする連携について、県及び関係市が協調して取り組む。 ○「県関係市連絡会議」等により県、関係市と協議等を進め、地域における検討(「地域検討会議」設置)の必要性について、結論を得る。
経営形態見直しに係る計画	経営形態の現況 (該当箇所)		
	経営形態の見直し(検討)の方向性 (該当箇所) 討中の場合は複数可)		
	経営形態見直し計画の概要 (注) 1 詳細は別紙添付 2 具体的な計画が未定の場合は、①検討・協議の方向性、②検討・協議体制、③検討・協議のスケジュール、結論を取りまとめる時期を明記すること。	<時 期> 平成22年4月	<内 容> ・平成22年度から地方公営企業法全部適用を前提に制度等の検討を進める。また、平成23年度末において、24年度以降、経常利益を安定して出せる見込みが立てられない場合は、他の経営形態への移行を前提に取組みを進めていく。
点検・評価・公表等	点検・評価・公表等の体制 (委員会等を設置する場合その概要)	点検・評価・公表等の手段としては、 ア ホームページに掲載するとともに、意見募集ボタンを設定し閲覧者からの意見を集約する方法を取り入れたい。平成21年4月から運用開始できるよう、市統計情報課と協議しホームページ上の対応を実施していく。 イ 市議会の病院を審議する「都市厚生常任委員会」及び「財政健全化対策特別委員会」に報告し、意見等を集める方法を講じる。 ウ 市広報紙「三浦市民」を活用し、市民に公表するとともに意見等の募集窓口を知らしめ、電話・郵送による意見募集を行う。	
	点検・評価の時期(毎年〇月頃等)	毎年8月頃	
その他特記事項		今後の収益の確保又は費用の削減について、計画を達成できない場合は、更なる費用の削減、繰入金金の増額等により、別紙1の「単年度資金不足額(※)」の水準(累積ベースの資金不足(別紙1の(H)の額)解消後(24年度以降)は、新たな単年度資金不足を発生させないこと)の達成を図ることとする。	

公営企業経営健全化計画(三浦市立病院改革プラン収支計画) 達成状況

○事業計画に関すること

※計画はH20から

項目		単位	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
			決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算
入院	患者延数(退院含まず)	(A)	人	37,313	30,655	33,647	36,291	40,633	41,990	39,299	41,244
	1日平均患者数	(B)	人	101.9	84.0	92.2	99.4	111.0	115.0	107.7	112.7
	1日1人平均診療費	(C)	円	31,536	33,116	33,370	31,078	32,559	32,278	33,352	35,118
病床利用率		(D)	%	75.0	61.8	67.8	73.1	81.6	84.6	79.2	82.9
外来	患者延数	(E)	人	114,615	101,967	104,724	95,461	103,636	103,393	106,038	99,395
	1日平均患者数	(F)	人	467.8	416.2	432.7	392.8	424.7	422.0	434.6	407.4
	1日1人平均診療費	(G)	円	5,528	5,753	5,922	6,558	6,716	6,804	6,688	7,496
職員数	(H)	人		(1)	(3)	(3)	(3)	(2)	(2)	(1)	(1)
			136	121	114	96	114	116	133	133	131
	管理者	人	0	0	0	1	1	1	1	1	1
	医師	人	13	11	12	12	14	14	14	13	13
	事務	人	12	6	7	8	8	7	10	9	9
	看護師	人	76	75	70	56	72	73	78	80	79
	准看護師	人	10	9	7	4	4	2	1	0	0
	医療技術	人	25	20	18	15	15	19	29	30	29
	労務	人	0		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(0)	(0)
										0	0

H27		
計画	決算	決算－計画
43,078	41,244	△1,834
117.7	112.7	△5.0
32,008	35,118	3,110
86.5	82.9	△3.6
128,576	92,442	△36,134
524.8	380.4	△144.4
6,037	7,496	1,459
(0)	(1)	(1)
142	131	△11
(0)	(0)	(0)
1	1	0
(0)	(0)	(0)
16	13	△3
(0)	(0)	(0)
8	9	1
(0)	(1)	(1)
90	79	△11
(0)	(0)	(0)
10	0	△10
(0)	(0)	(0)
17	29	12
(0)	(0)	(0)
0	0	0

○収支計画に関すること

項目		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
		決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算	決算
経常損益(経常利益or経常損失)	(U)	△571,957	△562,507	△350,212	△3,750	137,291	255,602	108,441	87,195	73,196
純損益(純利益or純損失)	(V)	△575,472	△396,103	△20,097	170,175	117,513	250,244	94,991	4,268	72,945
資本的収支差額	(Y)	△88,959	△90,588	△57,351	△75,469	△217,639	△222,625	△222,236	△217,592	△208,582
単年度資金収支額	(Z)	△392,189	329,520	350,339	267,128	18,288	138,957	12,394	73,345	70,565
地方財政法上の資金の不足額	(7)	561,208	792,888	649,349	382,221	203,097	△98,451	△275,212	△514,724	△699,328
解消可能資金不足額	(7)	0	561,200	768,000	768,000	607,164	444,573	280,206	114,039	0
公立病院特例債残高	(±)	0	561,200	561,200	561,200	450,745	339,405	227,172	114,039	0
退職手当債残高	(+)	0	0	206,800	206,800	156,419	105,168	53,034	0	0
健全化法上の資金の不足額	(h) (7)-(7)	561,208	231,688	△118,651	△385,779	△404,067	△543,024	△555,418	△628,763	△699,328

H27		
計画	決算	決算－計画
148,125	73,196	△74,929
145,977	72,945	△73,032
△191,720	△208,582	△16,862
77,555	70,565	△6,990
△524,564	△699,328	△174,764
0	0	0
0	0	0
0	0	0
0	0	0
△524,564	△699,328	△174,764

【計画達成のポイント】 H20年度作成の公営企業経営健全化計画(公立病院改革プラン収支計画)で、以下の3つのポイントを達成出来れば、計画が達成されたとみなされます。

- (a)、H20年度計画作成以降、毎年必ず単年度資金収支額(Z)を黒字とする。基準外繰入金が見込めないH23年度以降は苦しいが、それでも現金の資金収支は若干でも黒字とし、資金不足額を解消していく。その結果、健全化法上の資金の不足額(h)はH21年度に解消され、地方財政法上の資金の不足額(7)もH24年度に解消される。
- (b)、H23年度以降、経常損益(U)の黒字化。→「H23年度末において、H24年度以降、経常利益を安定して出せる見込みが立てられない場合は、他の経営形態への移行を前提に取組みを進めていく。」と記述。
- (c)、健全化法上の資金の不足額(h)を、毎年実績で下回らないこととし、H27年度に公立病院特例債の償還を終えること。H27年度には、524,564千円の余剰資金が残り、経営の健全化が図られていること。

公営企業経営健全化計画（三浦市立病院改革プラン収支計画）の概要 決算推移

項目		計算式	単位	H19決算	H20決算	H21決算	H22決算	H23決算	H24決算	H25決算	H26決算	H27決算
入院	患者延数(退院含まず)	(A)	人	37,313	30,655	33,647	36,291	40,633	41,990	39,299	40,047	41,244
	1日平均患者数	(B)	人	101.9	84.0	92.2	99.4	111.0	115.0	107.7	109.7	112.7
	1日1人平均診療費	(C)	円	31,536	33,116	33,370	31,078	32,559	32,278	33,352	35,287	35,118
病床利用率		(D)	%	75.0	61.8	67.8	73.1	81.6	84.6	79.2	80.7	82.9
外来	患者延数	(E)	人	114,615	101,967	104,724	95,461	103,636	103,393	106,038	99,395	92,442
	1日平均患者数	(F)	人	467.8	416.2	432.7	392.8	424.7	422.0	434.6	407.4	380.4
	1日1人平均診療費	(G)	円	5,528	5,753	5,922	6,558	6,716	6,804	6,688	7,064	7,496
年度末職員数 ()は外書で 再任用 短時間勤務職員		(H)	人	136	121	114	96	114	116	133	133	131
	管理者		人	0	0	0	1	1	1	1	1	1
	事務		人	12	6	7	8	8	7	10	9	9
	医師		人	13	11	12	12	14	14	14	13	13
	看護師		人	76	75	70	56	72	73	78	80	79
	准看護師		人	10	9	7	4	4	2	1	0	0
	医療技術		人	25	20	18	15	15	19	29	30	29
	労務		人			(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	0	0

項目		計算式	単位	H19決算	H20決算	H21決算	H22決算	H23決算	H24決算	H25決算	H26決算	H27決算
収益的収支	収益的収入(税抜)	(I) (J)+(M)+(N)	千円	2,233,258	2,247,390	2,555,306	2,396,111	2,492,666	2,527,451	2,478,249	2,591,195	2,603,148
	医業収益	(J)	千円	2,115,411	1,941,384	2,083,186	2,067,763	2,340,435	2,367,568	2,332,695	2,427,724	2,447,716
	うち入院収益	(K)	千円	1,176,719	1,015,185	1,122,806		1,322,966	1,355,368	1,310,715	1,413,150	1,448,394
	うち外来収益	(L)	千円	633,604	586,580	620,216	625,986	696,046	703,534	709,178	702,116	692,947
	医業外収益	(M)	千円	117,847	137,088	134,588	144,076	152,231	159,883	145,554	162,333	155,432
	基準外繰入(特別利益)	(N)	千円	0	169,018	337,532	184,272	0	0	0	1,138	0
	収益的支出(税抜)	(O) (P)+(S)+(T)	千円	2,808,730	2,643,493	2,575,403	2,225,936	2,375,153	2,277,207	2,383,258	2,586,927	2,530,203
	医業費用	(P)	千円	2,643,971	2,477,293	2,427,809	2,081,339	2,248,490	2,175,187	2,259,115	2,374,519	2,403,344
	うち職員給与費	(Q)	千円	1,322,443	1,260,910	1,279,700	913,206	1,076,409	1,056,313	1,149,282	1,198,382	1,237,710
	(O)のうち退職手当除く		千円	1,248,474	1,118,892	1,057,659	865,898	1,017,890	1,048,920	1,128,629	1,150,975	1,155,706
	(O)のうち退職手当	(R)	千円	73,969	142,018	222,041	47,308	58,519	7,393	20,653	47,407	82,004
	医業外費用	(S)	千円	161,244	163,586	140,177	134,250	106,885	96,662	110,693	128,343	126,608
	特別損失	(T)	千円	3,515	2,614	7,417	10,347	19,778	5,358	13,450	84,065	251
	経常損益(経常利益or経常損失)	(U) (I)-(O)	千円	△571,957	△582,507	△350,212	△3,750	137,291	255,602	108,441	87,195	73,196
	純損益(純利益or純損失)	(V) (I)-(O)	千円	△575,472	△396,103	△20,097	170,175	117,513	250,244	94,991	4,268	72,945
資本的収支	資本的収入(税込)	(W)	千円	86,727	668,552	49,224	64,369	91,596	98,812	498,839	115,180	223,483
	資本的支出(税込)	(X)	千円	175,686	759,140	106,575	139,838	309,235	321,437	721,075	332,772	432,065
	資本的収支差額	(Y) (W)-(X)	千円	△88,959	△90,588	△57,351	△75,469	△217,639	△222,625	△222,236	△217,592	△208,582
	単年度資金収支額	(Z)	千円	△392,189	329,520	350,339	267,128	18,288	138,957	12,394	73,345	70,565
	地財法		千円	561,208	792,888	649,349	382,221	203,097	△98,451	△275,212	△514,724	△699,328
	資金の不足額	(7)	千円	26.5	40.8	31.2	18.5	8.7	△4.2	△11.8	△21.2	△28.6
	資金不足比率	(I) (7)/(J)	%									
	解消可能資金不足額	(9)	千円	0	561,200	768,000	768,000	607,164	444,573	280,206	114,039	0
	公立病院特別償還高	(3)	千円	0	561,200	561,200	561,200	450,745	339,405	227,172	114,039	0
	退職手当償還高	(4)	千円	0	0	206,800	206,800	156,419	105,168	53,034	0	0
健全化法	資金の不足額	(8) (7)-(9)-(4)	千円	561,208	231,688	△118,651	△385,779	△404,067	△543,024	△555,418	△628,763	△699,328
	資金不足比率	(8) (8)/(J)	%	26.5	11.9	△5.7	△18.7	△17.3	△22.9	△23.8	△25.9	△28.6

				新会計制度による移行数値		147,601	
				議決による処分額(予定)		626,385	
累積欠損金	(9)	千円	1,762,475	2,158,578	2,178,675	2,008,500	1,890,987
							1,640,743
							1,545,752
							1,393,883
							694,553

3 財務分析

※数値は決算統計から		→ここより新会計制度			単位(千円)		算式 H25まで (会計基準見直し前)	算式 H26から (会計基準見直し後)	説明
区分	年度 ↑ = 改善 ↓ = 悪化	H25 5 個 9 個	H26 7 個 7 個	H27 9 個 5 個					
(1) 固定資産構成比率	(%) 前年比	82.2 ↓	79.6 ↑	51.9 ↑			固 定 資 産 率 総 資 産	変 更 な し	総資産中の固定資産(企業内に長期的に滞留させ短期間に回収されない資産)が、どのくらいの割合かを示す指標で、数値が高いほど、現金等の流動資産が少ないことを示す。
		固定資産 3,345,191	3,179,505	2,087,794					
		総資産 4,069,183	3,995,635	4,020,508			※総資産＝固定資産＋流動資産＋繰延勘定(H26から繰延資産)		
(2) 固定比率 (100以下が理想)	(%) 前年比	552.3 ↑	473.4 ↑	246.8 ↑			固 定 資 産 率 自己資本(自己資本金＋剰余金)	固 定 資 産 率 資本金＋剰余金＋評価差額等＋繰延収益	固定資産は、自己資本(自己資本金＋剰余金)から調達されるべきという企業財政上の原則から、100%以下が理想である。 固定資産に投資した資金が返済義務のない自己資本でどれだけまかなわれているかを見るための指標。
		固定資産 3,345,191	3,179,505	2,087,794					
		資本金 -	1,253,632	1,377,315					
		自己資本金 1,177,371							
		剰余金 △571,642	△767,498	△694,553					
		繰延収益 -	185,517	163,033					
(3) 固定資産対 長期資本比率	(%) 前年比	86.8 ↓	93.3 ↓	59.9 ↑			固 定 資 産 率 資本金＋剰余金＋固定負債	固 定 資 産 率 資本金＋剰余金＋評価差額等＋固定負債＋繰延収益	固定資産がどのような財源で構成されているかを判断するための指標であり、数値は低いほど良い。この数値は100%以下であることが要求され、100%を超える場合は、不良債務が発生していることを意味する。 (この場合不良債務は健全化法上の不良債務)
		固定資産 3,345,191	3,179,505	2,087,794					
		資本金 4,192,045	1,253,632	1,377,315					
		剰余金 △571,642	△767,498	△694,553					
		固定負債 280,206	2,736,339	2,641,999					
		繰延収益 -	185,517	163,033					
(4) 流動比率	(%) 前年比	429.5 ↑	138.9 ↓	176.1 ↑			流 動 資 産 率 流動負債	変 更 な し	数値が100%以上であると、短期的な支払能力が支払義務をまかなって余力あるということで、支払余力があると推測することができる。
		流動資産 723,992	816,130	932,714					
		流動負債 168,574	587,645	532,714					
(5) 当座比率 (酸性試験比率)	(%) 前年比	421.0 ↑	136.8 ↓	168.9 ↑			現 金 預 金 率 流動負債	現 金 預 金 率 流動負債	短期債務に対応すべき現金預金及び容易に現金化しうる未収金が十分であることを示す。 当座比率は分子に棚卸資産等のすぐに換金できない資産を含めない点で流動比率とは異なり、流動比率より厳密な短期的な支払能力を示す指標となる。数値は100%以上が望ましい。
		現金預金 292,867	226,160	351,009					
		未収金 416,832	585,057	557,513					
		貸倒引当金 -	7,121	8,741					
		流動負債 168,574	587,645	532,714					
(6) 自己資本構成比率	(%) 前年比	14.9 ↑	16.8 ↑	21.0 ↑			自 己 資 本 率 負債資本合計	自 己 資 本 率 負債資本合計	総資本(負債資本合計)と自己資本(自己資本金＋剰余金)の関係を示す。 (1)固定負債構成比率が小さく、(6)自己資本構成比率が大きいほど、経営の安定度は大きいと言える。 自己資本比率が高い(総資本に占める自己資本の割合が多い)ほどその企業は返済不要の資本を元手に事業を行っているため経営が安定します。
		自己資本金 1,177,371	0	0					
		剰余金 △571,642	△767,498	△694,553					
		資本金 4,192,045	1,253,632	1,377,315					
		繰延収益 -	185,517	163,033					
		負債資本合計 4,069,183	3,995,635	4,020,508			※負債資本合計＝固定負債＋流動負債＋繰延収益＋資本金＋剰余金		
(7) 自己資本回転率	(%) 前年比	4.7 ↓	3.8 ↓	3.2 ↓			医 業 収 益 率 (期首自己資本＋期末自己資本)×1/2	医 業 収 益 率 (期首自己資本＋期末自己資本)×1/2	回転率が上げれば、収益の源である医業収益が、投下された自己資本と比較して大きく、自己資本が効率よく使われていることを示します。 ただし、急成長している場合、短期借入金などに頼って売上が急上昇し回転率が上昇したり、業績が悪化している場合、自己資本の減少と売上の減少が同時に起こり回転率が悪化しない場合もあるので注意が必要。その他の指標と組み合わせて見る必要がある。
		医業収益 2,332,695	2,427,724	2,447,716					
		期首自己資本 1,109,564	-	-					
		期首期剰余金 △717,763	△779,639	△767,498					
		期末自己資本 1,177,371	0	-					
		期末期末剰余金 △571,642	△767,498	△694,553					
		期首資本金 3,862,958	1,177,371	1,253,632					
		期首繰延収益 -	185,517	163,033					
		期末資本金 4,192,045	1,253,632	1,377,315					
		期末繰延収益 -	185,517	163,033					
(8) 経常収支比率	(%) 前年比	104.6 ↓	103.6 ↓	102.9 ↓			経 常 収 益 率 経 常 費 用	変 更 な し	経常費用に対する経常収益の割合で、数値は高いほど良い。
		経常収益 2,478,249	2,590,057	2,603,148					
		経常費用 2,369,808	2,502,862	2,529,952					
(9) 医業収支比率	(%) 前年比	103.3 ↓	102.2 ↓	101.8 ↓			医 業 収 益 率 医 業 費 用	変 更 な し	医業費用に対する医業収益の割合で、数値は高いほど良い。
		医業収益 2,332,695	2,427,724	2,447,716					
		医業費用 2,259,115	2,374,519	2,403,344					
(10) 平均給与	(千円) 前年比	7,025 ↑	7,016 ↑	6,670 ↑			職 員 給 与 費 率 職 員 数	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。
		基本給 537,948	549,622	540,525					
		手当 403,461	403,946	354,370					
		年間延職員数 1,608	1,631	1,610					
(11) 労働生産性	(千円) 前年比	17,408 ↓	17,862 ↑	18,244 ↑			医 業 収 益 率 職 員 数	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は高いほど良い。
		医業収益 2,332,695	2,427,724	2,447,716					
		年間延職員数 1,608	1,631	1,610					
(12) 労働分配率	(%) 前年比	40.4 ↓	39.3 ↑	36.6 ↑			職 員 給 与 費 率 医 業 収 益	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。
		基本給 537,948	549,622	540,525					
		手当 403,461	403,946	354,370					
		医業収益 2,332,695	2,427,724	2,447,716					
(13) 流動資産回転率	(回) 前年比	3.2 ↓	3.2 ↑	2.8 ↓			医 業 収 益 率 (期首流動資産＋期末流動資産)×1/2	変 更 な し	流動資産回転率が上げれば高いほど、流動資産が効率的に売上に貢献していることとなります。この回転率が低くなる要因としては、滞留在庫や滞留債権の増加などが考えられます。
		医業収益 2,332,695	2,427,724	2,447,716					
		期首流動資産 746,772	723,992	816,130					
		期末流動資産 723,992	816,130	932,714					
(14) 職員給与費比率	(%) 前年比	49.3 ↓	49.4 ↓	50.6 ↓			医 業 収 益 率 職 員 給 与 費	変 更 な し	労働生産性を示す指標。数値は低いほど良い。
		医業収益 2,332,695	2,427,724	2,447,716					
		職員給与費 1,149,282	1,198,382	1,237,710					

V 各種統計資料

1 入院患者数実績

(単位：人)

科目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期	合計
内 科	H27	1,603	1,633	1,525	1,938	1,989	1,740	10,428	1,934	1,665	1,883	1,842	1,600	1,501	10,425	20,853
	H26	2,041	1,944	1,858	2,213	2,032	1,829	11,917	1,936	1,761	1,880	2,017	1,653	1,573	10,820	22,737
	比較	△ 438	△ 311	△ 333	△ 275	△ 43	△ 89	△ 1,489	△ 2	△ 96	3	△ 175	△ 53	△ 72	△ 395	△ 1,884
神 經 内 科	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外 科	H27	657	627	459	629	586	698	3,655	584	400	481	596	502	494	3,057	6,712
	H26	439	521	483	418	599	467	2,927	463	508	447	425	338	579	2,759	5,686
	比較	218	106	△ 25	211	△ 13	231	728	121	△ 108	34	171	164	△ 84	298	1,026
整 形 外 科	H27	1,326	1,225	1,198	924	1,090	1,005	6,768	900	1,088	1,286	1,269	1,215	1,019	6,777	13,545
	H26	994	798	683	554	670	943	4,642	1,057	991	948	1,256	1,140	1,431	6,823	11,465
	比較	332	427	515	370	420	62	2,126	△ 157	97	338	13	75	△ 412	△ 46	2,080
産 婦 人 科	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 児 科	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
眼 科	H27	16	29	21	7	15	8	96	12	11	4	2	6	3	38	134
	H26	12	6	18	20	3	11	70	18	8	12	4	15	32	89	159
	比較	4	23	3	△ 13	12	△ 3	26	△ 6	3	△ 8	△ 2	△ 9	△ 29	△ 51	△ 25
耳 鼻 咽 喉 科	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻 酔 科	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 經 外 科	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌 尿 器 科	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
皮 膚 科	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	H27	3,602	3,514	3,202	3,498	3,680	3,451	20,947	3,430	3,164	3,654	3,709	3,323	3,017	20,297	41,244
	H26	3,486	3,269	3,042	3,205	3,304	3,250	19,556	3,474	3,268	3,287	3,702	3,146	3,614	20,491	40,047
	比較	116	245	160	293	376	201	1,391	△ 44	△ 104	367	7	177	△ 597	△ 194	1,197
果 計	H27	3,602	7,116	10,318	13,816	17,496	20,947	24,377	27,541	31,195	34,904	38,227	41,244			
	H26	3,486	6,755	9,797	13,002	16,306	19,556	23,030	26,296	29,585	33,287	36,433	40,047			
	比較	116	361	521	814	1,190	1,391	1,347	1,243	1,610	1,617	1,794	1,197			
合 退 院 患 者 数	H27	230	243	248	254	248	250	1,483	247	206	236	221	237	233	1,380	2,853
	H26	3,832	3,757	3,450	3,762	3,928	3,701	22,430	3,677	3,370	3,890	3,930	3,560	3,250	21,677	44,107
	比較	3,602	3,514	3,202	3,498	3,680	3,451	20,947	3,430	3,164	3,654	3,709	3,323	3,017	20,297	41,244
診 療 日 数	H27	30	31	30	31	31	30	183	31	30	31	31	29	31	183	366
	H26	30	31	30	31	31	30	183	31	30	31	31	28	31	182	365
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
1 日 者 平 均 数	H27	120	113	107	113	119	115	114	111	105	118	120	115	97	111	113
	H26	116	105	101	103	107	108	107	112	109	106	119	112	117	113	110
	比較	4	8	6	10	12	7	7	△ 1	△ 4	12	1	3	△ 20	△ 2	3
新 生 児	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平 均 在 院 数	新入院	237	237	246	281	244	243	1,488	216	232	228	232	216	236	1,360	2,848
	退院	230	243	248	264	248	250	1,483	247	206	236	221	237	233	1,380	2,863
	H27	16.5	16.2	14.0	13.9	15.7	15.3	15.2	16.0	16.1	17.0	17.6	15.9	14.3		15.7
短 期 滞 在 患 者 数	H26	14.8	14.8	13.7	13.2	16.1	14.7	14.6	14.3	16.2	12.7	16.8	14.5	15.1		14.7
	比較	1.7	1.4	0.3	0.6	△ 0.5	0.5	0.6	1.7	△ 0.1	4.3	0.9	1.5	△ 0.9		0.9
	H27	31	47	36	40	22	41	217	33	45	34	32	36	46	226	443

2 外来患者数実績

(単位：人)

科目	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	後期	合計
内 科	H27	2,815	2,562	2,664	2,818	2,735	2,586	16,180	2,792	2,684	2,787	2,762	2,865	3,020	16,910	33,090
	H26	3,053	3,001	2,926	3,101	3,207	3,002	18,290	3,095	2,852	3,446	3,598	2,843	3,054	18,888	37,178
	比較	△ 238	△ 439	△ 262	△ 283	△ 472	△ 416	△ 2,110	△ 303	△ 168	△ 659	△ 836	22	△ 34	△ 1,978	△ 4,088
神 経 内 科	H27	174	160	169	176	158	140	977	184	169	158	168	157	173	1,009	1,986
	H26	161	159	158	158	170	173	979	165	163	165	164	151	163	971	1,950
	比較	13	1	11	18	△ 12	△ 33	△ 2	19	6	△ 7	4	6	10	38	36
外 科	H27	746	752	773	872	802	795	4,740	837	764	744	704	768	802	4,619	9,359
	H26	788	731	768	887	853	945	4,972	806	779	790	825	748	794	4,742	9,714
	比較	△ 42	21	5	△ 15	△ 51	△ 150	△ 232	31	△ 15	△ 46	△ 121	20	8	△ 123	△ 355
整 形 外 科	H27	2,445	2,207	2,538	2,657	2,290	1,960	14,097	2,405	2,111	2,124	2,073	2,186	2,309	13,208	27,305
	H26	2,586	2,484	2,781	2,719	2,502	2,545	15,617	2,535	2,122	2,303	2,194	2,143	2,432	13,729	29,346
	比較	△ 141	△ 277	△ 243	△ 62	△ 212	△ 585	△ 1,520	△ 130	△ 11	△ 179	△ 121	43	△ 123	△ 521	△ 2,041
産 婦 人 科	H27	108	107	174	121	127	121	758	133	163	132	156	138	141	863	1,621
	H26	129	121	128	138	135	115	766	189	148	144	115	145	155	896	1,662
	比較	△ 21	△ 14	46	△ 17	△ 8	6	△ 8	△ 56	15	△ 12	41	△ 7	△ 14	△ 33	△ 41
小 児 科	H27	177	175	232	242	218	215	1,259	239	259	268	229	317	231	1,543	2,802
	H26	197	179	155	225	153	196	1,105	224	253	316	262	251	301	1,607	2,712
	比較	△ 20	△ 4	77	17	65	19	154	15	6	△ 48	△ 33	66	△ 70	△ 64	90
眼 科	H27	591	536	614	599	566	426	3,332	575	530	550	470	541	479	3,145	6,477
	H26	569	618	592	625	587	497	3,488	670	549	572	507	534	581	3,413	6,901
	比較	22	△ 82	22	△ 26	△ 21	△ 71	△ 156	△ 95	△ 19	△ 22	△ 37	7	△ 102	△ 268	△ 424
耳 鼻 咽 喉 科	H27	276	214	293	265	268	248	1,564	259	249	250	207	278	291	1,534	3,098
	H26	333	298	281	317	313	275	1,817	310	265	244	209	272	373	1,673	3,490
	比較	△ 57	△ 84	12	△ 52	△ 45	△ 27	△ 253	△ 51	△ 16	6	△ 2	6	△ 82	△ 139	△ 392
麻 酔 科	H27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	比較	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳 神 経 外 科	H27	149	149	144	148	122	123	835	179	119	135	133	156	138	860	1,695
	H26	144	137	135	147	150	140	853	166	147	116	151	119	148	847	1,700
	比較	5	12	9	1	△ 28	△ 17	△ 18	13	△ 28	19	△ 18	37	△ 10	13	△ 5
泌 尿 器 科	H27	206	195	218	206	216	183	1,224	207	217	210	200	193	190	1,217	2,441
	H26	160	239	189	212	176	235	1,211	217	171	228	198	186	220	1,220	2,431
	比較	46	△ 44	29	△ 6	40	△ 52	13	△ 10	46	△ 18	2	7	△ 30	△ 3	10
皮 膚 科	H27	204	177	263	225	234	211	1,314	240	156	208	221	193	236	1,254	2,568
	H26	179	205	176	203	216	191	1,170	175	192	171	177	207	219	1,141	2,311
	比較	25	△ 28	87	22	18	20	144	65	△ 36	37	44	△ 14	17	113	257
合 計	H27	7,891	7,234	8,082	8,329	7,736	7,008	46,280	8,050	7,421	7,566	7,323	7,792	8,010	46,162	92,442
	H26	8,299	8,172	8,289	8,732	8,462	8,314	50,268	8,552	7,641	8,495	8,400	7,599	8,440	49,127	99,395
	比較	△ 408	△ 938	△ 207	△ 403	△ 726	△ 1,306	△ 3,988	△ 502	△ 220	△ 929	△ 1,077	193	△ 430	△ 2,965	△ 6,953
累 計	H27	7,891	15,125	23,207	31,536	39,272	46,280	54,330	61,751	69,317	76,640	84,432	92,442			
	H26	8,299	16,471	24,760	33,492	41,954	50,268	58,820	66,461	74,956	83,356	90,955	99,395			
	比較	△ 408	△ 1,346	△ 1,553	△ 1,956	△ 2,682	△ 3,988	△ 4,490	△ 4,710	△ 5,639	△ 6,716	△ 6,523	△ 6,953			
平 日	H27	7,794	7,016	8,011	8,199	7,556	6,851	45,427	7,933	7,326	7,339	7,083	7,598	7,817	45,096	90,523
診 療 日 数	H27	21	18	22	22	21	19	123	21	19	19	19	20	22	120	243
	H26	21	20	21	22	21	20	125	22	18	19	19	19	22	119	244
平 日 日 数	H27	21	18	22	22	21	19	123	21	19	19	19	20	22	120	243
1 日 平 均 患 者 数	H27	376	402	367	379	368	369	376	383	391	398	385	390	364	385	380
	H26	395	409	395	397	403	416	402	389	425	447	442	400	384	413	407
	比較	△ 19	△ 7	△ 28	△ 18	△ 35	△ 47	△ 26	△ 6	△ 34	△ 49	△ 57	△ 10	△ 20	△ 28	△ 27
1 日 平 均 患 者 数 (平 日)	H27	371	390	364	373	360	361	369	378	386	386	373	380	355	376	373

3 救急患者数実績

(1) 集計期間 平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

(2) 区分 休日：日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日、
12 月 29 日から翌年の 1 月 3 日までの日
平日：休日以外の日

(3) 男女別 (単位：人)

区分	男	女	合 計
休日	770	752	1,522
平日	1,255	1,365	2,620
合計	2,025	2,117	4,142

(4) 年齢別 (単位：人)

区分	0～9	10～19	20～59	60～	合 計
休日	34	67	674	747	1,522
平日	46	101	786	1,687	2,620
合計	80	168	1,460	2,434	4,142

(5) 地域別 (単位：人)

区分	三 浦 市	横 須 賀 市	県 内 (除： 三浦・横須賀)	県 外	合 計
休日	1,292	62	0	168	1,522
平日	2,268	155	0	197	2,620
合計	3,560	217	0	365	4,142

(6) 科別患者数 (単位：人)

区分	内科	外科	整形 外科	脳神経 外科	産婦 人科	小児科	眼科	耳鼻咽 喉科	泌尿 器科	皮膚科	その他	合 計
休日	1,063	268	178	0	0	0	1	0	7	0	5	1,522
平日	1,807	402	374	1	0	1	2	0	20	4	9	2,620
合計	2,870	670	552	1	0	1	3	0	27	4	14	4,142

(7) 来院手段別患者数

(単位：人)

区分	救 急 車	パ ト カ ー	そ の 他	合 計
休日	273	0	1,249	1,522
平日	1,133	0	1,487	2,620
合計	1,406	0	2,736	4,142

(8) 時間帯別患者数

(単位：人)

区分	17～18	18～22	22～24	0～6	6～8	8～8:30	8:30～9	9～17	合 計
休日	104	213	33	65	64	60	78	905	1,522
平日	222	730	166	238	128	64	70	1,002	2,620
合計	326	943	199	303	192	124	148	1,907	4,142

(9) 処置状況

(単位：人)

区分	外 来	入 院	他医療機関紹介	そ の 他	合 計
休日	1,330	171	3	18	1,522
平日	1,952	563	10	95	2,620
合計	3,282	734	13	113	4,142

VI スタッフ一覧

平成 28 年 3 月 31 日現在

総 病 院 長 小 澤 幸 弘
副 管 理 者 石 渡 秀 朗

(薬 剤 科)

科 長 猪 崎 佐 和 子
主 任 薬 剤 師 今 村 里 絵
薬 剤 師 福 本 哲 也
薬 剤 師 加 藤 慈
薬 剤 師 長 谷 川 澄 子
薬 剤 師 太 田 健 介

【診 療 部】

診 療 部 長 木 谷 勇 一

(内 科)

医 長 齊 藤 真
担 当 医 長 兒 玉 康 史
担 当 医 長 兒 玉 末
担 当 医 長 堀 内 俊 治
担 当 医 長 森 琢 磨

(リハビリテーション科)

技 師 長 清 水 隆 人
主 任 技 師 水 野 智 明
理 学 療 法 士 藤 田 千 穂
作 業 療 法 士 後 藤 健 太 郎
理 学 療 法 士 重 枝 利 佳
理 学 療 法 士 藤 井 伸 行
理 学 療 法 士 鈴 木 和 美
理 学 療 法 士 池 田 正 孝
理 学 療 法 士 浅 田 浩 宜
作 業 療 法 士 竹 内 晃 雄
理 学 療 法 士 吉 田 朱 里
理 学 療 法 士 林 賢 治
理 学 療 法 士 押 越 里 枝
理 学 療 法 士 泉 谷 貴 之

(外 科)

医 師 和 田 博 雄
医 師 川 邊 泰 一

(整 形 外 科)

科 部 長 内 川 健
医 長 石 田 良 太

(産 婦 人 科)

科 部 長 大 庭 信 彰

(小 児 科)

科 部 長 五 味 渕 一 三

(眼 科)

医 師 望 月 至

(放 射 線 科)

技 師 長 久 保 隆
主 任 技 師 加 藤 静
診 療 放 射 線 技 師 月 松 望 由 紀
診 療 放 射 線 技 師 加 藤 大 己

【診 療 支 援 部】

診 療 支 援 部 長 五 味 渕 一 三

(臨 床 検 査 科)

技 師 長 鈴 木 正 芳

主 任 技 師	島 崎 時 朗	看	護 師	高 杉 有 希 子
臨 床 檢 査 技 師	渡 邊 真 由	看	護 師	大 林 嬢 子
臨 床 檢 査 技 師	足 立 直 彦	看	護 師	鈴 木 安 代
		看	護 師	長 島 好 美
(地 域 医 療 科)		看	護 師	水 野 美 樹
科 長	原 美 智 子	看	護 師	山 崎 渚
担 当 医 長	兒 玉 末	看	護 師	西ノ園 由 貴
主 任 社 会 福 祉 士	安 藤 麻 由 美	看	護 師	能 隅 智 子
主 任 看 護 師	中 川 恵	看	護 師	一 山 春 花
看 護 師	石 川 智 子	看	護 師	鈴 木 裕 子
		看	護 師	田 中 朋 美
(医 療 安 全 管 理 室)		看	護 師	飯 島 彩 綾
室 長	五味 洵 一 三		(3 階 病 棟)	
主 幹	猪 崎 佐 和 子		長 任	市 川 夏 実
主 幹	鈴 木 正 芳	師 主	任	高 西 かな 子
次 長	矢 尾 板 昌 克	主	任	下 里 未 来
主 任 薬 剤 師	今 村 里 絵	主	師	吉 田 美 智 子
主 任 技 師	島 崎 時 朗	看	護 師	大 井 雪 子
主 任 看 護 師	杉 崎 絵 美	看	護 師	長 谷 川 嘉 寛
主 事	荒 井 佳 代 子	看	護 師	竹 内 馨
看 護 師	後 藤 令 子	看	護 師	瀨 古 澤 和 子
		看	護 師	高 橋 さ つ き
【看 護 部】		看	護 師	上 田 峰 子
看 護 部 長	嘉 山 静 子	看	護 師	石 塚 仁
主 幹	中 條 郁 代	看	護 師	岡 野 恵 美
主 幹	原 美 智 子	看	護 師	田 中 絵 利 香
		看	護 師	蛭 田 千 香 子
(2 階 病 棟)		看	護 師	山 中 好 美
師 長	中 條 郁 代	看	護 師	高 橋 宏 美
主 任	山 本 浩 文	看	護 師	松 崎 彩
主 任	原 田 左 和 子	看	護 師	脇 本 共 子
看 護 師	中 尾 裕 子	看		
看 護 師	松 井 紀 子		(4 階 病 棟)	
看 護 師	君 島 直 美		長 任	鈴 木 三 恵 子
看 護 師	阿 部 久 美 子	師 主		山 崎 静 枝
看 護 師	鈴 木 雪 江			

主	任	渡 辺	みゆき	看	護 師	立 川 弥 主 子
看	護	森	和 代		(看 護 教 育 室)	
看	護	池 田	安 弘	師	長	舘 林 美 加 子
看	護	宮 村	純 子	主	任	杉 崎 絵 美
看	護	石 黒	菜 穂	看	護 師	後 藤 令 子
看	護	崎 山	美 緒			
看	護	原	か お り		【事 務 局】	
看	護	鈴 木	未 来	事	務 長	石 渡 秀 朗
看	護	佐 藤	誠		(総 務 課)	
看	護	石 渡	綾 子		長	矢 尾 板 昌 克
看	護	一 條	生 久	課	査	木 賀 恵 子
看	護	伊 東	千 瑞 子	主	査	金 枝 晃 芳
看	護	竹 内	友 美	主	任	南 雄 大
看	護	川 平	朝 克	主	事	齋 藤 俊
看	護	益 島	美 帆			
看	護	水 野	佳 苗			
	(手 術 室)			(医 事 課)		
師	長	下 地	福 子	課	長	石 渡 秀 朗
看	護	平 島	龍 一	主	査	梅 木 麗 香
看	護	安 田	佳 恵	主	事	荒 井 佳 代 子
看	護	関 本	藍		(栄 養 課)	
看	護	三 浦	朋 夏	課	長	矢 尾 板 昌 克
	(外 来)			主 任 栄 養 士		嘉 山 有 太
師	長	園 田	恵 美 子			
主	任	柴 田	弘 子			
主	任	長 田	泰 代			
主	任	宮 越	郁 子			
看	護	上 田	み どり			
看	護	大 竹	民 子			
看	護	一 ツ 谷	麻 衣 子			
看	護	岸 田	美 智 子			
看	護	萩 原	京 子			
看	護	四 竈	三 佳			
看	護	富 永	真 衣			

VII 編集後記

当院の年報委員会を再編してから、4回目の病院年報をお届けすることとなりました。

振り返りますと、平成 27 年度も当院にとって激動の 1 年であったと感じています。1 日当たり約 380 人の外来患者さん、約 110 人の入院患者さんに安全で質の高い医療を提供する日々の努力のほか、三浦市民健康大学の開催、「在宅療養を考えるつどい～地域で支える在宅療養を考える～」シンポジウム開催、三浦市民健康大学オープンキャンパス開催などなど、“「三浦ならではの」地域医療の確立”のための新たな取組を職員が一丸となって進めて参りました。

「本年報の拙い編集作業の経験を活かし、より良い年報の作成に傾注すること」をお約束いたしますので、引き続きご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ですが、乱筆、乱文、乱調をお詫び申し上げ、編集後記といたします。

三浦市立病院年報委員会

委 員 長	佐 藤 安 志 (事 務 局 長)
副 委 員 長	嘉 山 静 子 (看 護 部)
委 員	原 美 智 子 (地 域 医 療 科)
	矢 尾 板 昌 克 (総 務 課)
	藤 井 伸 行 (リハビリテーション科)
	加 藤 大 己 (放 射 線 科)
	足 立 直 彦 (臨 床 検 査 科)
	長 谷 川 澄 子 (薬 剤 科)
	南 雄 大 (総 務 課)

三浦市立病院年報 第 28 号

発 行 日	2017 年 3 月
編 集 発 行	〒238－0222 神奈川県三浦市岬陽町 4 番 33 号 三浦市立病院年報委員会
電 話	046－882－2111
F A X	046－881－7527
発 行 責 任 者	事務局長 佐藤 安志